

障がい者福祉計画
策定のためのアンケート調査
報告書

平成 26 年
生 駒 市

目 次

I 調査の概要

1. 調査目的	1
2. 調査期間	1
3. 調査対象者等	1
4. 調査方法	1
5. 調査項目	1
6. 報告書の見方	2

II 市民アンケート調査の結果

1. 回答者の状況	3
2. 日常生活の状況	17
3. 福祉サービスの利用について	31
4. 保健・医療について	37
5. 就労支援について	40
6. 相談支援や情報提供について	43
7. 災害時の避難などについて	47
8. 権利擁護などについて	52
9. 自由記述	62

参考 市民アンケート調査票

○ 市民アンケート調査票	67
--------------	----

I 調査の概要

1. 調査目的

障がい者の意識や生活実態、福祉サービスの課題を的確に把握し、障がい者福祉計画策定の基礎資料とするため、利用者意識調査を実施する。

2. 調査期間

平成 26 年 5 月～6 月

3. 調査対象者等

(1) 調査対象者

◇身体障害者手帳をお持ちの人	513 人
◇療育手帳をお持ちの人	272 人
◇精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人	215 人
合 計	1,000 人

(2) 回収状況

◇身体障害者手帳をお持ちの人	340 人	} 計 636 人 (55 人は、複数の手帳を所有、3 種類の所有はなし)
◇療育手帳をお持ちの人	173 人	
◇精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人	123 人	
◇手帳名不明 (無記入)	13 人	
合 計	649 人	
回答者数	594 人	
回収率	59.4%	

4. 調査方法

郵送による配布・回収

5. 調査項目

- ① 回答者の属性……年齢、性別、居住地、世帯構成、手帳の種類・等級、住まいの種類 など
- ② 日常生活動作……生活動作での支援、介助者、日中の過ごし方、外出の目的・頻度・困ること、日常生活の心配 など
- ③ サービスの利用状況……サービスの利用状況・種類、サービスを利用しない理由、今後必要なサービス など
- ④ 保健・医療……通院状況、医療で困っていること
- ⑤ 就労支援……就労の意向、就労支援として必要なこと
- ⑥ 相談支援・情報提供……相談先、情報の入手先
- ⑦ 災害時の避難……避難する際の介助の必要性、近隣で支援してくれる人の有無、災害時の支援内容
- ⑧ 権利擁護……地域福祉権利擁護事業の認知度・利用状況、成年後見制度の認知度・利用状況、障害者虐待防止センターの認知度、差別などの経験の有無・場

- 所、必要と思う施策・事業
- ⑨ 自由記述

6. 報告書の見方

- ① 集計結果は、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%にならないことがある。複数回答を求めた設問は、回答者に対する割合を示しているので合計が100%を超える。
- ② 「全体（回答者 計）」は、回答者数（594）であり、「合計」は複数回答の場合の回答総数を指し、「該当者」は回答者を特定した場合の母数を表している。
- ③ 本文中の質問文及び選択肢などについて、長い文については簡略化して用いている。
- ④ 分析にあたっては、障がいの種別ごとに「子ども（18歳以下）」と「大人（19歳以上）」、「重度（1級・2級）」「軽度（3～6級）」などを区分し『障がいの種別（年代別）』として整理している。（手帳名や等級・年齢などが無記入の27人（実数）を除く）

◇身体・子ども……「身体障害者手帳」をお持ちの18歳以下の人

【該当者数＝28人】

◇身体（重度）……「身体障害者手帳」をお持ちの19歳以上で1級・2級の人

【該当者数＝141人】

◇身体（軽度）……「身体障害者手帳」をお持ちの19歳以上で3～6級の人

【該当者数＝156人】

◇知的・子ども……「療育手帳」をお持ちの18歳以下の人

【該当者数＝65人】

◇知的・大人……「療育手帳」をお持ちの19歳以上の人

【該当者数＝106人】

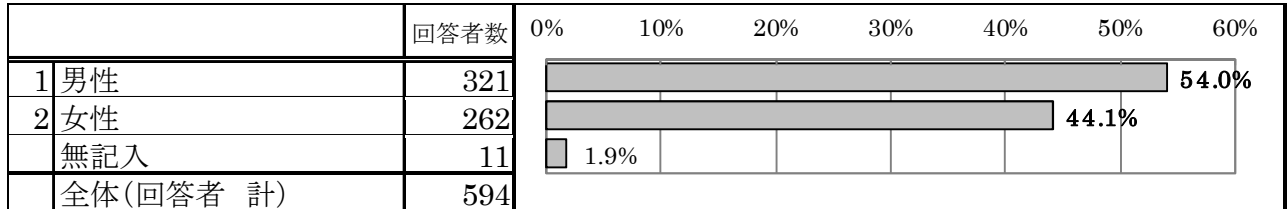
◇精神障がい……「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの人

【該当者数＝123人】

Ⅱ 市民アンケート調査の結果

1. 回答者の状況

1) 性別

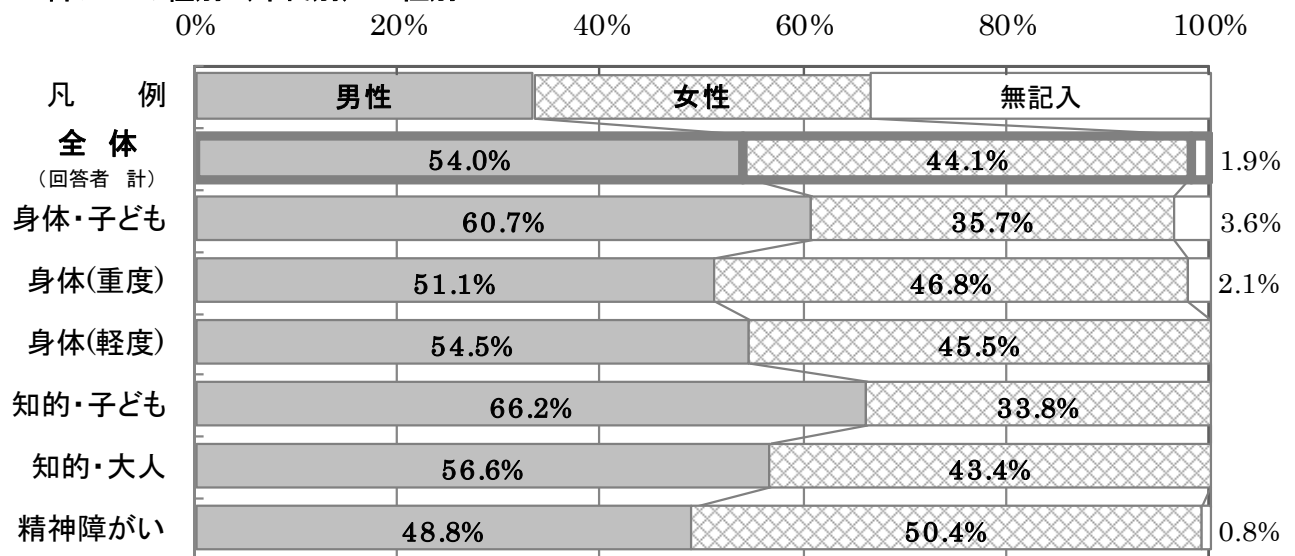


回答者の性別は、「男性」が 54.0%、「女性」が 44.1%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、“知的・子ども”“身体・子ども”は「男性」が 6 割を超えており、“身体（重度）”“身体（軽度）”“知的・大人”は「男性」が半数を超えている。

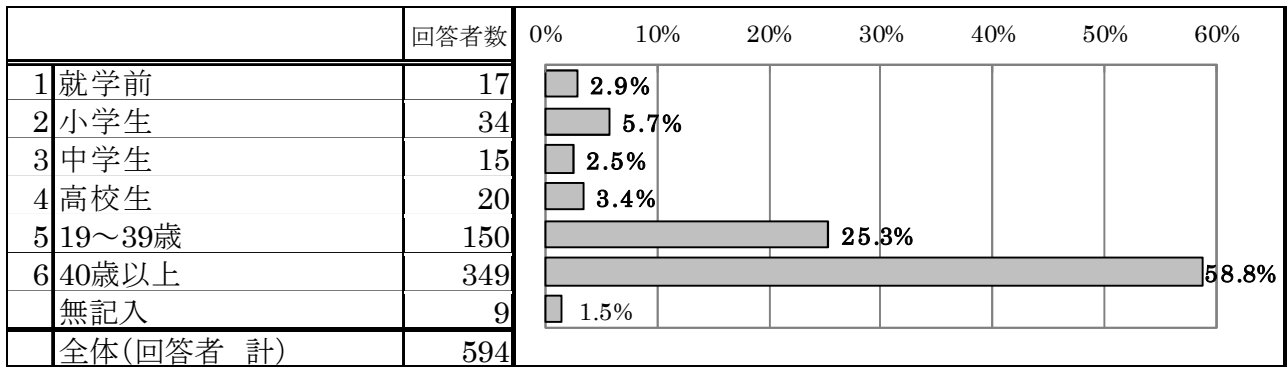
また、“精神障がい”は「女性」が半数を超えている。

《障がいの種別（年代別） 性別》



※身体（軽度）、知的・子ども、知的・大人の「無記入」の 0.0%は省略

2) 年齢（平成 26 年 4 月 1 日現在）



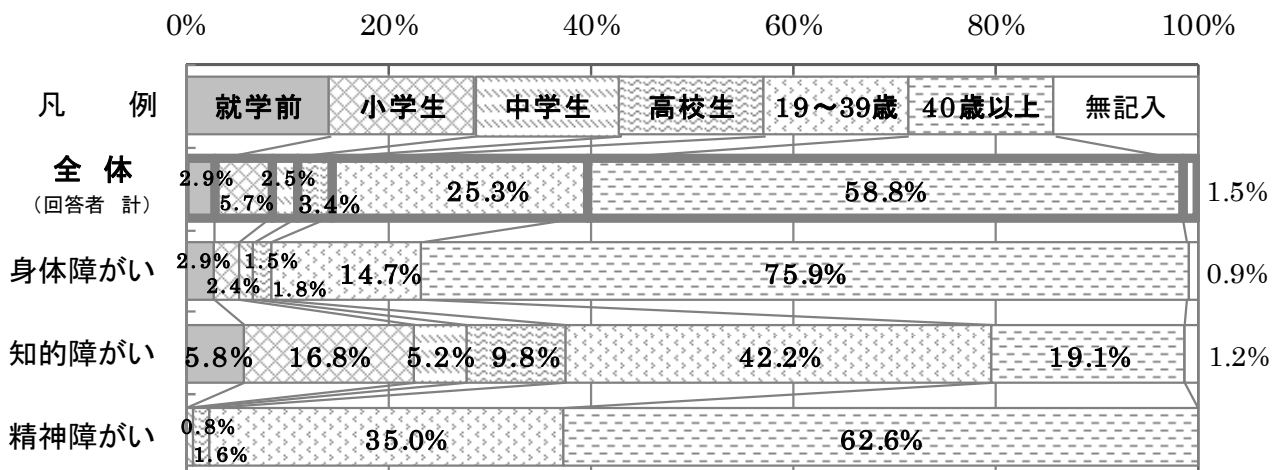
回答者の年齢は、「40 歳以上」が 58.8%と最も多く、次いで「19～39 歳」が 25.3%、「小学生（7～12 歳）」が 5.7%となっている。なお、18 歳以下（「就学前（0～6 歳）」～「高校生（16～18 歳）」の計）は、86 人で 14.5%となっている。

障がいの種別でみると、“身体障がい”は、「40 歳以上」が 75.9%と 7 割を超えており、次いで「19～39 歳」が 14.7%、「就学前（0～6 歳）」が 2.9%、「小学生（7～12 歳）」が 2.4%、「高校生（16～18 歳）」が 1.8%、「中学生（13～15 歳）」が 1.5%となっている。

“知的障がい”は、「19～39 歳」が 42.2%と最も多く、次いで「40 歳以上」が 19.1%、「小学生（7～12 歳）」が 16.8%、「高校生（16～18 歳）」が 9.8%、「就学前（0～6 歳）」が 5.8%、「中学生（13～15 歳）」が 5.2%となっている。

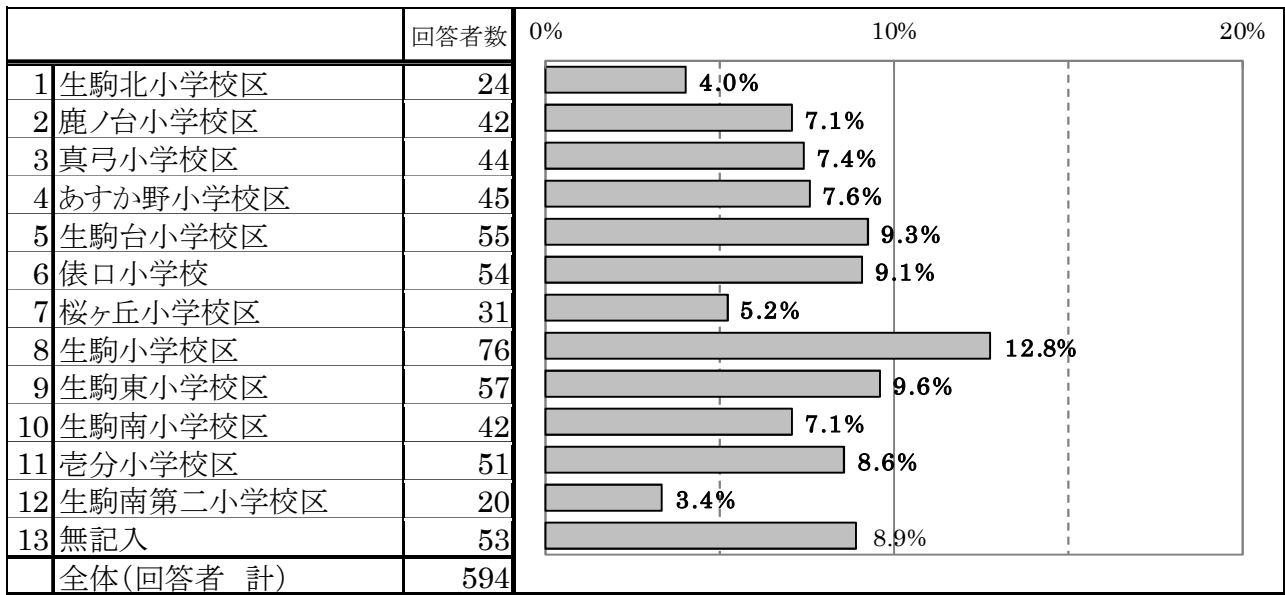
“精神障がい”は、「40 歳以上」が 62.6%と最も多く 6 割を超えており、次いで「19～39 歳」が 35.0%、「高校生（16～18 歳）」が 1.6%、「中学生（13～15 歳）」が 0.8%となっている。

《障がいの種別 年齢》



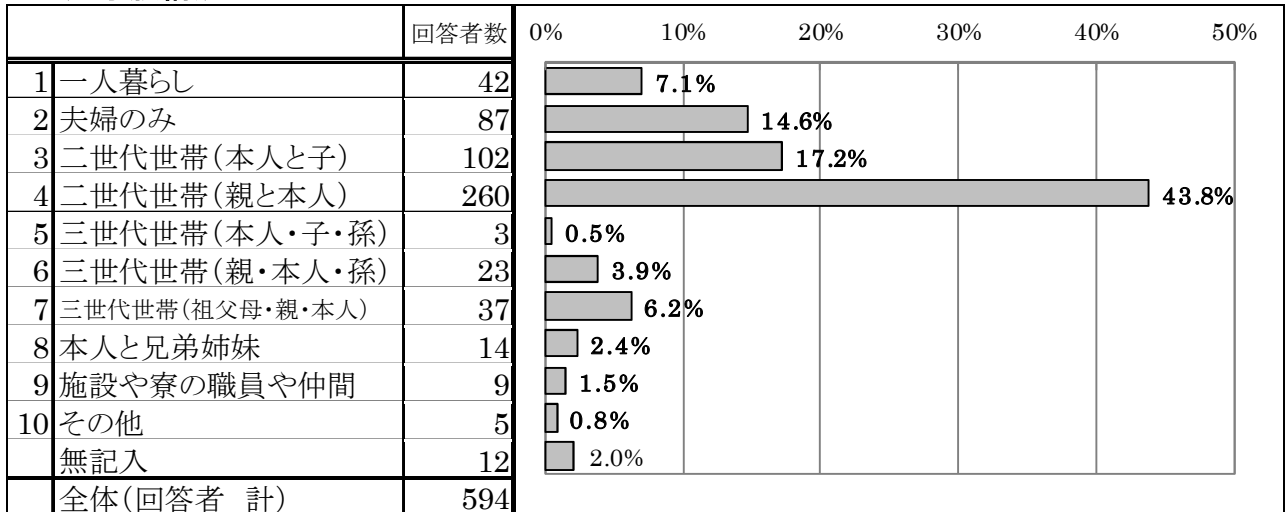
※精神障がいの「就学前」「小学生」「無記入」の 0.0%は省略

3) 居住地（小学校区）



回答者の居住地は、「生駒小学校区」が 12.8%と最も多く、次いで「生駒東小学校区」が 9.6%、「生駒台小学校区」が 9.3%、「俵口小学校区」が 9.1%、「壺分小学校区」が 8.6%となっている。

4) 家族構成



※その他の主な内容：本人・妻・孫、親・本人・妹家族、祖母と本人、親と本人と兄家族

家族構成は、「二世帯世帯（親と本人）」が43.8%と最も多く、次いで「二世帯世帯（本人と子）」が17.2%、「夫婦（夫・妻）のみ」が14.6%、「一人暮らし（本人のみ）」が7.1%となっている。

なお、「二世帯世帯（本人と子）」と「二世帯世帯（親と本人）」は合わせると61.0%となっている。

また、「三世帯世帯（本人・子・孫）」「三世帯世帯（親・本人・孫）」「三世帯世帯（祖父母・親・本人）」は合わせると10.6%となっている。

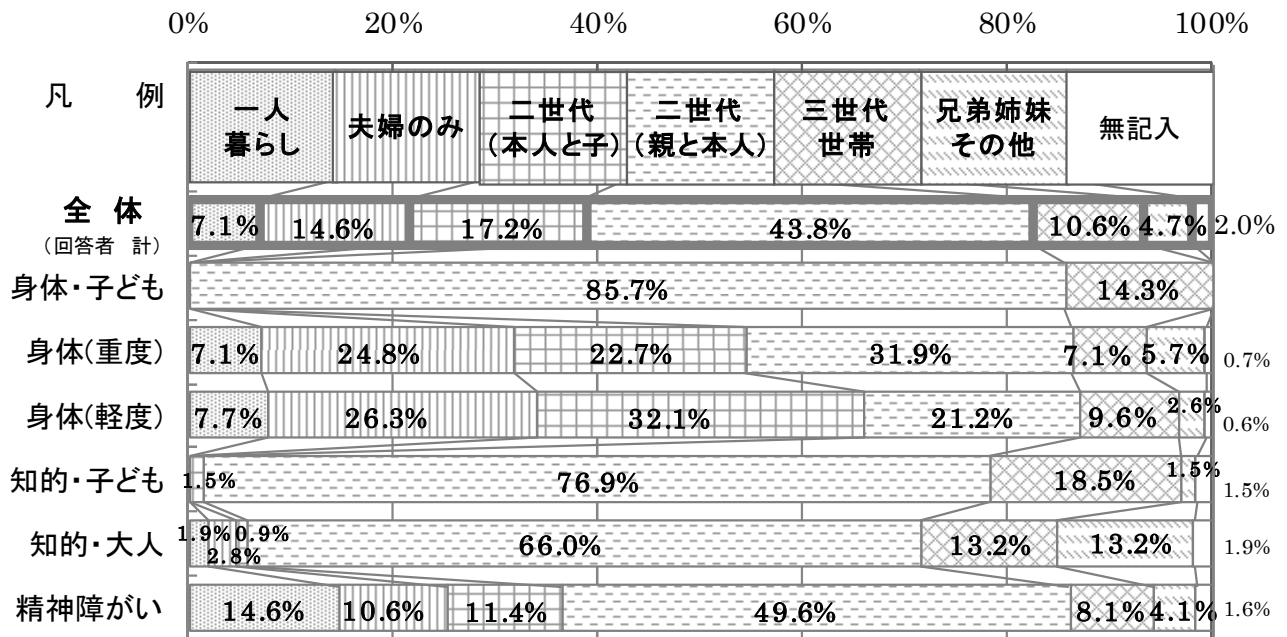
障がいの種別（年代別）でみると、「二世世代世帯（親と本人）」は、“身体（軽度）”以外のいずれも最も多く、“身体・子ども”は85.7%と8割を超えており、“知的・子ども”は76.9%、“知的・大人”は66.0%となっている。

“身体（重度）”は、「二世世代世帯（親と本人）」が31.9%と最も多く、次いで「夫婦（夫・妻）のみ」が24.8%、「二世代（本人と子）」が22.7%となっている。

“身体（軽度）”は、「二世世代世帯（本人と子）」が32.1%と最も多く、次いで「夫婦（夫・妻）のみ」が26.3%となっている。

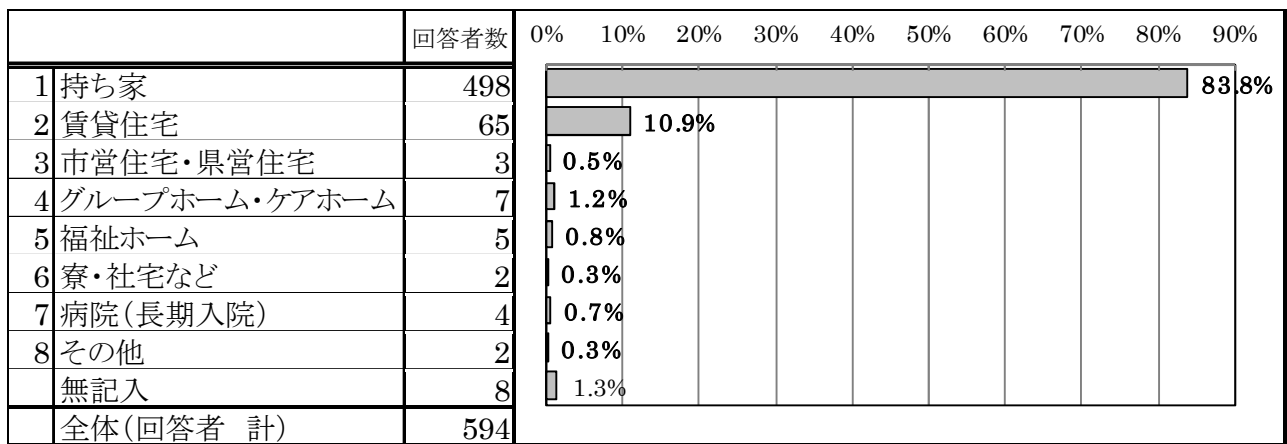
“精神障がい”は、「二世世代世帯（親と本人）」が49.6%と最も多く、次いで「一人暮らし（本人のみ）」が14.6%と他に比べて多くなっている。

《障がいの種別（年代別） 家族構成》



※身体・子どもの「一人暮らし」「夫婦のみ」「二世代（本人と子）」「兄弟姉妹その他」「無記入」と知的・子どもの「一人暮らし」「夫婦のみ」の0.0%は省略

5) 住宅の種類



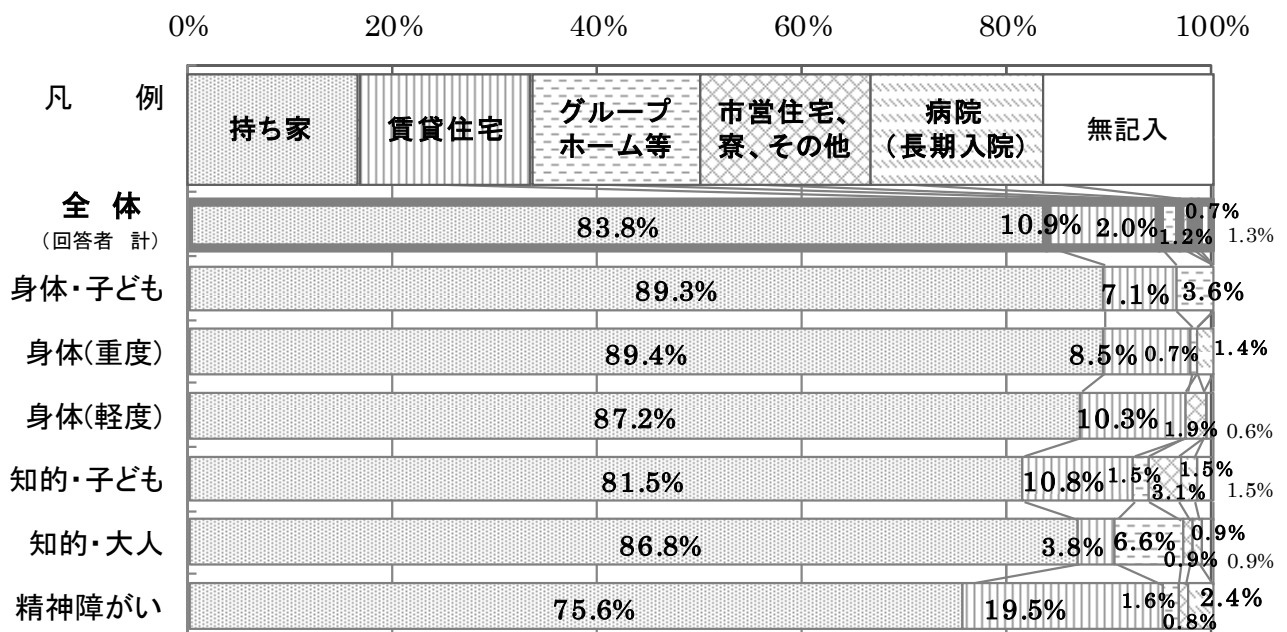
※その他の主な内容：持ち家とグループホームが半々、児童養護施設

住宅の種類は、「**持ち家**（家族や親族の持ち家も含む）」が 83.8%と最も多く、次いで「**賃貸住宅**」が 10.9%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、いずれも「**持ち家**（家族や親族の持ち家も含む）」が最も多く 7 割を超えており、“身体（重度）”は 89.4%、“身体・子ども”は 89.3%と、ともに 9 割程度となっている。

次いで“知的・大人”以外は「賃貸住宅」となっており、“精神障がい”は 19.5%となっている。“知的・大人”は「グループホーム等（「グループホーム・ケアホーム」と「福祉ホーム」の計）」が 6.6%となっている。

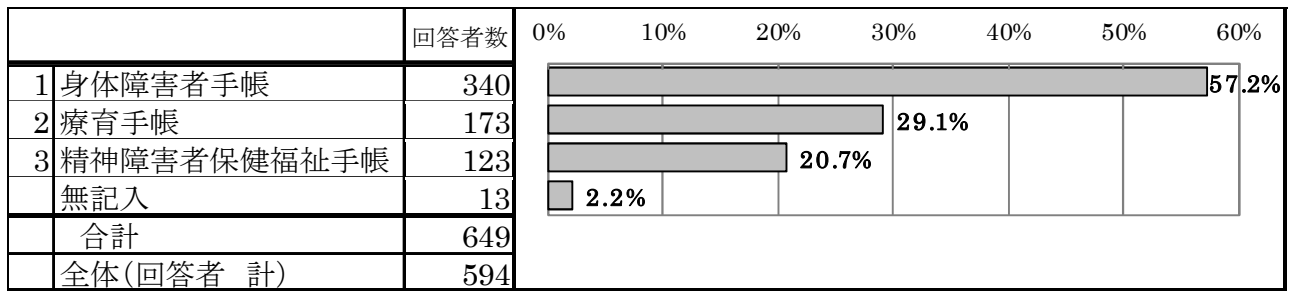
《障がいの種別（年代別） 住宅の種類》



※身体・子どもの「市営住宅、寮、その他」「病院（長期入院）」「無記入」と
 身体（重度）の「市営住宅、寮、その他」「無記入」と
 身体（軽度）の「グループホーム等」「病院（長期入院）」と
 精神障がいの「無記入」の 0.0%は省略

6) 障害者手帳

① 手帳の所有状況（複数回答）



障害者手帳の所有（複数回答）は、「身体障害者手帳」が 57.2%、「療育手帳」が 29.1%、「精神障害者保健福祉手帳」が 20.7%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、“身体・子ども”は、「身体障害者手帳」のほかに 39.3%が「療育手帳」を所有している。

“身体（重度）”は、「身体障害者手帳」のほかに 12.1%が「療育手帳」を、7.8%が「精神障害者保健福祉手帳」を所有している。“身体（軽度）”は、「身体障害者手帳」のほかに、5.8%が「療育手帳」を、1.9%が「精神障害者保健福祉手帳」を所有している。

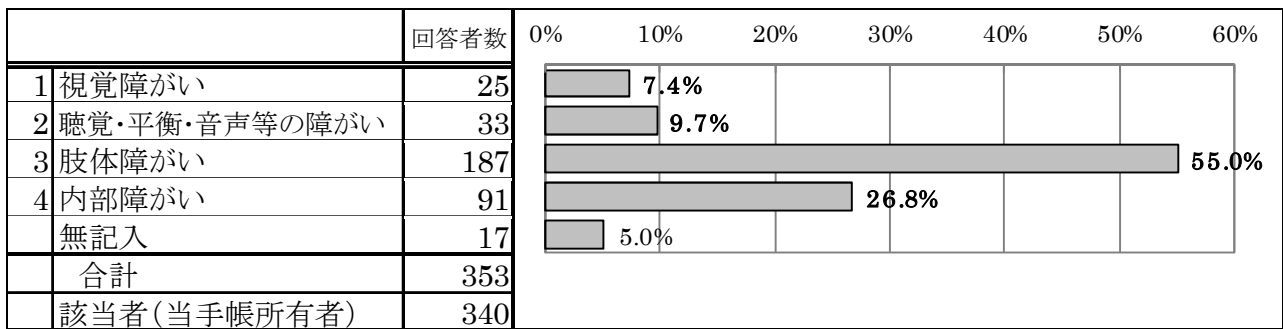
“知的・子ども”は、「療育手帳」のほかに、16.9%が「身体障害者手帳」を、1.5%が「精神障害者保健福祉手帳」を所有している。“知的・大人”は、「療育手帳」のほかに、24.5%が「身体障害者手帳」を、2.8%が「精神障害者保健福祉手帳」を所有している。

“精神障がい”は、「精神障害者保健福祉手帳」のほかに、13.0%が「身体障害者手帳」を、3.3%が「療育手帳」を所有している。

＜障がいの種別（年代別） 手帳の所有状況（複数回答）＞

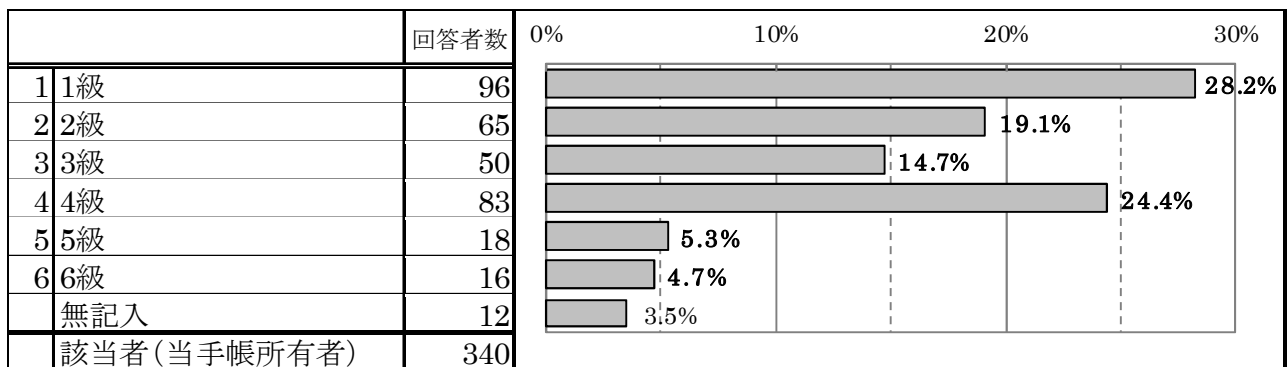
	全体 (回答者 計)	合計 (回答総数)	身体障害者 手帳	療育手帳	精神障害者 保健福祉手帳	無記入
全体 (回答者 計)	594	649	340	173	123	13
	100.0%	109.3%	57.2%	29.1%	20.7%	2.2%
身体・子ども	28	39	28	11	0	0
	100.0%	139.3%	100.0%	39.3%	0.0%	0.0%
身体（重度）	141	169	141	17	11	0
	100.0%	119.9%	100.0%	12.1%	7.8%	0.0%
身体（軽度）	156	168	156	9	3	0
	100.0%	107.7%	100.0%	5.8%	1.9%	0.0%
知的・子ども	65	77	11	65	1	0
	100.0%	118.5%	16.9%	100.0%	1.5%	0.0%
知的・大人	106	135	26	106	3	0
	100.0%	127.4%	24.5%	100.0%	2.8%	0.0%
精神障がい	123	143	16	4	123	0
	100.0%	116.3%	13.0%	3.3%	100.0%	0.0%

② 身体障害者手帳の障がいの内容（複数回答）



身体障害者手帳の障がいの内容（複数回答）は、「**肢体障がい**（体幹機能障がいを含む）」が 55.0%と最も多く、次いで「**心臓やじん臓などの内部障がい**」が 26.8%、「**聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく等の障がい**」が 9.7%、「**視覚障がい**」が 7.4%となっている。

③ 身体障害者手帳の障がいの程度



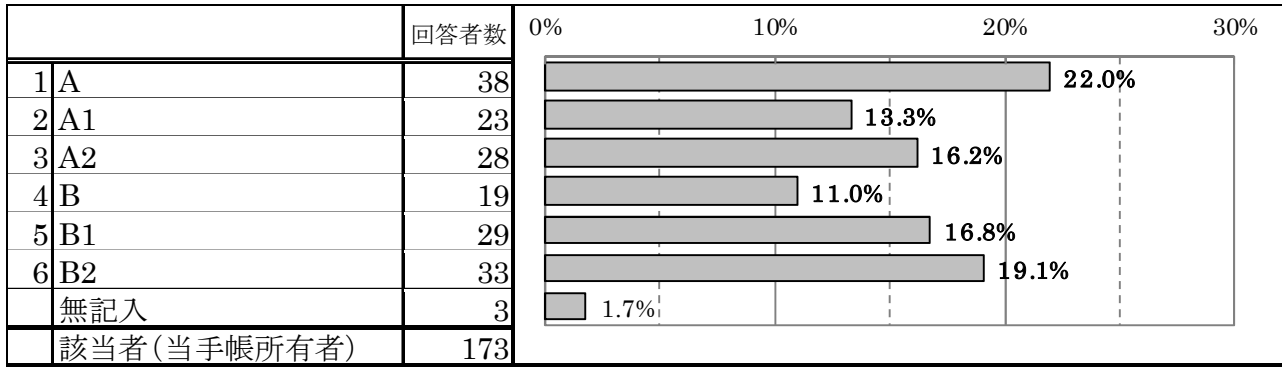
身体障害者手帳の障がいの程度は、「**1級**」が 28.2%と最も多く、次いで「**4級**」が 24.4%、「**2級**」が 19.1%となっている。なお「**1級**」「**2級**」を合わせた『**重度**』は 47.3%となっている。

身体障がいの内容別では、“内部障がい”は「**1級**」が 51.6%と最も多くなっている。

《身体障がいの内容別 身体障がいの程度》

	全体	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無記入
身体障がい	340	96	65	50	83	18	16	12
	100.0%	28.2%	19.1%	14.7%	24.4%	5.3%	4.7%	3.5%
視覚障がい	25	9	7	1	3	1	1	3
	100.0%	36.0%	28.0%	4.0%	12.0%	4.0%	4.0%	12.0%
聴覚・平衡・音声等の障がい	33	11	9	1	4	1	6	1
	100.0%	33.3%	27.3%	3.0%	12.1%	3.0%	18.2%	3.0%
肢体障がい	187	38	42	34	46	15	8	4
	100.0%	20.3%	22.5%	18.2%	25.6%	8.0%	4.3%	2.1%
内部障がい	91	47	3	12	24	0	0	5
	100.0%	51.6%	3.3%	13.2%	26.4%	0.0%	0.0%	5.5%

④ 療育手帳の障がいの程度



療育手帳の障がいの程度は、「A」が22.0%と最も多く、次いで「B2」が19.1%、「B1」が16.8%、「A2」が16.2%、「A1」が13.3%、「B」が11.0%となっている。

また、療育手帳のほかに、身体障害者手帳を所有する人は38人であり、療育手帳が『重度』(A、A1、A2)で身体障害者手帳も『重度』(1級・2級)は25人となっている。身体障害者手帳所有者の障がいの内容は「肢体障がい」が24人と最も多くなっている。

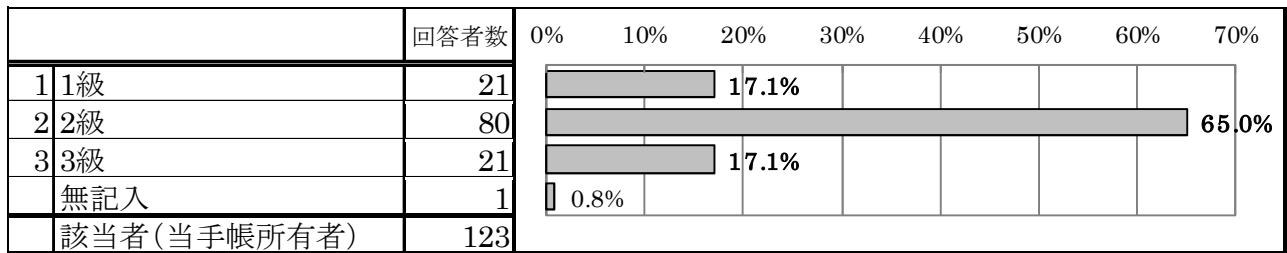
さらに、療育手帳のほかに、精神障害者保健福祉手帳を所有する人は4人となっている。

＜障がいの内容・程度別 知的障がいの程度＞

	全体	A	A1	A2	B	B1	B2	無記入
身体障がい	38	15	7	9	2	2	1	2
	100.0%	39.5%	18.4%	23.7%	5.3%	5.3%	2.6%	5.3%
視覚障がい	5	2	2	1	0	0	0	0
	100.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
聴覚・平衡・音声・言語・そしゃくなど	8	4	0	2	0	2	0	0
	100.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
肢体障がい	24	11	6	3	2	1	0	1
	100.0%	45.8%	25.0%	12.5%	8.3%	4.2%	0.0%	4.2%
内部障がい	4	1	0	2	0	0	0	1
	100.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
1級	22	12	6	3	1	0	0	0
	100.0%	54.5%	27.3%	13.6%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%
2級	5	1	1	2	0	1	0	0
	100.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
3級	2	0	0	1	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
4級	5	2	0	1	1	0	0	1
	100.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%
5級	2	0	0	1	0	1	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
6級	2	0	0	1	0	0	1	0
	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
精神障がい	4	1	0	0	0	2	0	1
	100.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%
1級	1	1	0	0	0	0	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2級	2	0	0	0	0	2	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

※精神障がいの3級は該当者なし

⑤ 精神障害者保健福祉手帳の障がいの程度



精神障害者保健福祉手帳の障がいの程度は、「2級」が65.0%と最も多く、次いで「1級」と「3級」が17.1%となっている。

また、精神障害者保健福祉手帳のほかに、身体障害者手帳を所有する人は14人であり、精神障害者保健福祉手帳と身体障害者手帳がともに「1級」は8人となっている。

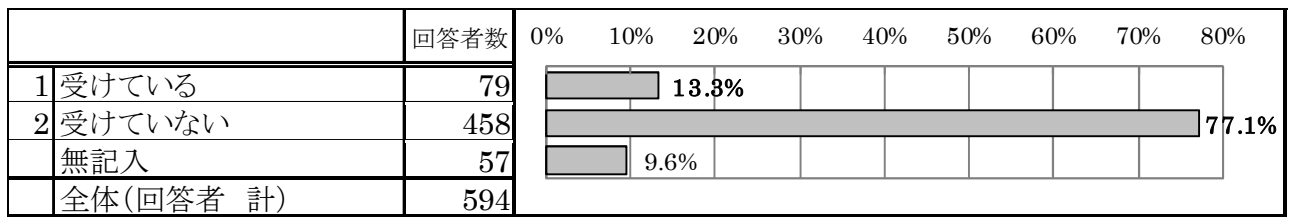
さらに、精神障害者保健福祉手帳のほかに、療育手帳を所有する人は、4人となっている。

《障がいの内容・程度別 精神障がいの程度》

	全体	1級	2級	3級	無記入
身体障がい	14	9	4	1	0
	100.0%	64.3%	28.6%	7.1%	0.0%
視覚障がい	1	1	0	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
聴覚・平衡・音声・言語・そしゃくなど	5	3	2	0	0
	100.0%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
肢体障がい	6	4	2	0	0
	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
内部障がい	4	4	0	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1級	8	8	0	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2級	3	0	3	0	0
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
3級	1	0	0	1	0
	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
4級	2	1	1	0	0
	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
知的障がい	4	2	2	0	0
	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
A	1	1	0	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
A2	1	1	0	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
B1	2	0	2	0	0
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

※身体障がいの5・6級、知的障がいのA1・B・B2は該当者なし

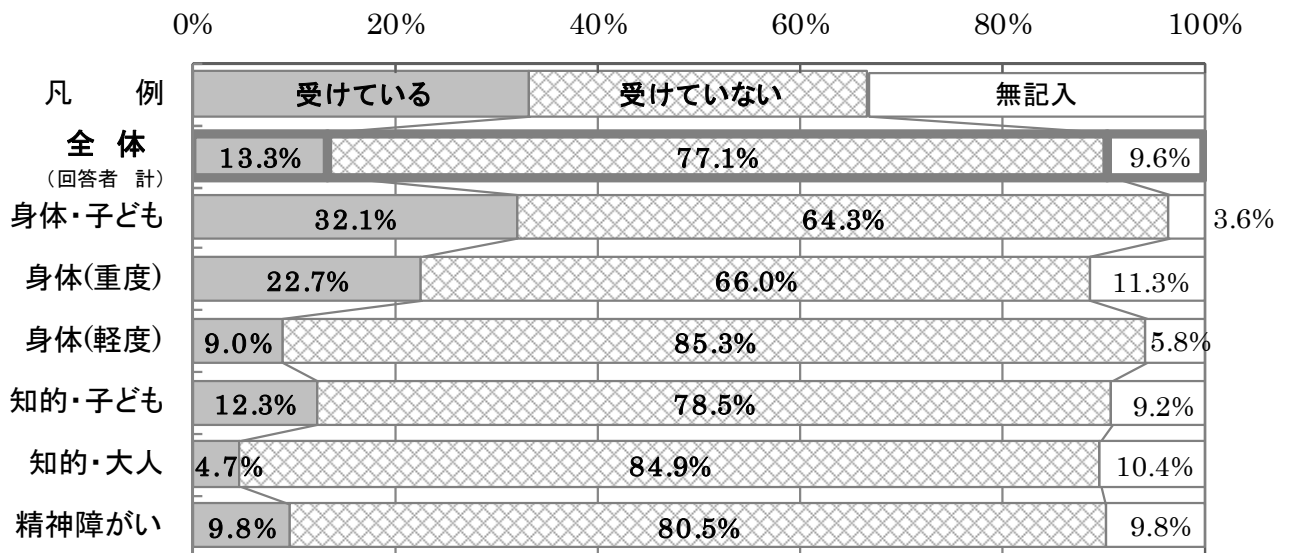
7) 難病（特定疾患）の認定



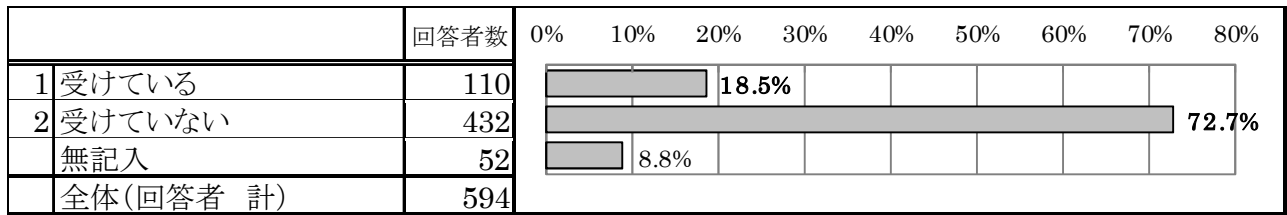
難病（特定疾患）の認定は、「受けていない」が 77.1%、「受けている」が 13.3%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、「受けている」は、“身体・子ども”が 32.1%と最も多く、次いで“身体（重度）”が 22.7%、“知的・子ども”が 12.3%となっている。

《障がいの種別（年代別） 難病の認定状況》



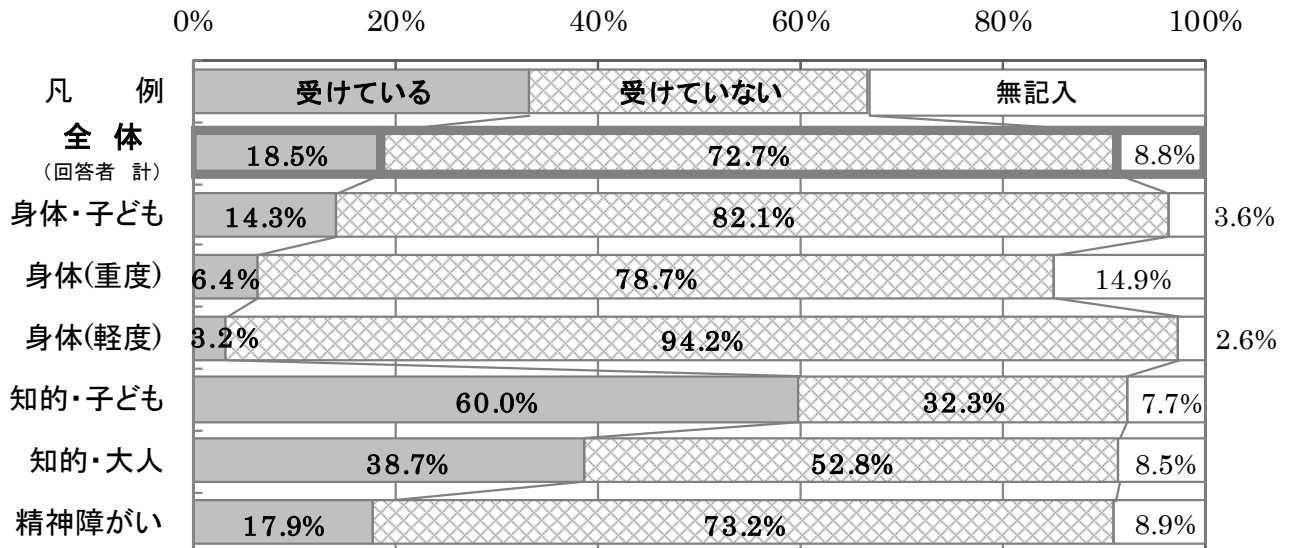
8) 発達障害（広汎性発達障害、学習障害など）の診断



発達障害（広汎性発達障害、学習障害など）の診断は、「受けていない」が 72.7%、「受けている（疑いを含む）」が 18.5%となっている。

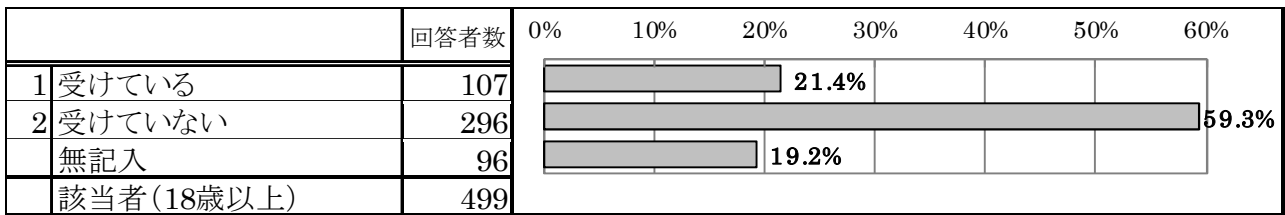
障がいの種別（年代別）でみると、「受けている（疑いを含む）」は、“知的・子ども”が 60.0%と最も多く 6 割を超えており、“知的・大人”が 38.7%、“精神障がい”が 17.9%となっている。

《障がいの種別（年代別） 発達障がいの診断状況》



9) 障害者総合支援法の障害程度区分（障害支援区分）の認定（18 歳以上）

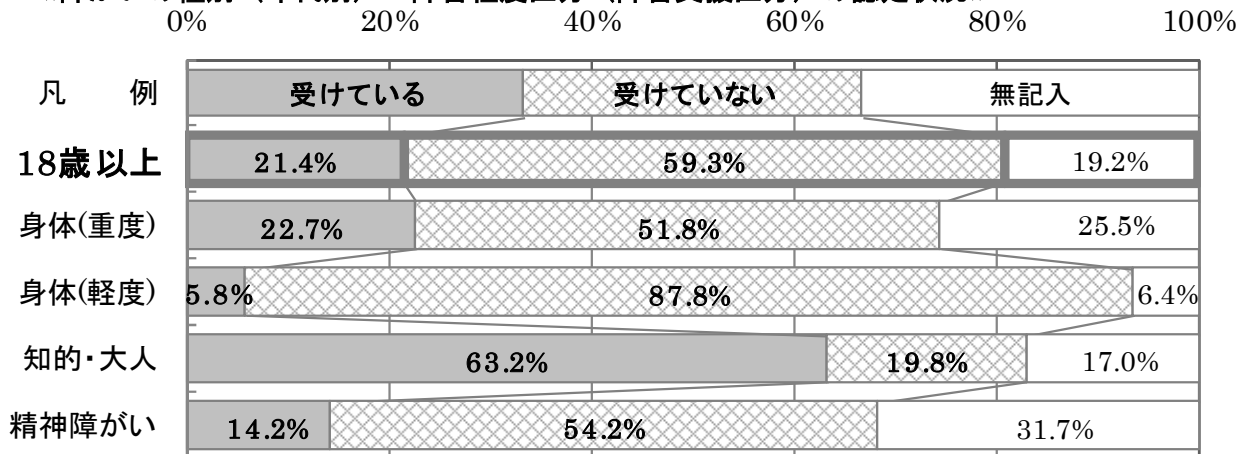
① 認定状況



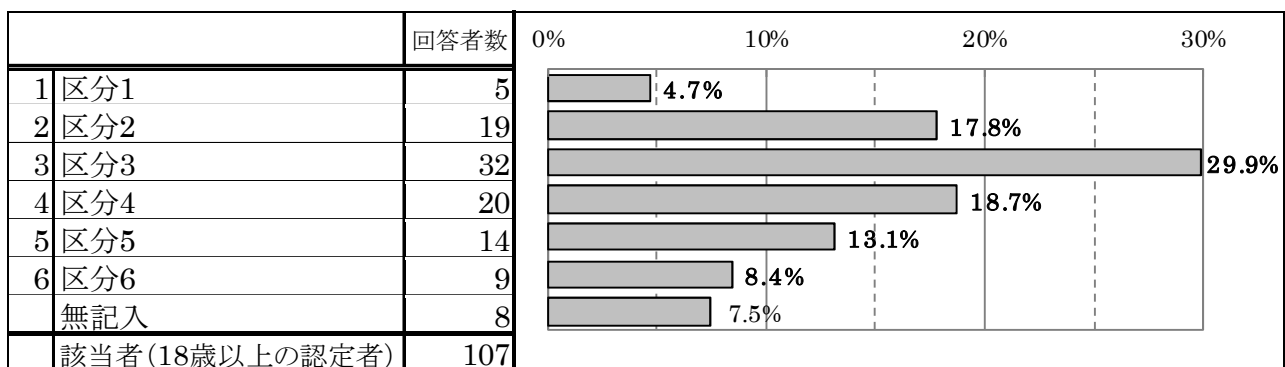
18 歳以上の人で、障害程度区分（障害支援区分）の認定は、「受けていない」が 59.3%、「受けている」が 21.4%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、「受けている」は、“知的・大人”が 63.2%と最も多く、次いで“身体（重度）”が 22.7%、“精神障がい”が 14.2%、“身体（軽度）”が 5.8%となっている。

《障がいの種別（年代別） 障害程度区分（障害支援区分）の認定状況》



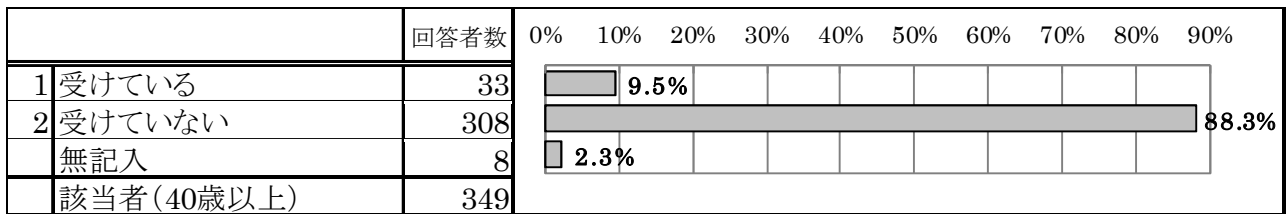
② 障害程度区分（障害支援区分）の状況



認定を受けている人の障害程度区分（障害支援区分）は、「区分 3」が 29.9%と最も多く、次いで「区分 4」が 18.7%、「区分 2」が 17.8%、「区分 5」が 13.1%、「区分 6」が 8.4%、「区分 1」が 4.7%となっている。

10) 介護保険の要介護認定（40 歳以上）

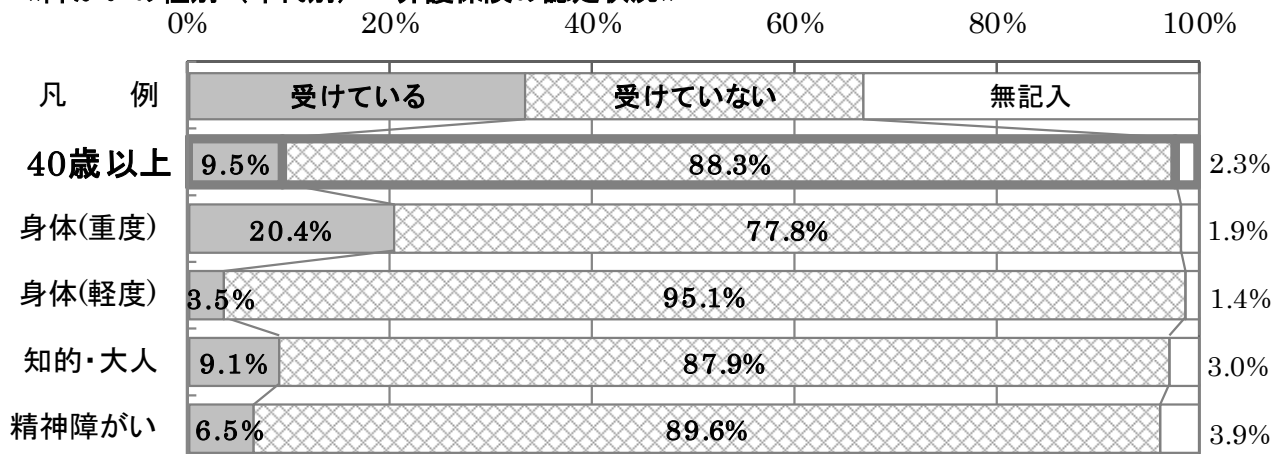
① 認定状況



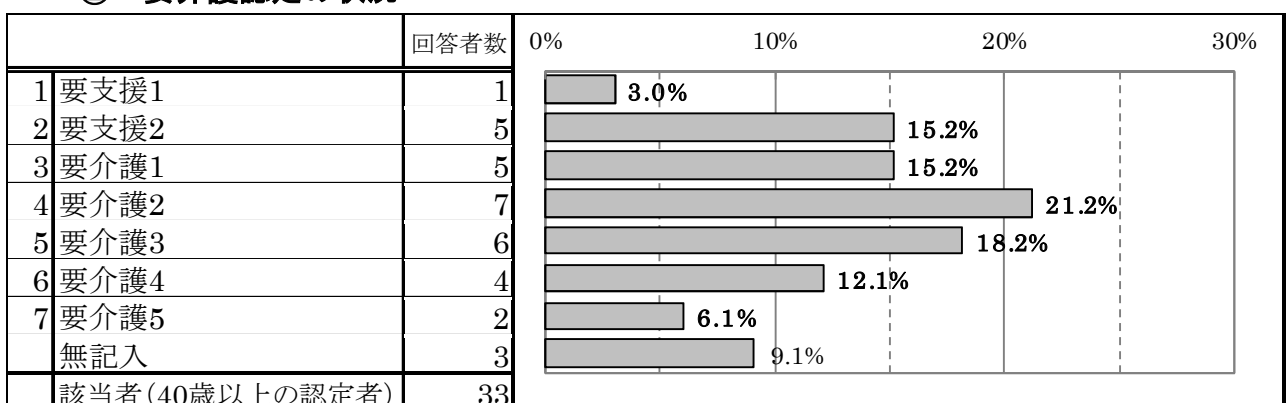
40 歳以上の人で、介護保険制度の要介護認定は、「受けていない」が 88.3%、「受けている」が 9.5%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、「受けている」は、“身体（重度）”が 20.4%と最も多く、次いで“知的・大人”が 9.1%、“精神障がい”が 6.5%、“身体（軽度）”が 3.5%となっている。

《障がいの種別（年代別） 介護保険の認定状況》



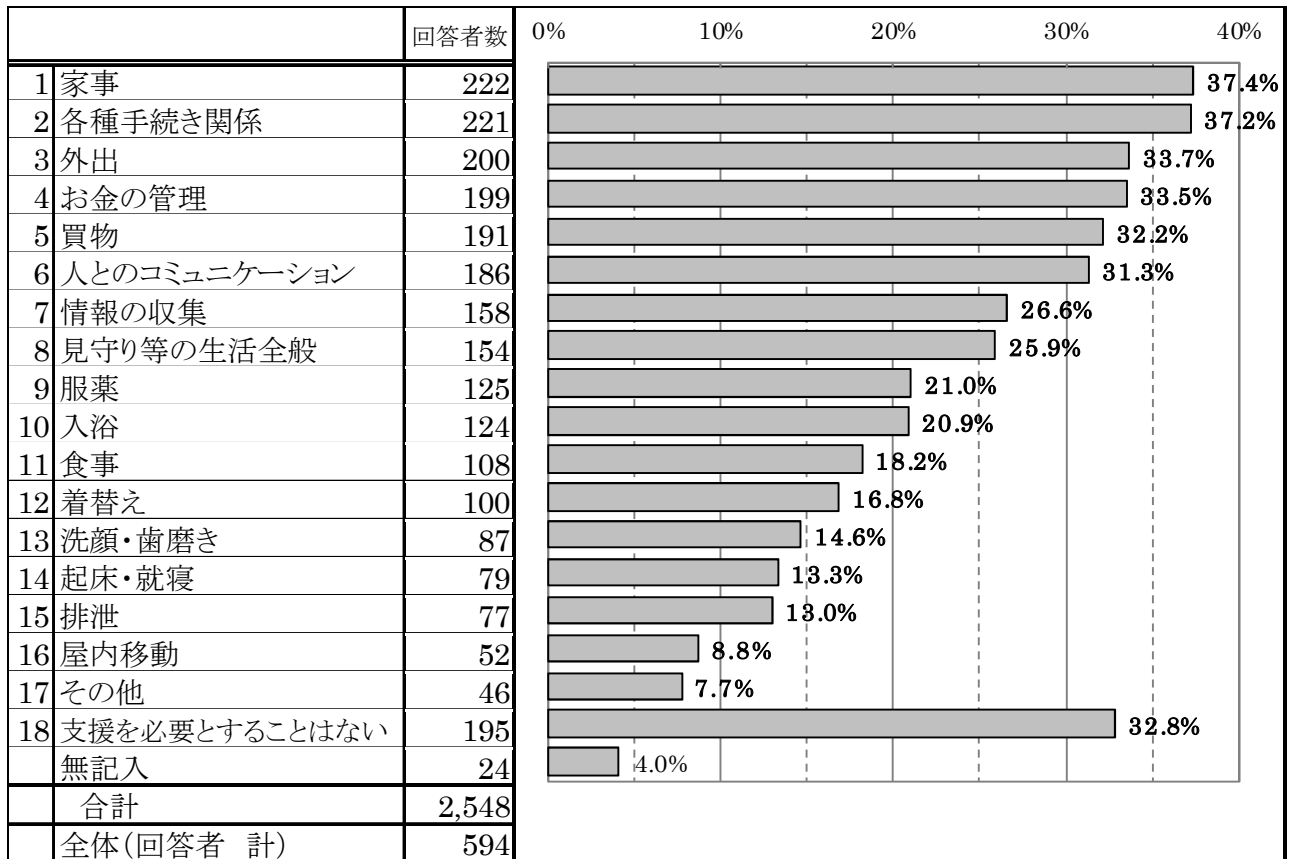
② 要介護認定の状況



要介護認定を受けている人の要介護度は、「要介護 2」が 21.2%と最も多く、次いで「要介護 3」が 18.2%、「要支援 2」と「要介護 1」が 15.2%となっている。

2. 日常生活の状況

1) ふだんの生活で支援を必要とされていること（複数回答）



※その他の主な内容：発作時の対応支援（4）、就労支援（3）、学校生活のフォロー（3）、遠方への外出（2）など

ふだんの生活で支援を必要とされていること（複数回答）は、「家事（掃除・洗濯・料理）」が 37.4%と最も多く、次いで「各種手続き関係」が 37.2%、「外出」が 33.7%、「お金の管理」が 33.5%、「特に支援を必要とすることはない」が 32.8%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、“身体・子ども”は「洗顔・歯磨き」と「入浴」が60.7%と6割を超えている。

“身体（重度）”は「外出」が38.3%と最も多くなっている。

“身体（軽度）”は「特に支援を必要とすることはない」が67.9%と最も多く6割を超えている。

“知的・子ども”は「人とのコミュニケーション」が73.8%と最も多く7割を超えている。

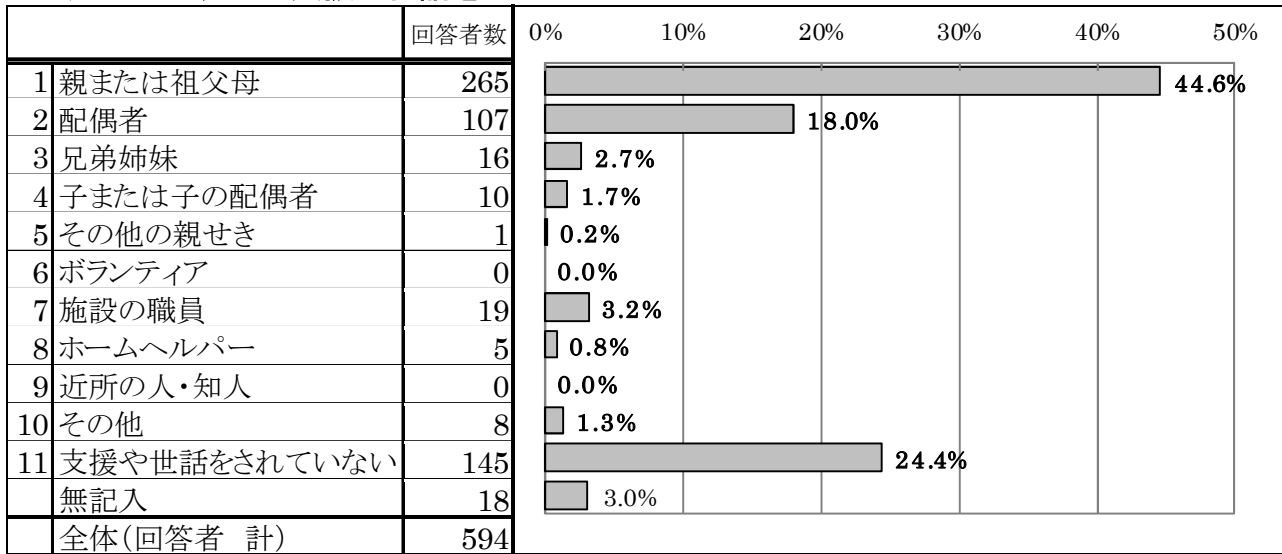
“知的・大人”は「お金の管理」が76.4%と最も多く7割を超えている。

“精神障がい”は「各種手続き関係」が41.5%と最も多く4割を超えている。

《障がいの種別（年代別） ふだんの生活で支援を必要とされていること（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答者 計=594】	家事（掃除・洗濯・料理） 37.4%	各種手続き関係 37.2%	外出 33.7%	お金の管理 33.5%	支援を必要とすることはない 32.8%
身体・子ども 【該当者数=28】	洗顔・歯磨き／入浴 60.7%		排泄／着替え／外出／見守り等の生活全般／人とのコミュニケーション／お金の管理 57.1%		
身体（重度） 【該当者数=141】	外出 38.3%	買物／家事（掃除・洗濯・料理）／支援を必要とすることはない 35.5%			各種手続き関係 31.2%
身体（軽度） 【該当者数=156】	支援を必要とすることはない 67.9%	家事（掃除・洗濯・料理） 12.8%	外出 11.5%	買物 10.9%	各種手続き関係 8.3%
知的・子ども 【該当者数=65】	人とのコミュニケーション 73.8%	外出 72.3%	お金の管理 69.2%	見守り等の生活全般／家事（掃除・洗濯・料理）／各種手続き関係 66.2%	
知的・大人 【該当者数=106】	お金の管理 76.4%	各種手続き関係 74.5%	家事（掃除・洗濯・料理） 65.1%	人とのコミュニケーション 58.5%	買物 56.6%
精神障がい 【該当者数=123】	各種手続き関係 41.5%	家事（掃除・洗濯・料理） 39.8%	人とのコミュニケーション 38.2%	お金の管理 31.7%	買物 26.8%

2) ふだん、主に支援や世話をしている人



※その他の主な内容：「親・祖父母・兄弟」などの複数回答 など

ふだん、主に支援や世話をしている人は、「親または祖父母」が 44.6%と最も多く、次いで「特に支援や世話をされていない」が 24.4%、「配偶者（夫または妻）」が 18.0%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、「親または祖父母」は“身体・子ども”が 96.4%、“知的・子ども”が 93.8%と 9 割を超えており、“知的・大人”は 79.2%と 8 割程度であり、“精神障がい”は 52.0%と半数を超えている。

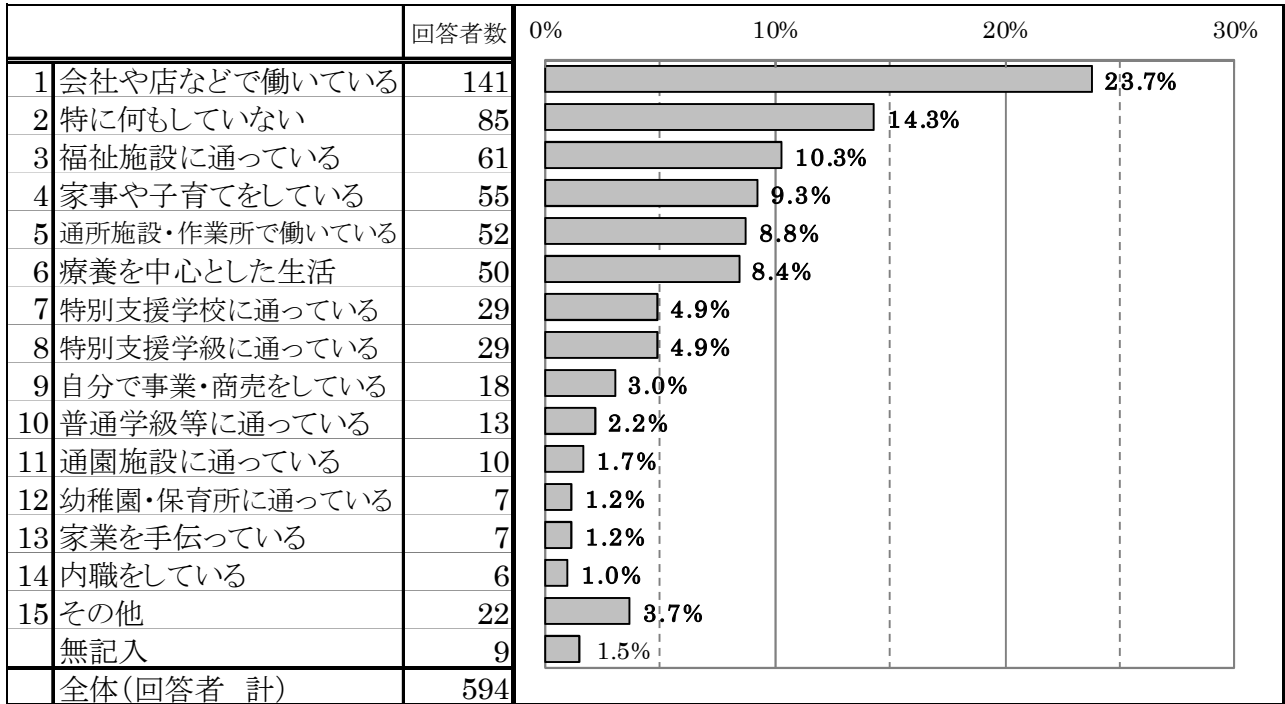
“身体（重度）”は「配偶者（夫または妻）」が 31.9%と最も多く、次いで「親または祖父母」が 26.2%となっている。

“身体（軽度）”は「特に支援や世話をされていない」が 51.9%と半数を超えている。

《障がいの種別（年代別） ふだん、支援や世話をしている人（上位 3 位）》

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
全 体 【回答者 計=594】	親または祖父母 44.6%	配偶者 18.0%	支援や世話をされていない 24.4%
身体・子ども 【該当者数=28】	親または祖父母 96.4%	施設の職員 3.6%	
身体（重度） 【該当者数=141】	配偶者 31.9%	親または祖父母 26.2%	支援や世話をされていない 23.4%
身体（軽度） 【該当者数=156】	支援や世話をされていない 51.9%	配偶者 26.3%	親または祖父母 12.2%
知的・子ども 【該当者数=65】	親または祖父母 93.8%	施設の職員 3.1%	その他／支援や世話をされていない 1.5%
知的・大人 【該当者数=106】	親または祖父母 79.2%	施設の職員 7.5%	兄弟姉妹／支援や世話をされていない 5.7%
精神障がい 【該当者数=123】	親または祖父母 52.0%	支援や世話をされていない 17.1%	配偶者 12.2%

3) ふだんの日中の過ごし方



※その他の主な内容：ボランティア活動 (2)、就職活動、浪人中、スポーツ活動 など

ふだんの日中の過ごし方は、「会社や店などで働いている、または公務員をしている」が 23.7%と最も多く、次いで「特に何もしていない」が 14.3%、「福祉施設（地域活動支援センター、生活介護を含む）に通っている」が 10.3%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、“身体・子ども”は「特別支援学校に通っている」が28.6%と最も多く、次いで「小・中学校の特別支援学級に通っている」と「小・中学校の普通学級、高校、大学、専門学校に通っている」が17.9%であり、合わせると6割を超えている。

“身体（重度）”は「会社や店などで働いている、または公務員をしている」が24.1%と最も多く、次いで「特に何もしていない」が17.0%、「療養を中心とした生活をしている（入院、デイケア通所を含む）」が14.2%となっている。

“身体（軽度）”は「会社や店などで働いている、または公務員をしている」が44.2%と最も多く4割を超えており、次いで「家事や子育てなどをしている」が17.9%となっている。

“知的・子ども”は、「特別支援学校に通っている」と「小・中学校の特別支援学級に通っている」が38.5%と最も多く、第4位の「小・中学校の普通学級、高校、大学、専門学校に通っている」の4.6%を合わせると8割を超えている。

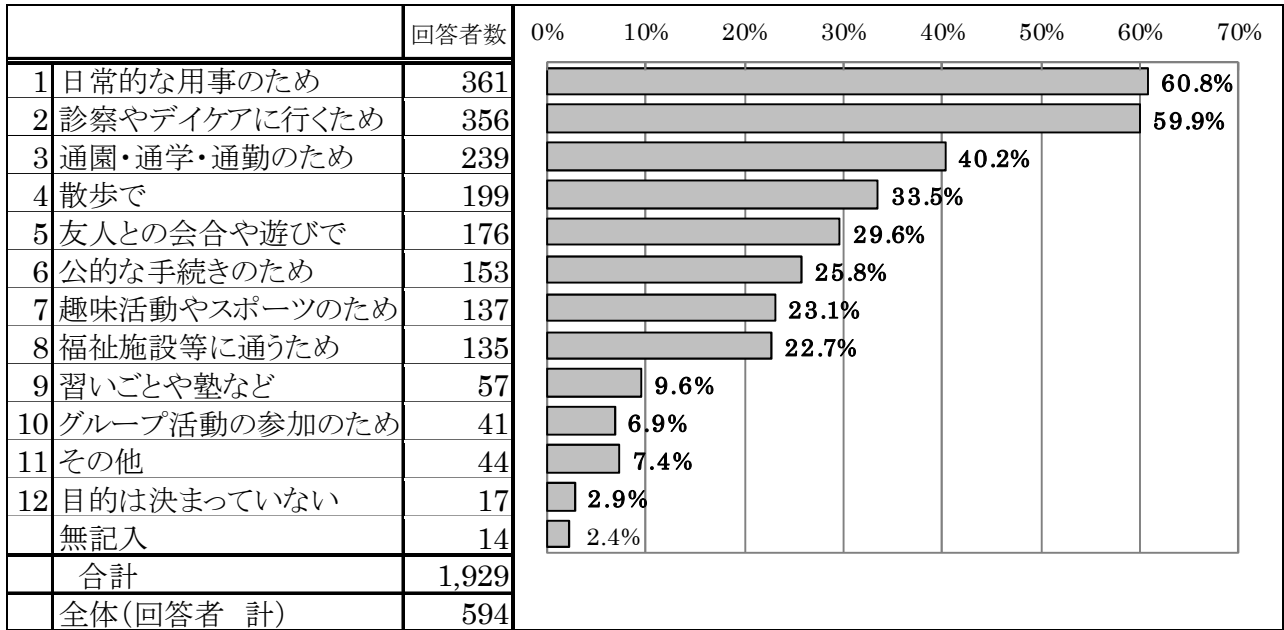
“知的・大人”は「通所施設・作業所で働いている（就労移行支援・就労継続支援）」が33.0%と最も多く、次いで「会社や店などで働いている、または公務員をしている」が28.3%であり、合わせると6割を超えている。

“精神障がい”は「特に何もしていない」が23.6%と最も多く、次いで「療養を中心とした生活をしている（入院、デイケア通所を含む）」が19.5%であり、合わせると4割を超えている。

《障がいの種別（年代別） ふだんの日中の過ごし方（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答者 計=594】	会社や店で働いている 23.7%	特に何もしていない 14.3%	福祉施設に通っている 10.3%	家事や子育てをしている 9.3%	通所施設・作業所で働いている 8.8%
身体・子ども 【該当者数=28】	特別支援学校に通っている 28.6%	特別支援学級に通っている／普通学級等に通っている 17.9%		幼稚園・保育所に通っている／通園施設に通っている 10.7%	
身体（重度） 【該当者数=141】	会社や店で働いている 24.1%	特に何もしていない 17.0%	療養を中心とした生活 14.2%	福祉施設に通っている 13.5%	家事や子育てをしている 9.2%
身体（軽度） 【該当者数=156】	会社や店で働いている 44.2%	家事や子育てをしている 17.9%	特に何もしていない 16.7%	自分で事業・商売をしている 6.4%	その他 4.5%
知的・子ども 【該当者数=65】	特別支援学校に通っている／特別支援学級に通っている 38.5%		通園施設に通っている 12.3%	普通学級等に通っている 4.6%	幼稚園・保育所に通っている 3.1%
知的・大人 【該当者数=106】	通所施設・作業所で働いている 33.0%	会社や店で働いている 28.3%	福祉施設に通っている 27.4%	特に何もしていない 3.8%	家業を手伝っている 2.8%
精神障がい 【該当者数=123】	特に何もしていない 23.6%	療養を中心とした生活 19.5%	福祉施設に通っている 16.3%	家事や子育てをしている 9.8%	通所施設・作業所で働いている 8.9%

4) ふだんの外出の目的（複数回答）



※その他の主な内容：家族での外出、親の付き添い など

ふだんの外出の目的（複数回答）は、「買物などの日常的な用事のため」が 60.8%と最も多く、次いで「病院での診察やデイケアに行くため」が 59.9%、「通園・通学・通勤のため」が 40.2%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、“身体・子ども”は「通園・通学・通勤のため」が89.3%と最も多く9割程度であり、次いで「病院での診察やデイケアに行くため」が67.9%と6割を超えている。

“身体（重度）”は、「病院での診察やデイケアに行くため」が69.5%と最も多く、次いで「買物などの日常的な用事のため」が63.8%と、ともに6割を超えている。

“身体（軽度）”は、「買物などの日常的な用事のため」が74.4%と最も多く7割を超えており、次いで「病院での診察やデイケアに行くため」が54.5%と半数を超えている。

“知的・子ども”は「通園・通学・通勤のため」が96.9%と最も多く9割を超えており、次いで「病院での診察やデイケアに行くため」が56.9%と半数を超えている。

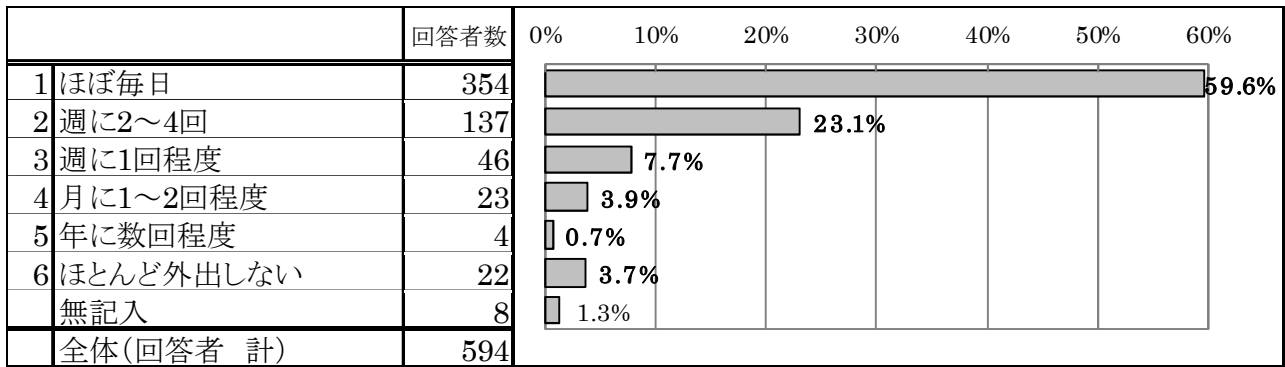
“知的・大人”は、「福祉施設や作業所に通うため」が54.7%と最も多く、次いで「買物などの日常的な用事のため」が50.0%と、ともに半数を超えている。

“精神障がい”は、「病院での診察やデイケアに行くため」が67.5%と最も多く6割を超えており、次いで「買物などの日常的な用事のため」が54.5%と半数を超えている。

《障がいの種別（年代別） ふだんの外出の目的（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答者 計=594】	日常的な用事 のため 60.8%	診察やデイケ アに行くため 59.9%	通園・通学・通 勤のため 40.2%	散歩で 33.5%	友人との会合 や遊びで 29.6%
身体・子ども 【該当者数=28】	通園・通学・通 勤のため 89.3%	診察やデイケ アに行くため 67.9%	友人との会合 や遊びで 50.0%	日常的な用事 のため 39.3%	習いごとや塾 など 28.6%
身体（重度） 【該当者数=141】	診察やデイケ アに行くため 69.5%	日常的な用事 のため 63.8%	公的な手続き のため 31.2%	散歩で 29.8%	通園・通学・通 勤のため 27.0%
身体（軽度） 【該当者数=156】	日常的な用事 のため 74.4%	診察やデイケ アに行くため 54.5%	通園・通学・通 勤のため 44.2%	友人との会合 や遊びで 43.6%	公的な手続き のため 36.5%
知的・子ども 【該当者数=65】	通園・通学・通 勤のため 96.9%	診察やデイケ アに行くため 56.9%	日常的な用事 のため 49.2%	散歩で 36.9%	習いごとや塾 など 32.3%
知的・大人 【該当者数=106】	福祉施設等に 通うため 54.7%	日常的な用事 のため 50.0%	診察やデイケ アに行くため 45.3%	通園・通学・通勤のため／ 散歩で 35.8%	
精神障がい 【該当者数=123】	診察やデイケ アに行くため 67.5%	日常的な用事 のため 54.5%	公的な手続き のため 32.5%	福祉施設等に 通うため 30.9%	散歩で 27.6%

5) ふだんの外出の割合



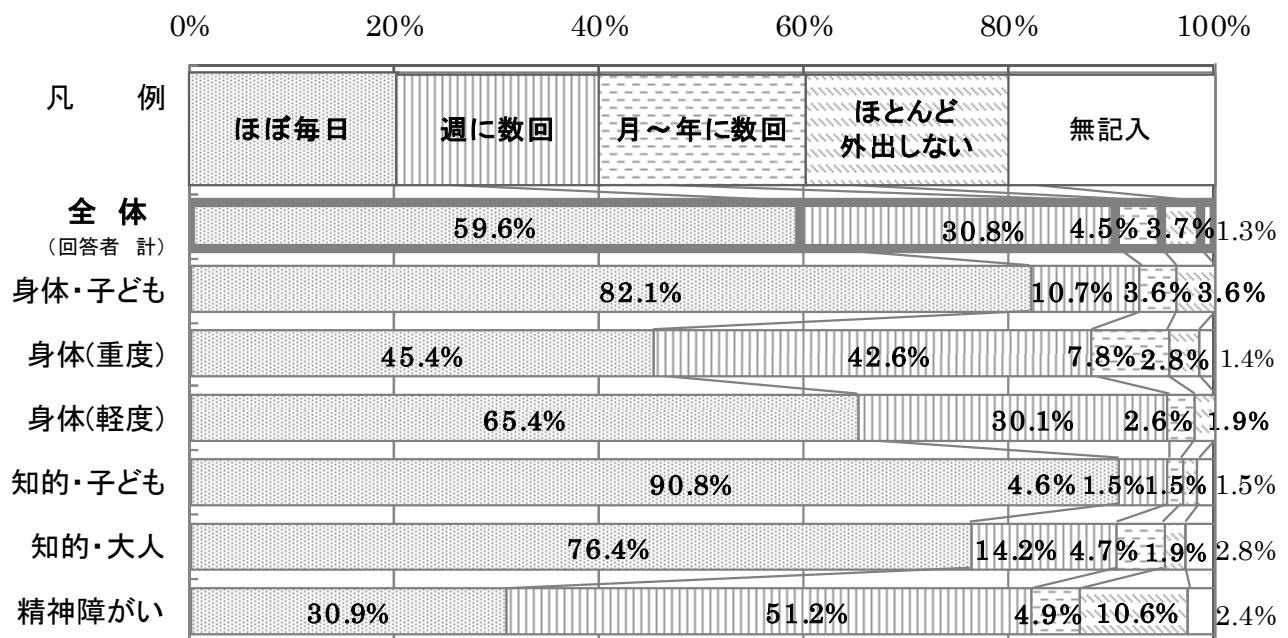
ふだんの外出の割合は、「ほぼ毎日」が 59.6%と最も多く、次いで「週に 2～4 回」が 23.1%、「週に 1 回程度」が 7.7%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、“精神障がい”以外は「ほぼ毎日」が最も多くなっており、“知的・子ども”は 90.8%と 9 割を超え、“身体・子ども”は 82.1%と 8 割を、“知的・大人”は 76.4%と 7 割を超えている。

“身体（重度）”は「ほぼ毎日」の 45.4%に次いで「週に数回」（「週に 2～4 回程度」と「週に 1 回程度」の計）が 42.6%と多くなっている。

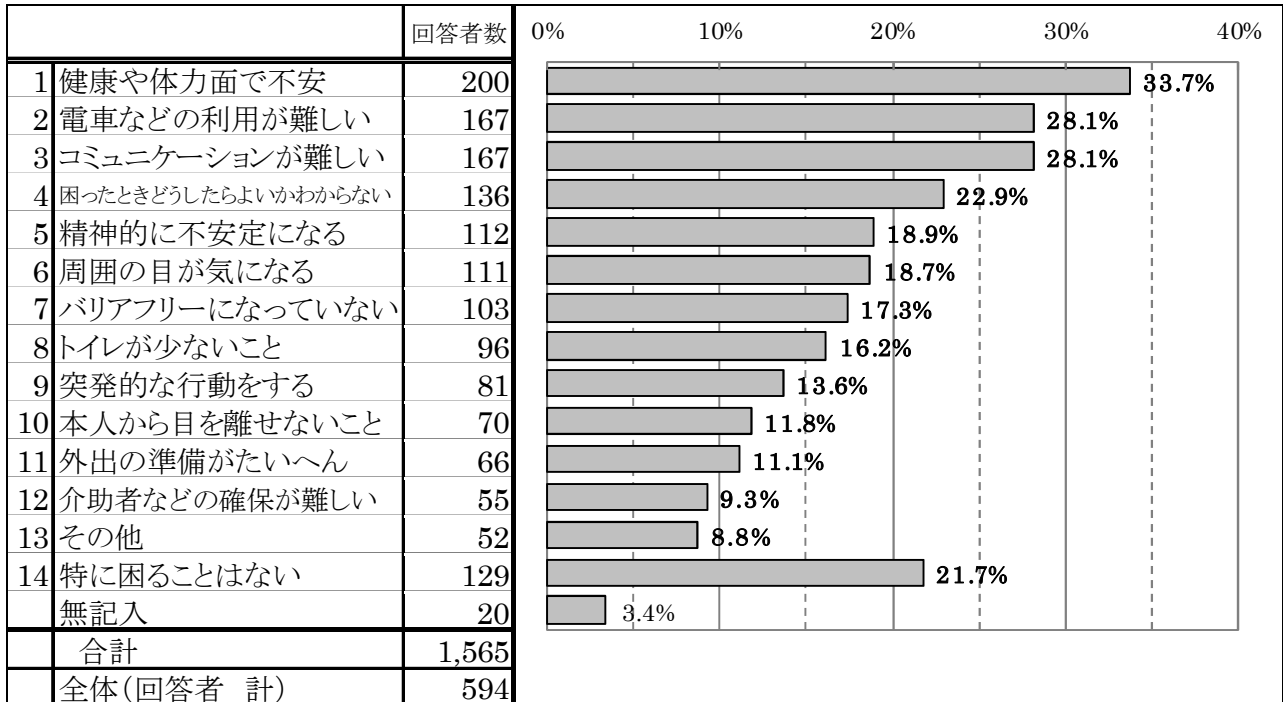
“精神障がい”は「週に数回」（「週に 2～4 回程度」と「週に 1 回程度」の計）が 51.2%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」が 30.9%、「ほとんど外出しない」が 10.6%となっている。

《障がいの種別（年代別） ふだんの外出の割合》



※身体・子ども、身体（軽度）の「無記入」の 0.0%は省略

6) 外出のときに困ること（複数回答）



※その他の主な内容：精神的な問題（6）、電車やバスで座席に座れないこと（4）、暗い所が見えにくい（4）、障害者用駐車場が少ないこと（4）、付き添いに際しての体力がないこと（3） など

外出のとき、または外出しようとするときに困ること（複数回答）は、「健康や体力面で不安がある、疲れやすいこと」が 33.7%と最も多く、次いで「電車・バスなどの利用が難しいこと」と「一人では他人とのコミュニケーションが難しいこと」が 28.1%、「困ったときにどうしたらよいのかわからないこと」が 22.9%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、「一人では他人とのコミュニケーションが難しいこと」は、“知的・子ども”が69.2%と最も多く7割近くであり、“身体・子ども”は53.6%と最も多く半数を超えている。第2位は「電車・バスなどの利用が難しいこと」が“知的・子ども”は61.5%、“身体・子ども”は50.0%となっている。

“知的・大人”は「一人では他人とのコミュニケーションが難しいこと」が52.8%と最も多く、第2位は「困ったときにどうしたらよいかわからない」が48.1%となっている。

“身体（重度）”は、「健康や体力面で不安がある、疲れやすいこと」が33.7%と最も多く、第2位は「まちなかの環境がバリアフリーになっていないこと」が30.5%と、ともに3割を超えている。

“身体（軽度）”は、「特に困ることはない」が35.9%と最も多く、第2位は「健康や体力面で不安がある、疲れやすいこと」が33.7%となっている。

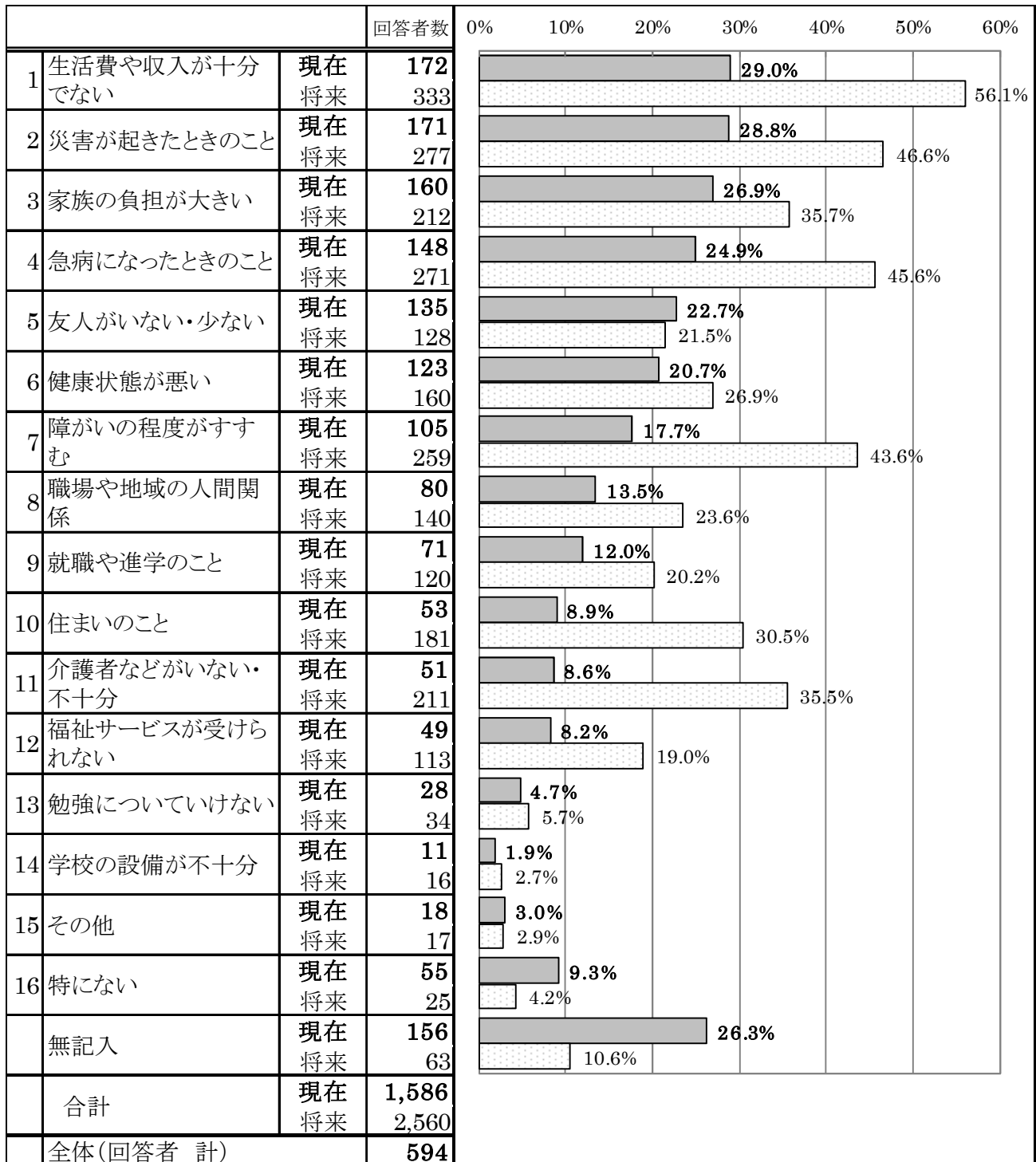
“精神障がい”は、「健康や体力面で不安がある、疲れやすいこと」が48.8%と最も多く、第2位は「人の多いところで精神的に不安定になる」が43.9%と4割を超えている。

《障がいの種別（年代別） 外出のときに困ること（上位5位）》

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全 体 【回答数=594】	健康や体力面 で不安 33.7%	電車などの利用が難しい／ コミュニケーションが難しい 28.1%	特に困ること はない 21.7%	精神的に不安 定になる 18.9%	
身体・子ども 【該当数=28】	コミュニケー ションが難し い 53.6%	電車などの利 用が難しい 50.0%	バリアフリー になっていな い 46.4%	健康や体力面 で不安 42.9%	トイレが少な いこと 39.3%
身体（重度） 【該当数=141】	健康や体力面 で不安 33.7%	バリアフリー になっていな い 30.5%	電車などの利 用が難しい 29.8%	特に困ること はない 21.3%	トイレが少な いこと 19.9%
身体（軽度） 【該当数=156】	特に困ること はない 35.9%	健康や体力面 で不安 33.7%	バリアフリー になっていな い 21.2%	トイレが少な いこと 17.3%	電車などの利 用が難しい 16.7%
知的・子ども 【該当数=65】	コミュニケー ションが難し い 69.2%	電車などの利 用が難しい 61.5%	本人から目を離せないこと／ 困ったときどうしたらよいかわ からない 49.2%	突発的な行動 をする 35.4%	
知的・大人 【該当数=106】	コミュニケー ションが難し い 52.8%	困ったときど うしたらよい かわからない 48.1%	電車などの利 用が難しい 32.1%	精神的に不安定になる／ 本人から目を離せないこと 23.6%	
精神障がい 【該当数=123】	健康や体力面 で不安 48.8%	精神的に不安 定になる 43.9%	周囲の目が気 になる 35.8%	コミュニケー ションが難し い 29.3%	困ったときど うしたらよい かわからない 22.8%

7) 日常生活で困っていること、心配なこと

① 現在困っていること、将来の心配（複数回答）



※その他の主な内容（現在）：障害者に見えないこと、広報誌等が音声化されていないこと、学校がない時など

※その他の主な内容（将来）：親が亡くなった時のこと、通院や訓練などの場がなくなること、ひとりで生活できないこと など

日常生活において現在困っていること（複数回答）は、「生活費や収入が十分でないこと」が 29.0%と最も多く、次いで「災害が起きたときのこと」が 28.8%、「家族の負担が大きいこと」が 26.9%となっている。

Ⅱ 市民アンケート調査の結果

また、将来の心配（複数回答）は、「生活費や収入が十分でないこと」が 56.1%と最も多く、現在困っていることよりも 27.1 ポイント高くなっている。次いで、「災害が起きたときのこと」が 46.6%であり、現在困っていることよりも 17.8 ポイント高くなっている。第 3 位は、「急病になったときのこと」が 45.6%であり、現在困っていることよりも 20.7 ポイント高くなっている。

現在困っていることを、障がいの種別（年代別）でみると、“身体・子ども”は「家族の負担が大きいこと」が 46.4%と最も多く 4 割を超えており、次いで「災害が起きたときのこと」が 39.3%となっている。

“身体（重度）”は、「生活費や収入が十分でないこと」が 31.2%と最も多く、次いで「家族の負担が大きいこと」が 25.5%となっている。

“身体（軽度）”は、「生活費や収入が十分でないこと」が 20.5%と最も多く、次いで「健康状態が悪いこと」と「特にない」が 19.9%となっている。

“知的・子ども”は「家族の負担が大きいこと」が 47.7%と最も多く、次いで「災害が起きたときのこと」が 46.2%、「友人がいない、少ないこと」と「就職や進学のこと」が 41.5%と 4 割を超えている。

“知的・大人”は、「急病になったときのこと」が 35.8%と最も多く、次いで「災害が起きたときのこと」が 34.9%となっている。

“精神障がい”は、「生活費や収入が十分でないこと」が 53.7%と最も多く、次いで「友人がいない、少ないこと」が 44.7%と 4 割を超えている。

《障がいの種別（年代別） 現在、困っていること（上位 5 位）》

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全 体 【回答数=594】	生活費や収入が十分でない 29.0%	災害が起きたときのこと 28.8%	家族の負担が大きい 26.9%	急病になったときのこと 24.9%	友人がいない・少ない 22.7%
身体・子ども 【該当数=28】	家族の負担が大きい 46.4%	災害が起きたときのこと 39.3%	急病になったときのこと 32.1%	健康状態が悪い／ 住まいのこと／ 就職や進学のこと 21.4%	
身体（重度） 【該当数=141】	生活費や収入が十分でない 31.2%	家族の負担が大きい 25.5%	健康状態が悪い 22.7%	災害が起きたときのこと 24.1%	急病になったときのこと 22.0%
身体（軽度） 【該当数=156】	生活費や収入が十分でない 20.5%	健康状態が悪い／ 特にない 19.9%		災害が起きたときのこと 19.2%	障がいの程度がすすむ 17.9%
知的・子ども 【該当数=65】	家族の負担が大きい 47.7%	災害が起きたときのこと 46.2%	友人がいない・少ない／ 就職や進学のこと 41.5%		勉強についていけない 36.9%
知的・大人 【該当数=106】	急病になったときのこと 35.8%	災害が起きたときのこと 34.9%	友人がいない・少ない 31.1%	家族の負担が大きい 29.2%	生活費や収入が十分でない 25.5%
精神障がい 【該当数=123】	生活費や収入が十分でない 53.7%	友人がいない・少ない 44.7%	健康状態が悪い 39.8%	家族の負担が大きい 37.4%	職場や地域の人間関係 30.1%

日常生活における将来の心配を、障がいの種別（年代別）で見ると、“身体・子ども”は「災害が起きたときのこと」が64.3%と最も多く、次いで「就職や進学のこと」が60.7%と、ともに6割を超えている。

“身体（重度）”は、「生活費や収入が十分でないこと」が52.5%と最も多く、次いで「障がいの程度がすすむこと」が49.6%となっている。

“身体（軽度）”は、「障害の程度がすすむこと」が48.1%、次いで「生活費や収入が十分でないこと」が47.4%と、ともに4割を超えている。

“知的・子ども”は「就職や進学のこと」が70.8%と最も多く、次いで「生活費や収入が十分でないこと」が69.2%、「災害が起きたときのこと」が67.7%、「介護者や介助者がいない、十分でないこと」が61.5%、「家族の負担が大きいこと」が60.0%と、第1位～第5位すべてが6割を超えている。

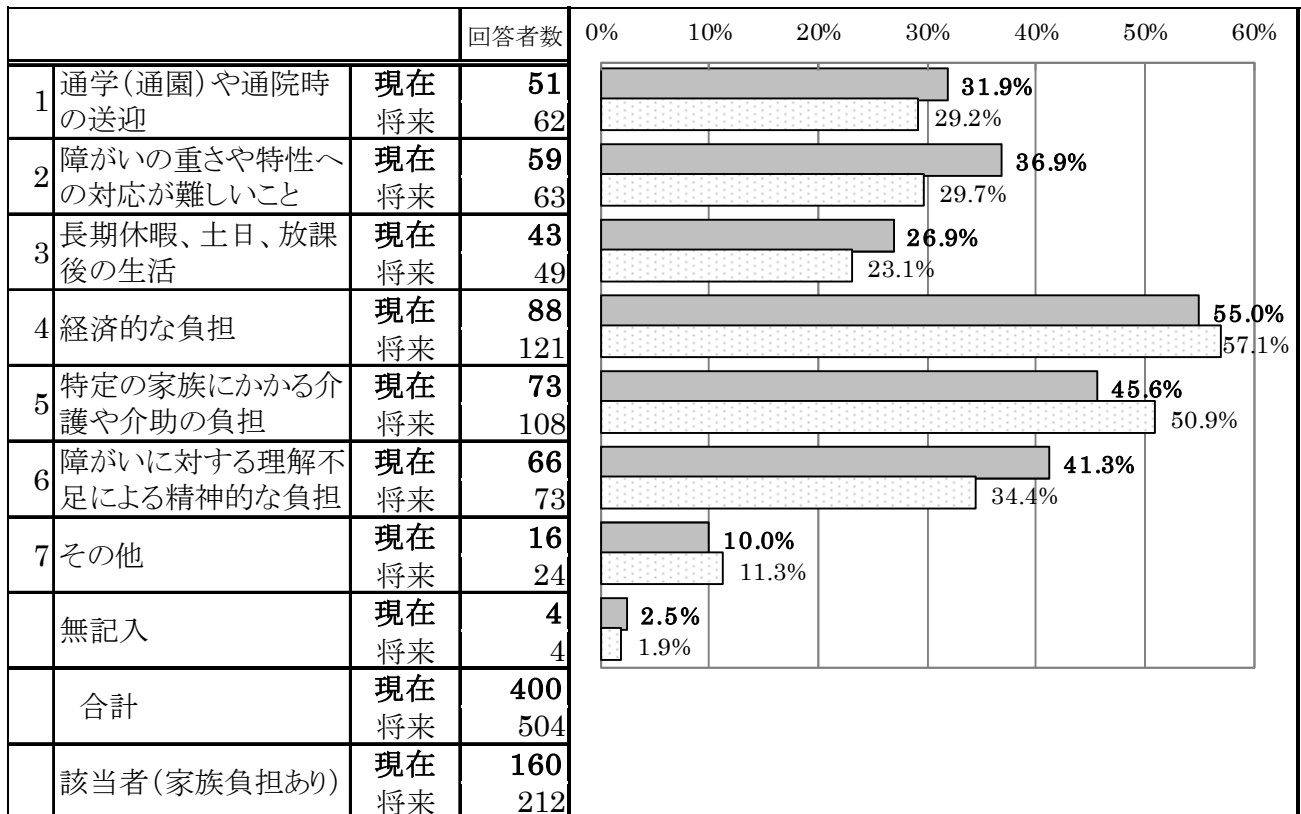
“知的・大人”は、「生活費や収入が十分でないこと」が64.2%と最も多く、次いで「災害が起きたときのこと」が63.2%と、ともに6割を超えている。

“精神障がい”は、「生活費や収入が十分でないこと」が64.2%と最も多く、次いで「急病になったときのこと」が45.5%となっている。

《障がいの種別（年代別） 将来の心配（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答者 計=594】	生活費や収入が十分でない 56.1%	災害が起きたときのこと 46.6%	急病になったときのこと 45.6%	障がいの程度がすすむ 43.6%	家族の負担が大きい 35.7%
身体・子ども 【該当者数=28】	災害が起きたときのこと 64.3%	就職や進学のこと 60.7%	障がいの程度がすすむ 57.1%	生活費や収入が十分でない／ 家族の負担が大きい／ 急病になったときのこと 46.4%	
身体（重度） 【該当者数=141】	生活費や収入が十分でない 52.5%	障がいの程度がすすむ 49.6%	災害が起きたときのこと 44.0%	急病になったときのこと 40.4%	家族の負担が大きい 41.1%
身体（軽度） 【該当者数=156】	障がいの程度がすすむ 48.1%	生活費や収入が十分でない 47.4%	急病になったときのこと 37.2%	災害が起きたときのこと 35.3%	健康状態が悪い 23.1%
知的・子ども 【該当者数=65】	就職や進学のこと 70.8%	生活費や収入が十分でない 69.2%	災害が起きたときのこと 67.7%	介護者がいない・不十分 61.5%	家族の負担が大きい 60.0%
知的・大人 【該当者数=106】	生活費や収入が十分でない 64.2%	災害が起きたときのこと 63.2%	急病になったときのこと 59.4%	介護者がいない・不十分 49.1%	住まいのこと 41.5%
精神障がい 【該当者数=123】	生活費や収入が十分でない 64.2%	急病になったときのこと 45.5%	災害が起きたときのこと 42.3%	障がいの程度がすすむ 41.5%	介護者がいない・不十分 36.6%

② 困っている・心配のうち、家族負担が大きい内容（現在、将来）（複数回答）



※その他の主な内容（現在）：介護者が一人で介護が必要な人が複数いること、介護者の高齢化 など

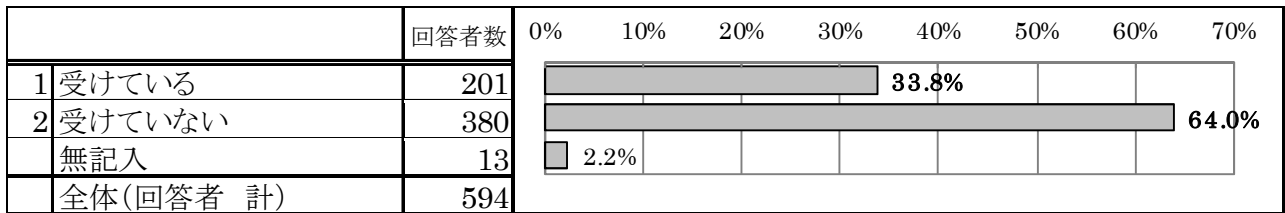
※その他の主な内容（将来）：親亡きあとのこと、老後の居場所がないこと、精神障がいが発症すること など

日常生活において現在、困っていることのうち、“家族の負担が大きい”の内容（複数回答）は、「**経済的な負担**」が 55.0%と最も多く、次いで「**特定の家族にかかる介護や介助の負担**」が 45.6%、「**障がいに対する周囲の理解不足による精神的な負担**」が 41.3%となっている。

また、将来の心配のうち、“家族の負担が大きい”の内容（複数回答）は、「**経済的な負担**」が 57.1%と最も多く、次いで「**特定の家族にかかる介護や介助の負担**」が 50.9%、「**障がいに対する周囲の理解不足による精神的な負担**」が 34.4%となっている。

3. 福祉サービスの利用について

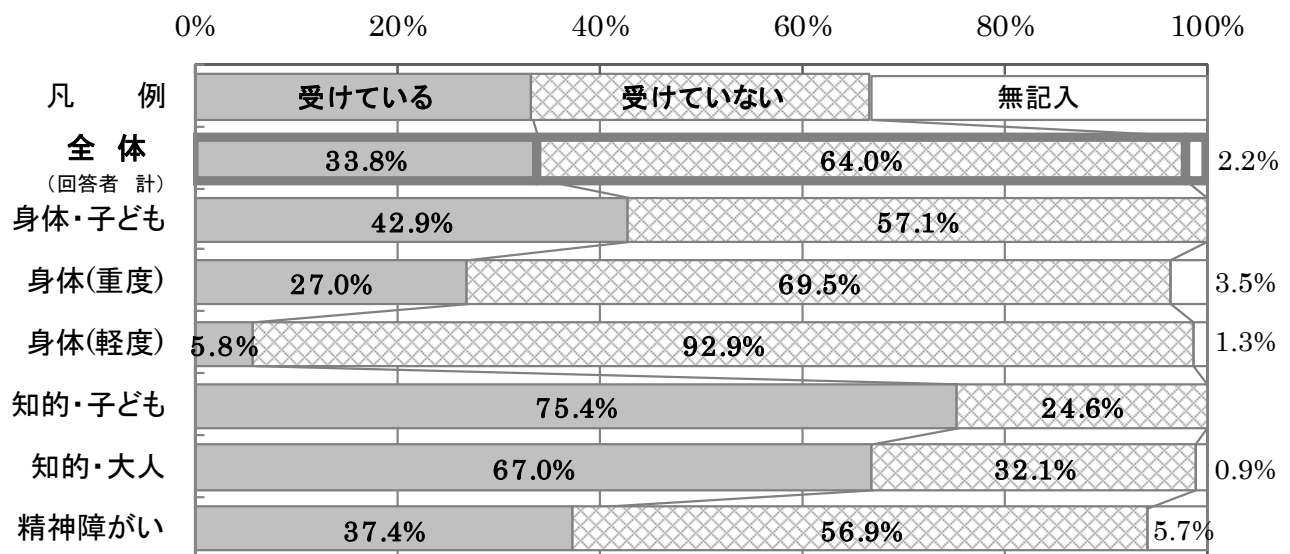
1) 障害福祉サービス、地域生活支援事業、児童通所サービスの受給状況



障害福祉サービス、地域生活支援事業、児童通所サービスについては、現在「受けていない」が64.0%、「受けている」が33.8%となっている。

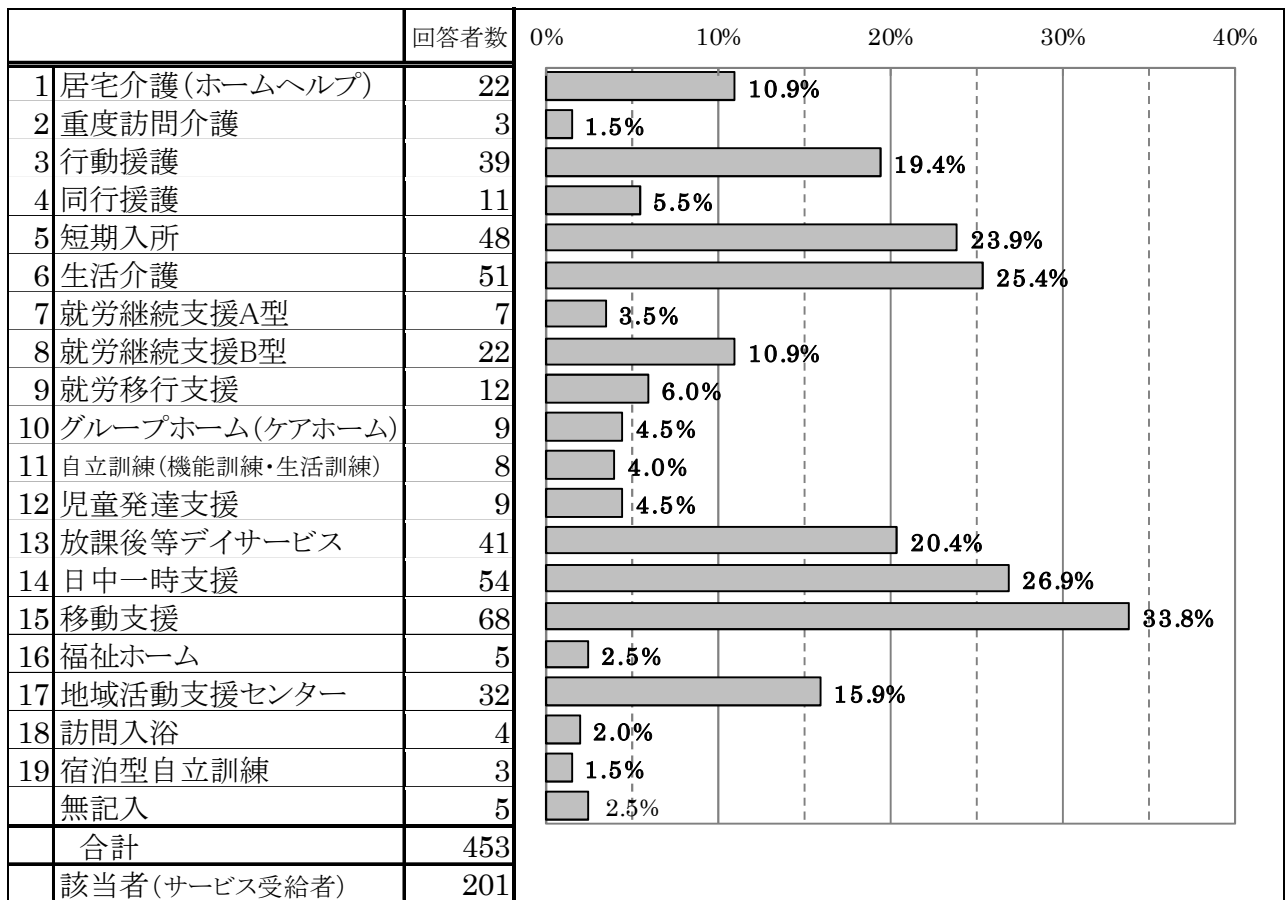
障がいの種別（年代別）でみると、「受けている」は“知的・子ども”が75.4%と最も多く、次いで“知的・大人”が67.0%、“身体・子ども”が42.9%、“精神障がい”が37.4%、“身体（重度）”が27.0%、“身体（軽度）”が5.8%となっている。

《障がいの種別（年代別） 障害福祉サービス、地域生活支援事業、児童通所サービスの受給状況》



※身体・子ども、知的・子どもの「無記入」の0.0%は省略

2) 受給しているサービスの種類（複数回答）



現在、受けている福祉サービス（複数回答）は、「移動支援」が 33.8%と最も多く、次いで「日中一時支援」が 26.9%、「生活介護」が 25.4%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、“身体（重度）”は、「移動支援」が47.4%と最も多く、次いで「生活介護」が42.1%となっており、ともに4割を超えている。

“知的・子ども”は、「放課後等デイサービス」が73.5%と最も多く、次いで「日中一時支援」が46.9%となっている。

“知的・大人”は、「移動支援」が50.7%と最も多く、次いで「生活介護」が46.5%となっている。

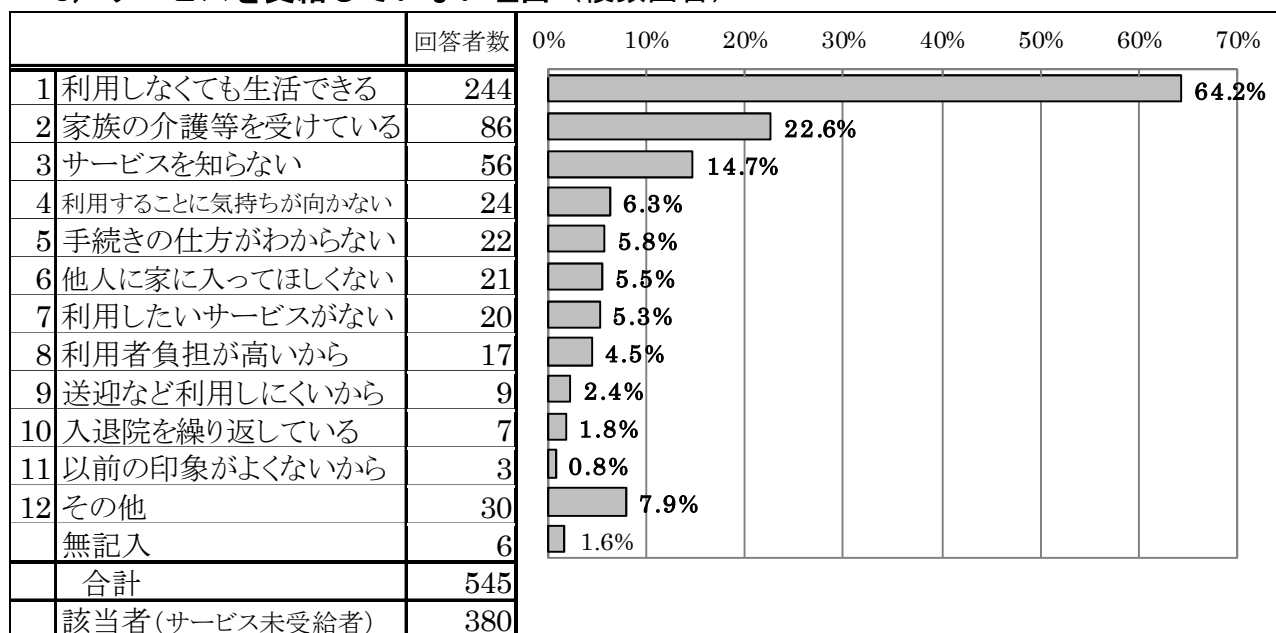
“精神障がい”は、「地域活動支援センター」が34.8%と最も多く、次いで「就労継続支援B型」と「就労移行支援」がともに17.4%となっている。

《障がいの種別（年代別） 受給しているサービスの種類（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
サービス受給者 【該当者数=201】	移動支援 33.8%	日中一時支援 26.9%	生活介護 25.4%	短期入所 23.9%	行動援護 19.4%
身体（重度） 【該当者数=38】	移動支援 47.4%	生活介護 42.1%	短期入所 31.6%	行動援護／ 日中一時支援	26.3%
知的・子ども 【該当者数=49】	放課後等デイ サービス 73.5%	日中一時支援 46.9%	移動支援 34.7%	短期入所 24.5%	児童発達支援 18.4%
知的・大人 【該当者数=71】	移動支援 50.7%	生活介護 46.5%	短期入所 33.8%	行動援護 32.4%	日中一時支援 29.6%
精神障がい 【該当者数=46】	地域活動支援 センター 34.8%	就労継続支援B型／ 就労移行支援 17.4%		居宅介護（ホ ームヘルプ） 15.2%	短期入所／生 活介護 13.0%

※身体・子ども【該当者数=12】と身体（軽度）【該当者数=9】は省略

3) サービスを受給していない理由（複数回答）



※その他の主な内容：等級・認定等のため（5）、自分でがんばる（4）、手続きが複雑（2）、現在、入院中のため（2）、施設に入所している など

福祉サービスを受けていない理由（複数回答）は、「利用しなくても生活できるから」が64.2%と最も多く、次いで「家族の介護や介助を受けているから」が22.6%、「サービスがあることを知らないから」が14.7%となっている。

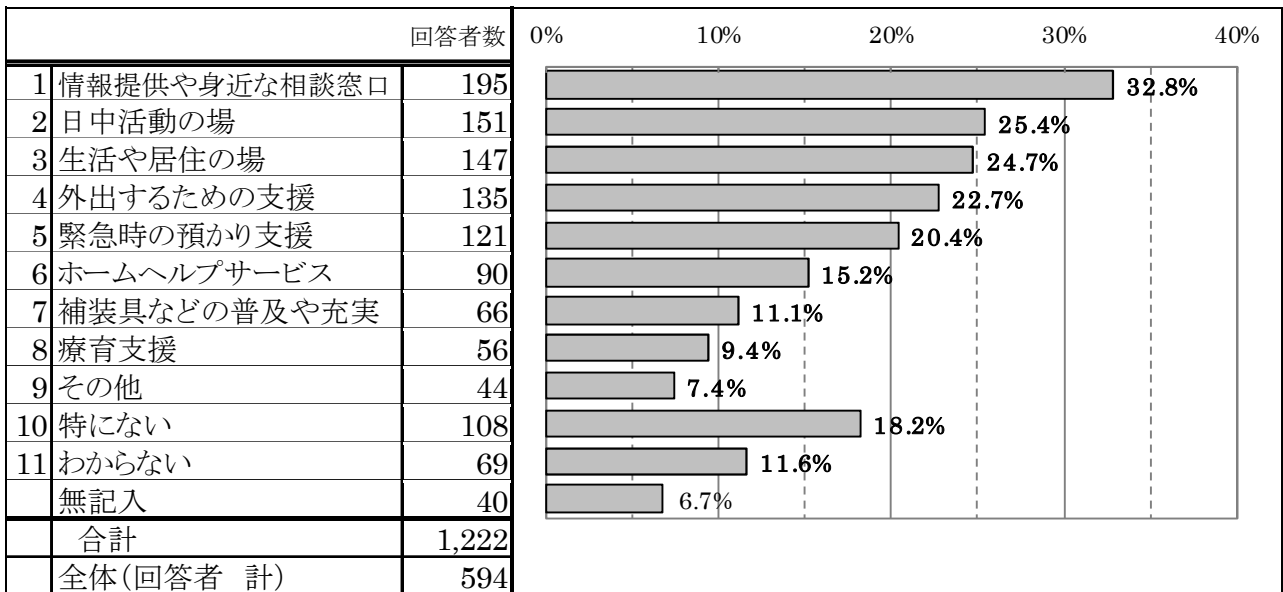
障がいの種別（年代別）でみると、いずれも「利用しなくても生活できるから」が最も多く、次いで「家族の介護や介助を受けているから」などとなっている。

＜障がいの種別（年代別） サービスを受給していない理由（上位5位）＞

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
サービス未受給者 【該当者数=380】	利用しなくても生活できる 64.2%	家族の介護等を受けている 22.6%	サービスを知らない 14.7%	その他 7.9%	利用することに気持ちが向かない 6.3%
身体（重度） 【該当者数=98】	利用しなくても生活できる 64.3%	家族の介護等を受けている 23.5%	サービスを知らない 12.2%	他人に家に入ってほしくない 10.2%	その他 9.2%
身体（軽度） 【該当者数=145】	利用しなくても生活できる 78.6%	家族の介護等を受けている 15.9%	サービスを知らない 15.2%	手続きの仕方がわからない／その他 4.8%	
知的・大人 【該当者数=34】	利用しなくても生活できる 61.8%	家族の介護等を受けている 38.2%	利用することに気持ちが向かない 11.8%	利用者負担が高いから／その他 8.8%	
精神障がい 【該当者数=67】	利用しなくても生活できる 44.8%	家族の介護等を受けている／サービスを知らない 23.9%	利用することに気持ちが向かない 14.9%	手続きの仕方がわからない 13.4%	

※身体・子ども【該当者数=16】と知的・子ども【該当者数=16】は省略

4) 今後、特に必要な支援・サービス（複数回答）



※その他の主な内容：経済的な支援（5）、就労支援（3）、病院への送迎（3）、入院時の付き添い（2） など

毎日生活を送るうえで、今後、特に必要な支援・サービス（複数回答）は、「福祉サービスを利用するための**情報提供や身近な相談窓口**」が 32.8%と最も多く、次いで「生活介護・就労訓練・自立訓練・地域活動支援センターなどの**日中活動の場**」が 25.4%、「グループホーム・福祉ホーム・入所施設などの**生活や居住の場**」が 24.7%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、“身体・子ども”は「短期入所や日中一時支援などの緊急時の預かり支援」が53.6%と最も多く、次いで「放課後等デイサービス・児童発達支援などの療育支援」が42.9%となっている。

“身体（重度）”は、「福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口」が24.8%と最も多く、次いで「同行援護・行動援護・移動支援などの外出するための支援」が20.6%となっている。

“身体（軽度）”は、「福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口」が34.0%と最も多く、次いで「特にない」が32.7%となっている。

“知的・子ども”は、「放課後等デイサービス・児童発達支援などの療育支援」が72.3%と最も多く、次いで「短期入所や日中一時支援などの緊急時の預かり支援」が58.5%となっている。

“知的・大人”は、「グループホーム・福祉ホーム・入所施設などの生活や居住の場」が61.3%と最も多く、次いで「短期入所や日中一時支援などの緊急時の預かり支援」が44.3%となっている。

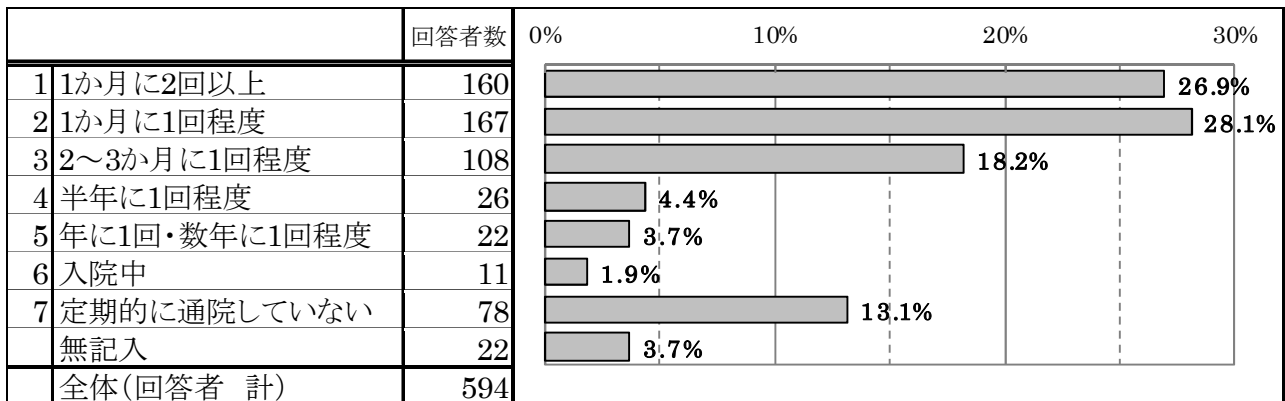
“精神障がい”は、「福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口」が35.8%と最も多く、次いで「生活介護・就労訓練・自立訓練・地域活動支援センターなどの日中活動の場」が30.1%となっている。

＜障がいの種別（年代別） 今後、特に必要な支援・サービス（上位5位）＞

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答者 計=594】	情報提供や身近な相談窓口 32.8%	日中活動の場 25.4%	生活や居住の場 24.7%	外出するための支援 22.7%	緊急時の預かり支援 20.4%
身体・子ども 【該当者数=28】	緊急時の預かり支援 53.6%	療育支援 42.9%	外出するための支援／ 情報提供や身近な相談窓口 39.3%		情報提供や身近な相談窓口 39.3%
身体（重度） 【該当者数=141】	情報提供や身近な相談窓口 24.8%	外出するための支援 20.6%	補装具などの普及や充実 19.9%	日中活動の場／ 特にない 19.1%	
身体（軽度） 【該当者数=156】	情報提供や身近な相談窓口 34.0%	特にない 32.7%	わからない 15.4%	ホームヘルプサービス／ 外出するための支援 10.3%	
知的・子ども 【該当者数=65】	療育支援 72.3%	緊急時の預かり支援 58.5%	日中活動の場 56.9%	生活や居住の場／ 外出するための支援 49.2%	
知的・大人 【該当者数=106】	生活や居住の場 61.3%	緊急時の預かり支援 44.3%	日中活動の場 42.5%	外出するための支援 40.6%	情報提供や身近な相談窓口 35.8%
精神障がい 【該当者数=123】	情報提供や身近な相談窓口 35.8%	日中活動の場 30.1%	生活や居住の場 19.5%	ホームヘルプサービス／ 外出するための支援 16.3%	

4. 保健・医療について

1) 現在の通院状況（リハビリを含む）



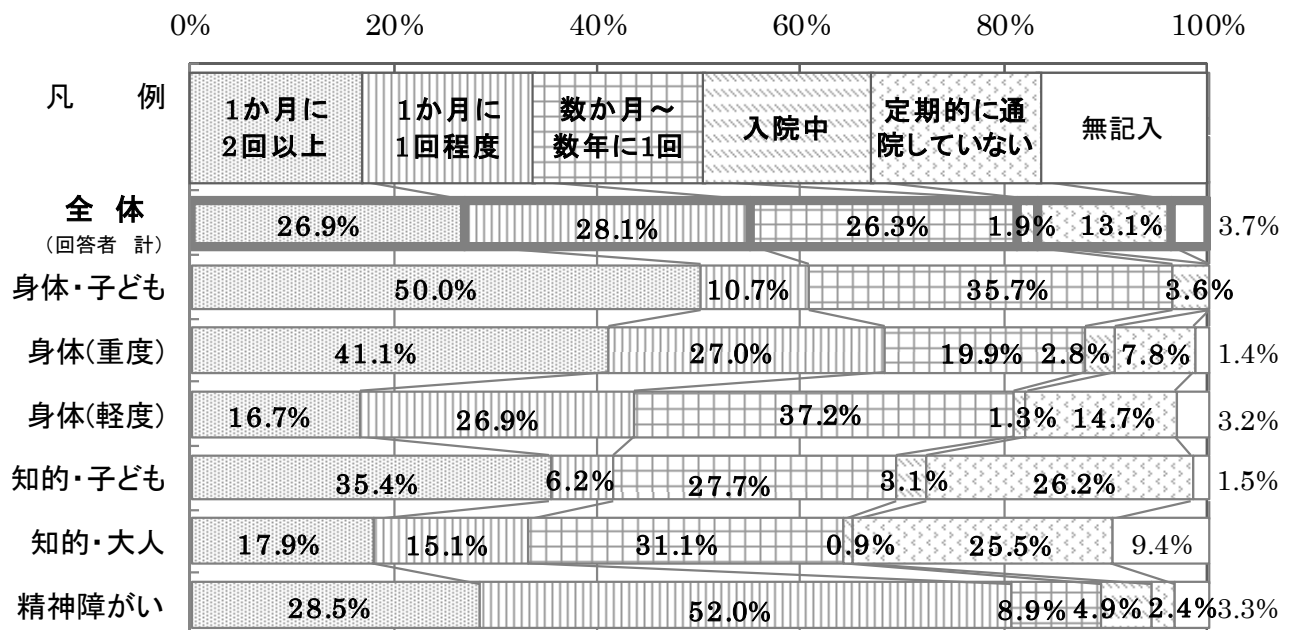
リハビリを含む現在の通院状況は、「1 か月に 1 回程度」が 28.1%と最も多く、次いで「1 か月に 2 回以上」が 26.9%、「2～3 ヶ月に 1 回程度」が 18.2%、「定期的に通院していない」が 13.1%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、「1 か月に 2 回以上」は、“身体・子ども”が 50.0%と最も多く、次いで“身体（重度）”が 41.1%、“知的・子ども”が 35.4%となっている。

「1 か月に 1 回程度」は“精神障がい”が 52.0%と最も多くなっている。

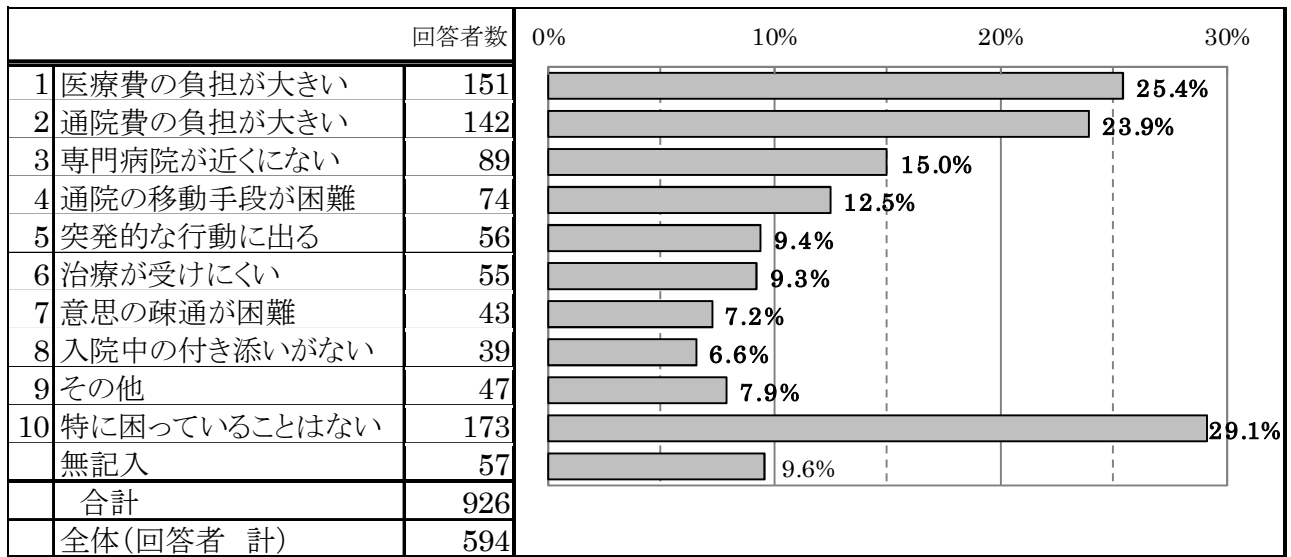
「数か月～数年に 1 回」（「2～3 ヶ月に 1 回程度」「半年に 1 回程度」「年に 1 回・数年に 1 回程度」の計）は、“身体（軽度）”が 37.2%と最も多く、次いで“知的・大人”が 31.1%となっている。

＜障がいの種別（年代別） 現在の通院状況＞



※身体・子どもの「定期的に通院していない」「無記入」の 0.0%は省略

2) 医療を受ける上で困っていること（複数回答）



※その他の主な内容:他の医院や診療科目の受診(11)、通院の時間(5)、通院に付き添いが必要なこと(5)、診察に連れて行くのが大変(4) など

医療を受ける上で困っていること（複数回答）は、「特に困っていることはない」が29.1%と最も多く、次いで「医療費の負担が大きいこと」が25.4%、「通院費（交通費）の負担が大きいこと」が23.9%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、“身体・子ども”は「通院費（交通費）の負担が大きいこと」が35.7%と最も多く、次いで「専門的な治療ができる病院が近くにないこと」が25.0%となっている。

“身体（重度）”は、「特に困っていることはない」が29.1%と最も多く、次いで「通院費（交通費）の負担が大きいこと」が23.4%となっている。

“身体（軽度）”は、「特に困っていることはない」が40.4%と最も多く、次いで「医療費の負担が大きいこと」が36.5%となっている。

“知的・子ども”は、「通院費（交通費）の負担が大きいこと」が27.7%と最も多く、次いで「障害や病気が原因で、突発的な行動に出ることがあること」が26.2%となっている。

“知的・大人”は、「特に困っていることはない」が19.8%と最も多く、次いで「医療費の負担が大きいこと」が17.9%となっている。

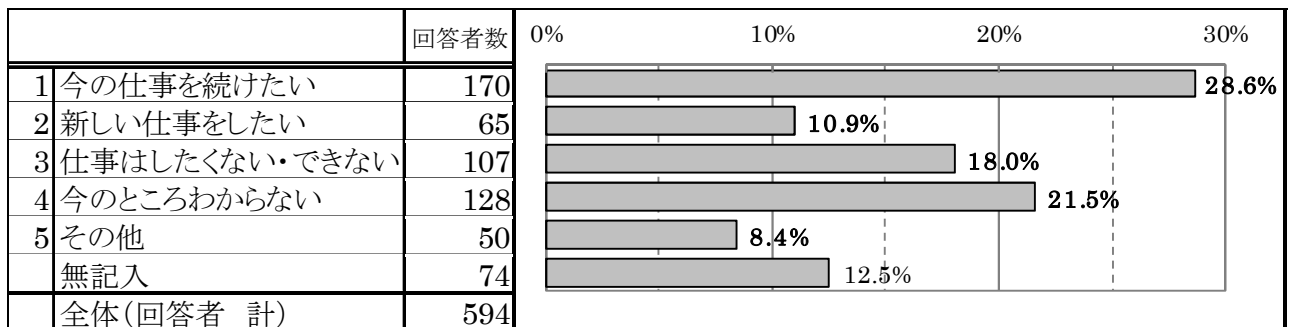
“精神障がい”は、「通院費（交通費）の負担が大きいこと」が39.8%と最も多く、次いで「医療費の負担が大きいこと」が28.5%となっている。

《障がいの種別（年代別） 医療を受ける上で困っていること（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答者 計=594】	特に困っていることはない 29.1%	医療費の負担が大きい 25.4%	通院費の負担が大きい 23.9%	専門病院が近くにない 15.0%	通院の移動手段が困難 12.5%
身体・子ども 【該当者数=28】	通院費の負担が大きい 35.7%	専門病院が近くにない 25.0%	意思の疎通が困難 17.9%	医療費の負担が大きい／通院の移動手段が困難／入院中の付き添いがい／治療が受けにくい 14.3%	
身体（重度） 【該当者数=141】	特に困っていることはない 29.1%	通院費の負担が大きい 23.4%	通院の移動手段が困難 18.4%	医療費の負担が大きい／専門病院が近くにない 14.9%	
身体（軽度） 【該当者数=156】	特に困っていることはない 40.4%	医療費の負担が大きい 36.5%	通院費の負担が大きい 17.9%	専門病院が近くにない 10.9%	通院の移動手段が困難 5.8%
知的・子ども 【該当者数=65】	通院費の負担が大きい 27.7%	突発的な行動に出る 26.2%	医療費の負担が大きい／専門病院が近くにない／特に困っていることはない 24.6%		
知的・大人 【該当者数=106】	特に困っていることはない 19.8%	医療費の負担が大きい 17.9%	意思の疎通が困難／突発的な行動に出る 17.0%		治療が受けにくい 16.0%
精神障がい 【該当者数=123】	通院費の負担が大きい 39.8%	医療費の負担が大きい 28.5%	特に困っていることはない 22.8%	通院の移動手段が困難 18.7%	専門病院が近くにない 14.6%

5. 就労支援について

1) 収入を得る仕事の希望



※その他の主な内容：今は学生等で将来的に就労を希望（10）、勤務形態等の希望にあった仕事（8）、早く仕事をしたい（8）、就労の場がない（6）、退職した（4） など

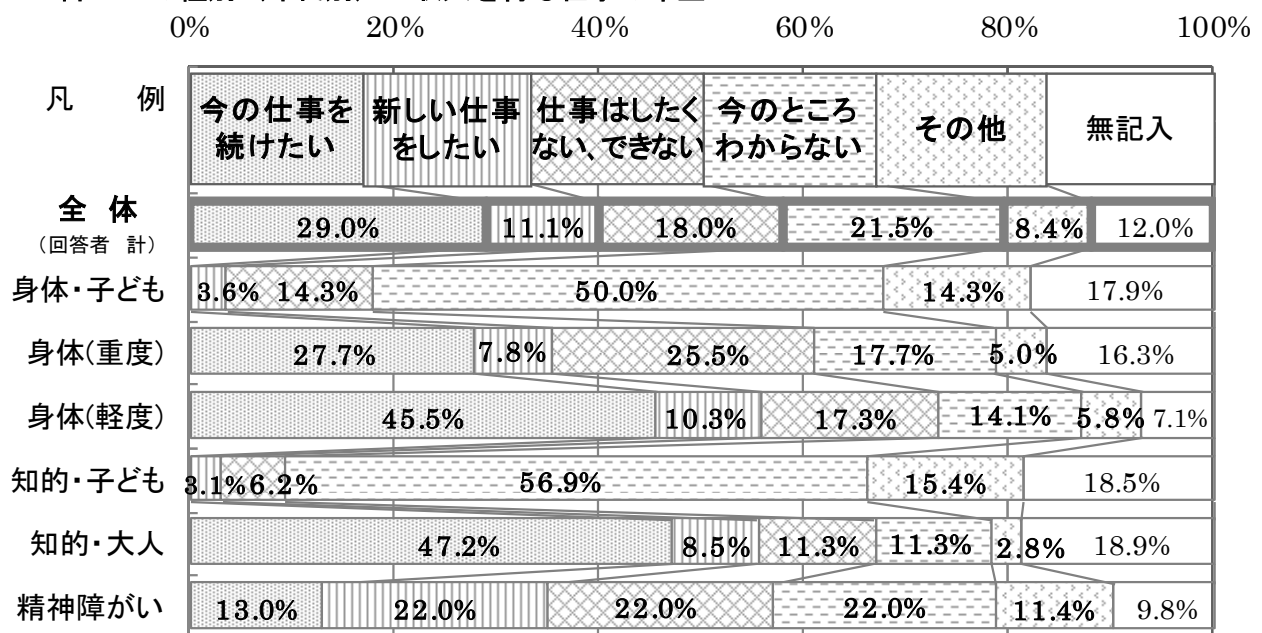
収入を得る仕事については、「今の仕事を続けたい」が 28.6%と最も多く、次いで「今のところわからない」が 21.5%、「仕事はしたくない、もしくはできない」が 18.0%、「新しい仕事をしたい」が 10.9%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、「今のところわからない」は、“知的・子ども”が 56.9%と最も多く、次いで“身体・子ども”が 50.0%と、ともに半数を超えている。

「今の仕事を続けたい」は“知的・大人”が 47.2%と最も多く、次いで“身体（軽度）”が 45.5%と、ともに 4 割を超えており、“身体（重度）”は 27.7%となっている。

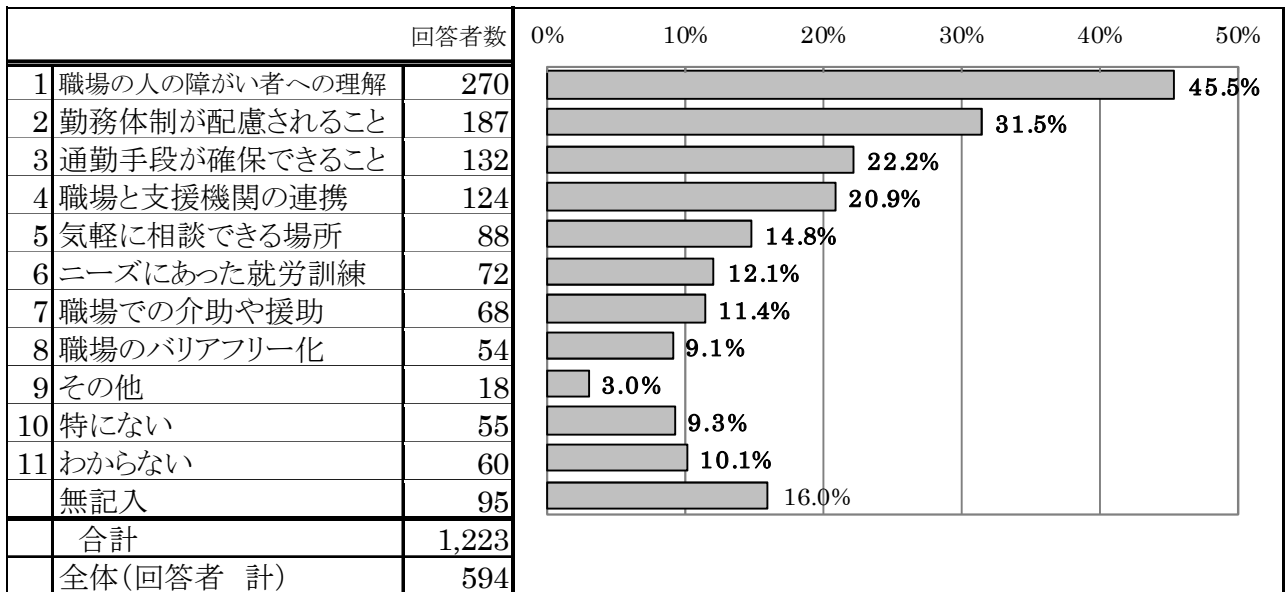
“精神障がい”は、「新しい仕事をしたい」「仕事はしたくない、もしくはできない」「今のところわからない」がともに 22.0%で最も多くなっている。

《障がいの種別（年代別） 収入を得る仕事の希望》



※身体・子ども、知的・子どもの「今の仕事を続けたい」の 0.0%は省略

2) 就労支援として必要なこと（複数回答）



※その他の主な内容：多様な職種（3）、収入が確保されること（3）、自宅での就労 など

障がい者の就労支援として必要なこと（複数回答）は、「職場の上司や同僚の障がい者への理解があること」が45.5%と最も多く、次いで「短時間勤務や勤務日数等の勤務体制が配慮されること」が31.5%、「通勤手段が確保できること」が22.2%となっている。

Ⅱ 市民アンケート調査の結果

障がいの種別（年代別）でみると、“身体・子ども”以外は、いずれも「職場の上司や同僚の障がい者への理解があること」が最も多くなっている。

“身体・子ども”は、「その他」が71.4%と最も多く7割を超えており、次いで「職場の上司や同僚の障がい者への理解があること」が42.9%となっている。

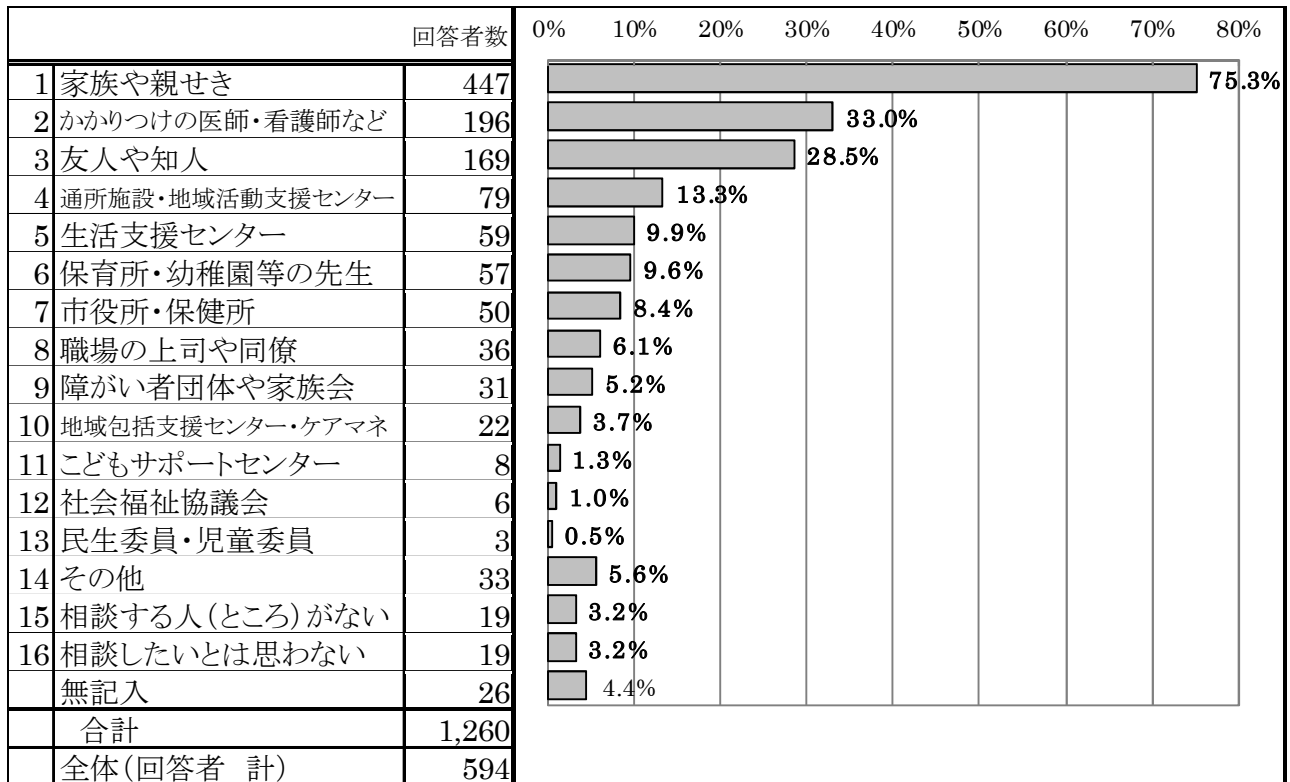
また、“知的・子ども”は第2位の「就労後のフォロー体制など、職場と支援機関の連携が取れていること」が50.8%と半数を超えている。

《障がいの種別（年代別） 就労支援として必要なこと（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答数=594】	職場の人の障がい者への理解 45.5%	勤務体制が配慮されること 31.5%	通勤手段が確保できること 22.2%	職場と支援機関の連携 20.9%	気軽に相談できる場所 14.8%
身体・子ども 【該当数=28】	その他 71.4%	職場の人の障がい者への理解 42.9%	わからない 28.6%	職場での介助や援助／通勤手段が確保できること／職場と支援機関の連携 21.4%	
身体（重度） 【該当数=141】	職場の人の障がい者への理解 39.7%	勤務体制が配慮されること 36.9%	通勤手段が確保できること 19.9%	職場のバリアフリー化 12.8%	職場での介助や援助／特にな 11.3%
身体（軽度） 【該当数=156】	職場の人の障がい者への理解 38.5%	勤務体制が配慮されること 31.4%	通勤手段が確保できること 27.6%	職場のバリアフリー化 16.7%	特にな 14.7%
知的・子ども 【該当数=65】	職場の人の障がい者への理解 69.2%	職場と支援機関の連携 50.8%	勤務体制が配慮されること 30.8%	職場での介助や援助 29.2%	ニーズにあった就労訓練 21.5%
知的・大人 【該当数=106】	職場の人の障がい者への理解 41.5%	職場と支援機関の連携 21.7%	通勤手段が確保できること 20.8%	気軽に相談できる場所 17.9%	職場での介助や援助 17.0%
精神障がい 【該当数=123】	職場の人の障がい者への理解 49.6%	勤務体制が配慮されること 47.2%	職場と支援機関の連携／気軽に相談できる場所 22.8%		通勤手段が確保できること 19.5%

6. 相談支援や情報提供について

1) 悩みごとや心配ごとの相談相手（複数回答）



※その他の主な内容：本人が相談できない (3)、リハビリのスタッフ、弁護士 など

悩みごとや心配ごとがあるときの相談相手（複数回答）は、「**家族や親せき**」が 75.3%と最も多く、次いで「**かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など**」が 33.0%、「**友人や知人**」が 28.5%となっている。

Ⅱ 市民アンケート調査の結果

障がいの種別（年代別）で見ると、いずれも「家族や親せき」が最も多く、“身体・子ども”は85.7%と8割を超えている。

次いで、“身体・子ども”は「かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など」と「通園施設・保育所・幼稚園・学校の先生」が42.9%となっている。

“身体（重度）”は、「かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など」が31.9%となっている。

“身体（軽度）”は、「友人や知人」が37.8%となっている。

“知的・子ども”は、「通園施設・保育所・幼稚園・学校の先生」が67.7%と6割を超えている。

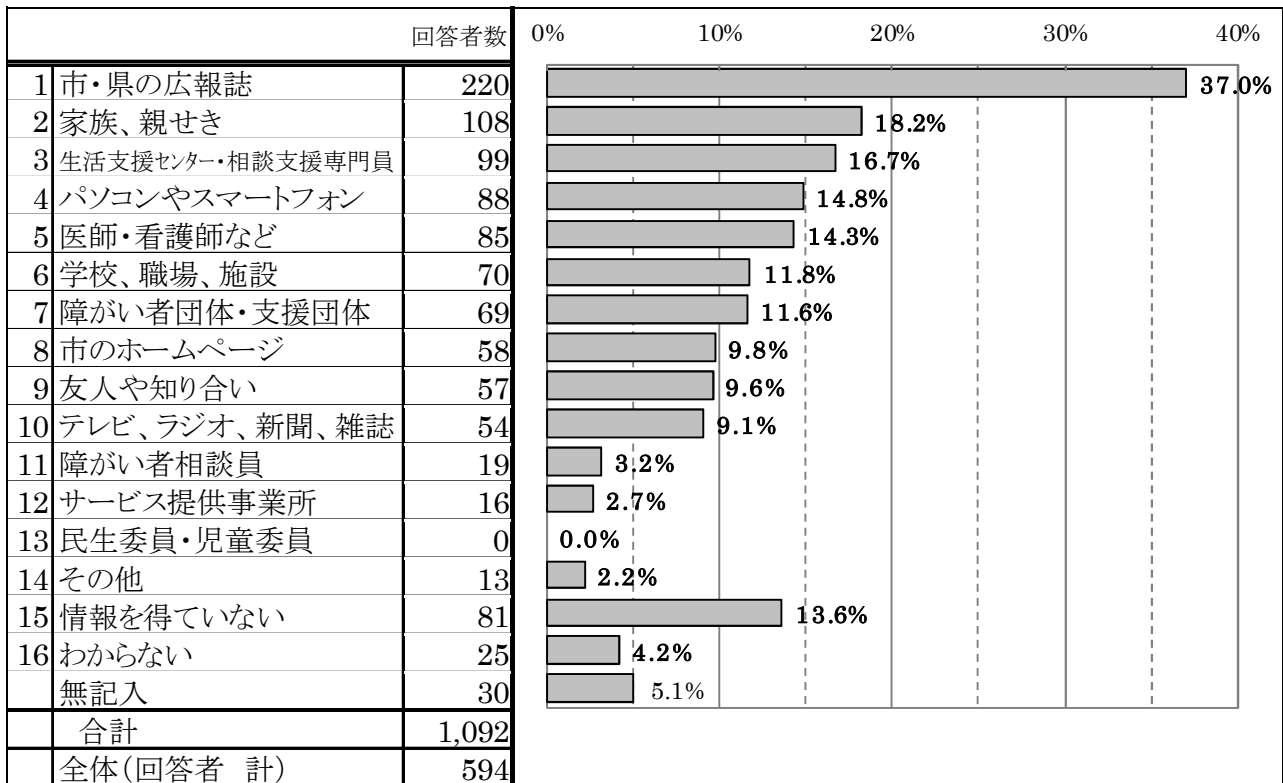
“知的・大人”は、「通所施設・地域活動支援センター」が34.9%となっている。

“精神障がい”は、「かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など」が54.5%と半数を超えている。

《障がいの種別（年代別） 悩みごとなどの相談相手（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答者 計=594】	家族や親せき 75.3%	かかりつけの 医師・看護師 33.0%	友人や知人 28.5%	通所施設・地域 活動支援セン ター 13.3%	生活支援セン ター 9.9%
身体・子ども 【該当者数=28】	家族や親せき 85.7%	かかりつけの医師・看護師／ 保育所・幼稚園等の先生 42.9%		友人や知人 21.4%	その他 14.3%
身体（重度） 【該当者数=141】	家族や親せき 77.3%	かかりつけの 医師・看護師 31.9%	友人や知人 29.8%	通所施設・地域 活動支援セン ター 9.9%	生活支援セン ター 9.2%
身体（軽度） 【該当者数=156】	家族や親せき 78.2%	友人や知人 37.8%	かかりつけの 医師・看護師 27.6%	市役所・保健所 10.3%	職場の上司や 同僚 6.4%
知的・子ども 【該当者数=65】	家族や親せき 70.8%	保育所・幼稚園 等の先生 67.7%	かかりつけの 医師・看護師 29.2%	友人や知人 27.7%	通所施設・地域 活動支援セン ター 20.0%
知的・大人 【該当者数=106】	家族や親せき 72.6%	通所施設・地域 活動支援セン ター 34.9%	生活支援セン ター 24.5%	かかりつけの 医師・看護師 19.8%	障がい者団体 や家族会 14.2%
精神障がい 【該当者数=123】	家族や親せき 66.7%	かかりつけの 医師・看護師 54.5%	友人や知人 23.6%	通所施設・地域 活動支援セン ター 17.9%	市役所・保健所 11.4%

2) 福祉サービスなどの情報の入手先（複数回答）



※その他の主な内容：市役所の窓口（3）、こどもサポートセンター、フリーペーパー、病院の事務の人 など

福祉サービスなどの情報の入手先（複数回答）は、「市・県の広報誌」が 37.0%と最も多く、次いで「家族、親せき」が 18.2%、「生活支援センター・相談支援専門員」が 16.7%となっている。

Ⅱ 市民アンケート調査の結果

障がいの種別（年代別）でみると、「市・県の広報誌」は、“身体（軽度）”が46.8%と最も多く、次いで“身体（重度）”が42.6%と4割を超えており、“身体・子ども”は37.0%となっている。

“知的・子ども”は「学校、職場、施設」が50.8%と最も多く半数を超えており、次いで「市・県の広報誌」が30.8%となっている。

“知的・大人”は「生活支援センター・相談支援専門員」が39.6%と最も多く、次いで「家族、親せき」が31.1%となっている。

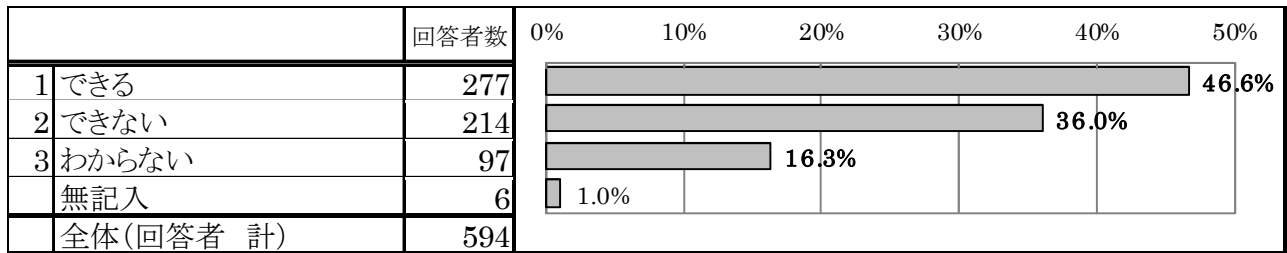
“精神障がい”は「医療機関の医師・看護師・ケースワーカー・指導員など」が30.1%と最も多く、次いで「市・県の広報誌」が29.3%となっている。

《障がいの種別（年代別） 福祉サービスなどの情報入手先（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答者 計=594】	市・県の広報誌 37.0%	家族、親せき 18.2%	生活支援センター・相談支援専門員 16.7%	パソコンやスマートフォン 14.8%	学校、職場、施設 11.8%
身体・子ども 【該当者数=28】	市・県の広報誌 39.3%	家族、親せき 28.6%	学校、職場、施設 25.0%	医師・看護師など 21.4%	生活支援センター・相談支援専門員／パソコンやスマートフォン／情報を得ていない 14.3%
身体（重度） 【該当者数=141】	市・県の広報誌 42.6%	家族、親せき 20.6%	情報を得ていない 14.9%	生活支援センター・相談支援専門員／パソコンやスマートフォン 13.5%	
身体（軽度） 【該当者数=156】	市・県の広報誌 46.8%	情報を得ていない 20.5%	パソコンやスマートフォン 17.9%	市のホームページ 14.7%	家族、親せき／テレビ、ラジオ、新聞、雑誌／友人や知り合い 10.9%
知的・子ども 【該当者数=65】	学校、職場、施設 50.8%	市・県の広報誌 30.8%	生活支援センター・相談支援専門員 29.2%	友人や知り合い 23.1%	障がい者団体・支援団体 20.0%
知的・大人 【該当者数=106】	生活支援センター・相談支援専門員 39.6%	家族、親せき 31.1%	市・県の広報誌／障がい者団体・支援団体 30.2%		学校、職場、施設 18.9%
精神障がい 【該当者数=123】	医師・看護師など 30.1%	市・県の広報誌 29.3%	生活支援センター・相談支援専門員 20.3%	パソコンやスマートフォン 14.6%	家族、親せき 17.8%

7. 災害時の避難などについて

1) 災害時での一人での避難

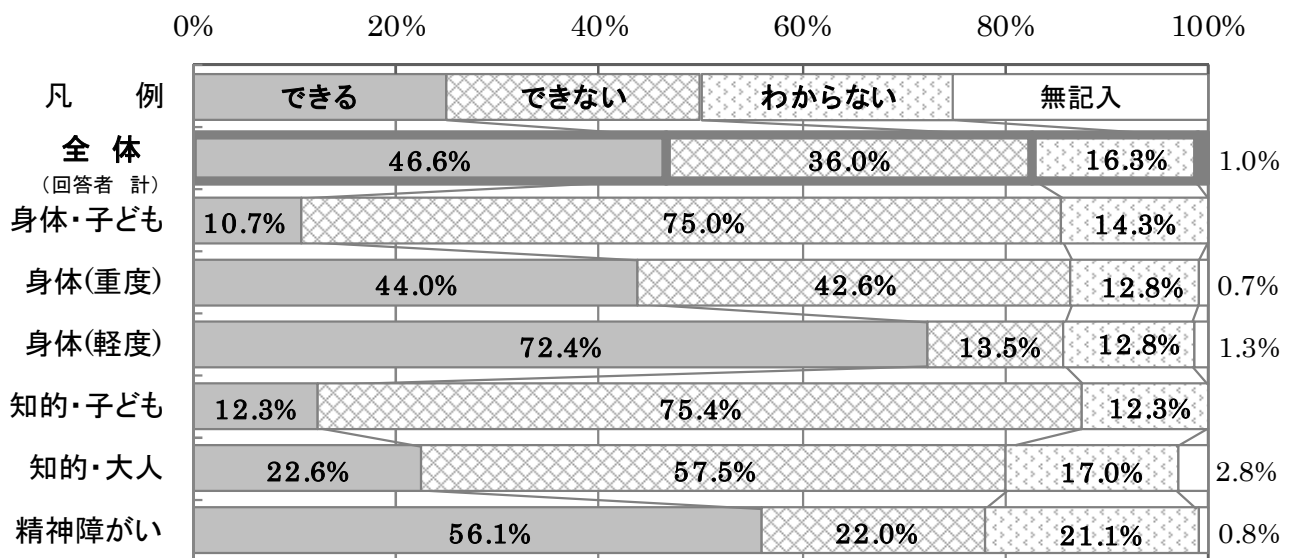


災害時に一人で避難することは、「できる」が46.6%、「できない」が36.0%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、「できる」は、“身体（軽度）”が72.4%と最も多く7割を超えており、“精神障がい”が56.1%、“身体（重度）”が44.0%となっている。

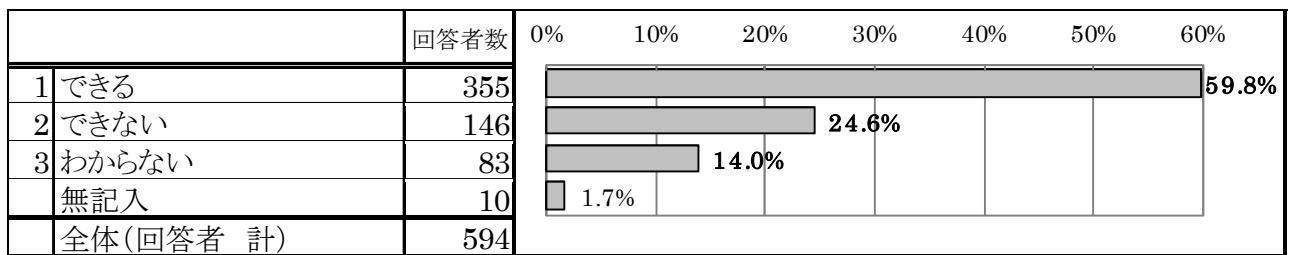
一方、“知的・大人”は22.6%、“知的・子ども”が12.3%、“身体・子ども”が10.7%と少なくなっている。

《障がいの種別（年代別） 災害時での一人での避難》



※身体・子ども、知的・子どもの「無記入」の0.0%は省略

2) 周囲の人への居場所の伝達

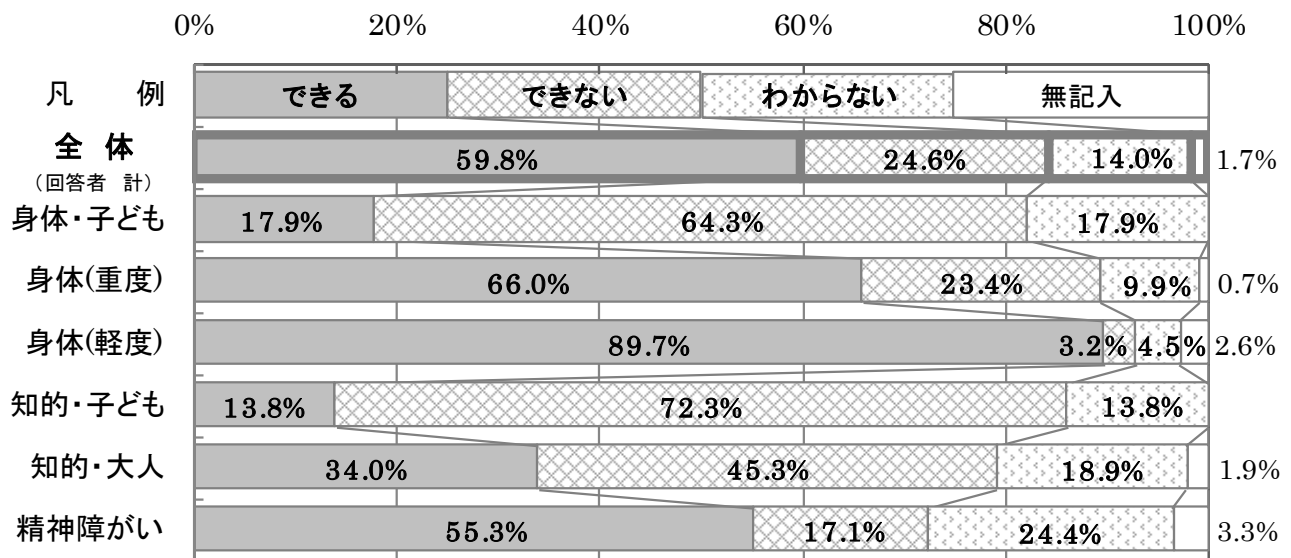


災害時などにおいて、機器などによる通知を含み、周囲の人に居場所を知らせることについては、「できる」が 59.8%、「できない」が 24.6%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、「できる」は、“身体（軽度）”は 89.7%と最も多く 9割程度であり、次いで“身体（重度）”は 66.0%、“精神障がい”は 55.3%と、ともに半数を超えている。

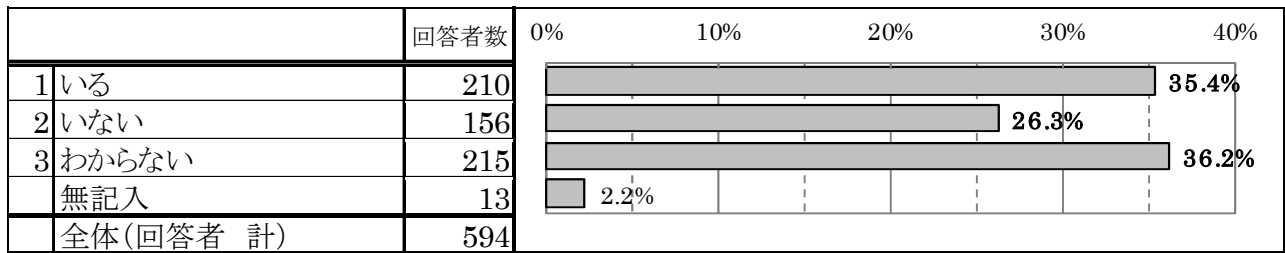
一方、“知的・大人”は 34.0%、“身体・子ども”は 17.9%、“知的・子ども”は 13.8%と少なくなっている。

《障がいの種別（年代別） 周囲の人への居場所の伝達》



※身体・子ども、知的・子どもの「無記入」の 0.0%は省略

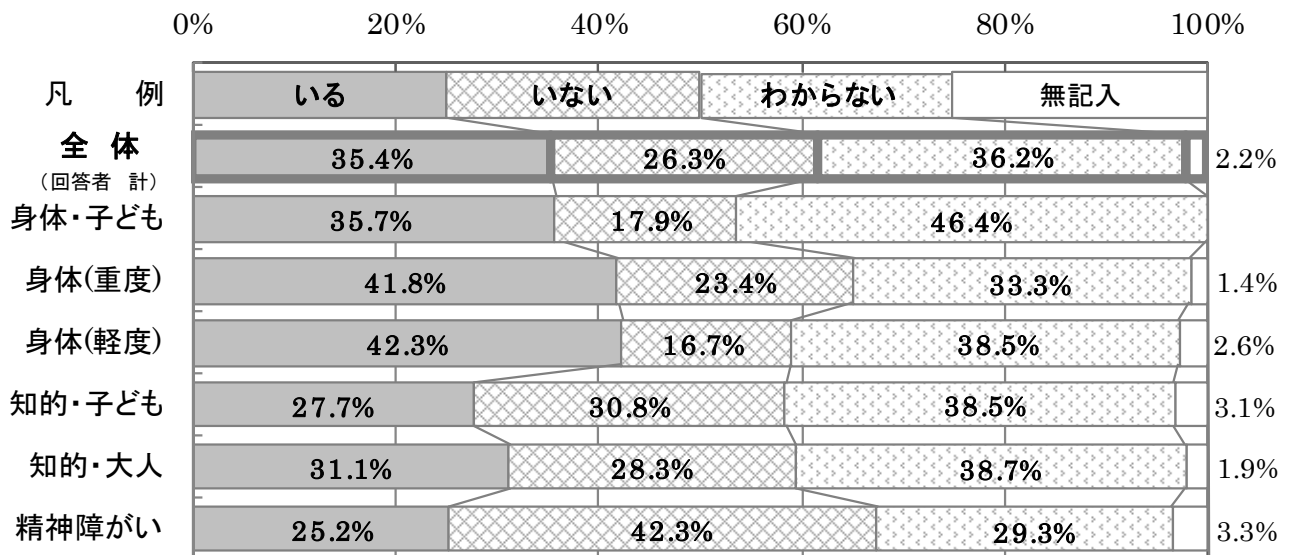
3) 近所で助けてくれる人の有無



災害時において近所で助けてくれる人については、「わからない」が 36.2%と最も多く、次いで「いる」が 35.4%、「いない」が 26.3%となっている。

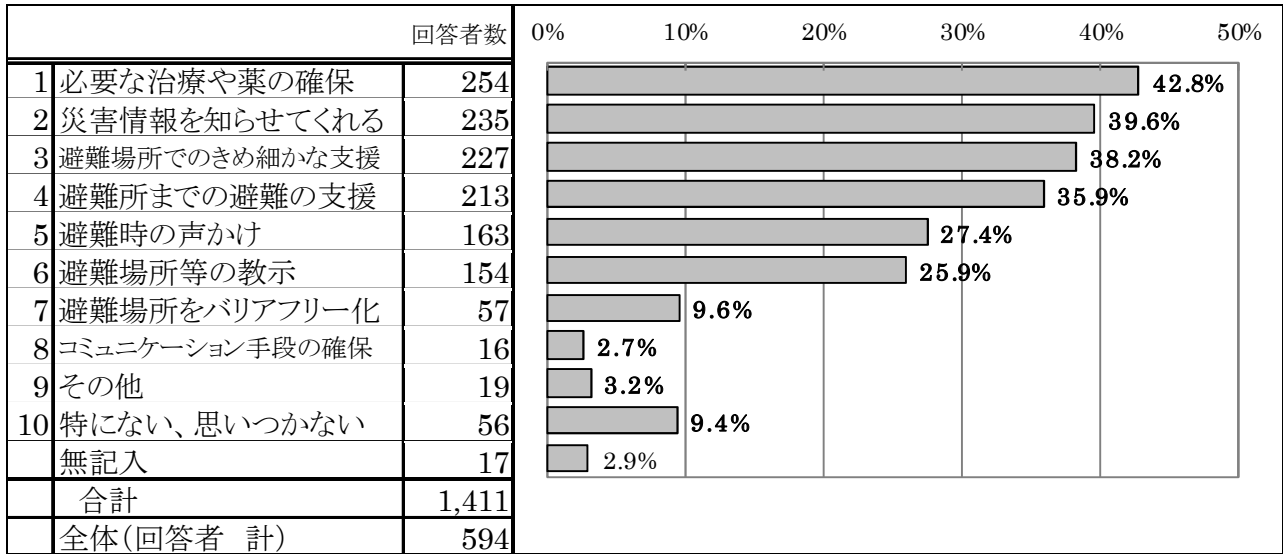
障がいの種別（年代別）でみると、「いる」は、“身体（軽度）”は 42.3%と最も多く、次いで“身体（重度）”は 41.8%、“身体・子ども”は 35.7%、“知的・大人”は 31.1% “知的・子ども”は 27.7%、“精神障がい”は 25.2%となっている。

《障がいの種別（年代別） 近所で助けてくれる人の有無》



※身体・子どもの「無記入」の 0.0%は省略

4) 災害発生時に支援してほしいこと（複数回答）



※その他の主な内容：トイレが困る (3)、自由に動けるスペース (3)、パニックになり予想できない (3)、シャワー・浴槽 (2)、補聴器 (1)、静かな場所 (1) など

災害発生時に支援してほしいこと（複数回答）は、「必要な治療や薬を確保してくれること」が 42.8%と最も多く、次いで「災害情報を知らせてくれること」が 39.6%、「避難場所で障がいに応じたきめ細かな支援をしてくれること」が 38.2%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、「必要な治療や薬を確保してくれること」は、“精神障がい”が62.6%と最も多く6割を超えており、“身体（重度）”は53.2%と半数を超えている。

「避難場所で障がいに応じたきめ細かな支援をしてくれること」は、“知的・大人”は50.9%と最も多く半数を超えており、次いで“身体・子ども”が46.4%と4割を超えている。

“身体（軽度）”は「災害情報を知らせてくれること」が50.6%と最も多く、半数を超えている。

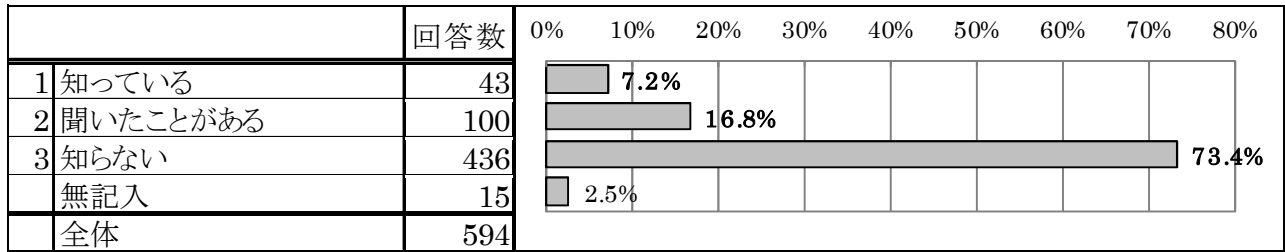
“知的・子ども”は「避難場所までの避難を支援してくれること」が70.6%と最も多く、次いで「避難場所で障がいに応じたきめ細かな支援をしてくれること」が60.0%と多くなっている。

《障がいの種別（年代別） 災害発生時に支援してほしいこと（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答者 計=594】	必要な治療や薬の確保 42.8%	災害情報を知らせてくれる 39.6%	避難場所でのきめ細かな支援 38.2%	避難所までの避難の支援 35.9%	避難時の声かけ 27.4%
身体・子ども 【該当数=28】	避難場所でのきめ細かな支援 46.4%	必要な治療や薬の確保 42.9%	避難所までの避難の支援 39.3%	避難時の声かけ 25.0%	避難場所の教示 21.4%
身体（重度） 【該当数=141】	必要な治療や薬の確保 53.2%	避難場所でのきめ細かな支援 39.7%	避難所までの避難の支援 38.3%	災害情報を知らせてくれる 36.2%	避難時の声かけ 15.6%
身体（軽度） 【該当数=156】	災害情報を知らせてくれる 50.6%	必要な治療や薬の確保 40.4%	避難場所の教示 28.2%	避難所までの避難の支援／ 避難場所でのきめ細かな支援 22.4%	
知的・子ども 【該当数=65】	避難所までの避難の支援 70.6%	避難場所でのきめ細かな支援 60.0%	避難時の声かけ 52.3%	避難場所の教示 19.2%	災害情報を知らせてくれる 23.1%
知的・大人 【該当数=106】	避難場所でのきめ細かな支援 50.9%	避難時の声かけ 47.2%	避難所までの避難の支援 45.3%	避難場所の教示 36.8%	災害情報を知らせてくれる 33.0%
精神障がい 【該当数=123】	必要な治療や薬の確保 62.6%	災害情報を知らせてくれる 42.3%	避難場所でのきめ細かな支援 41.5%	避難所までの避難の支援 27.6%	避難時の声かけ 25.2%

8. 権利擁護などについて

1) 地域福祉権利擁護事業の認知度

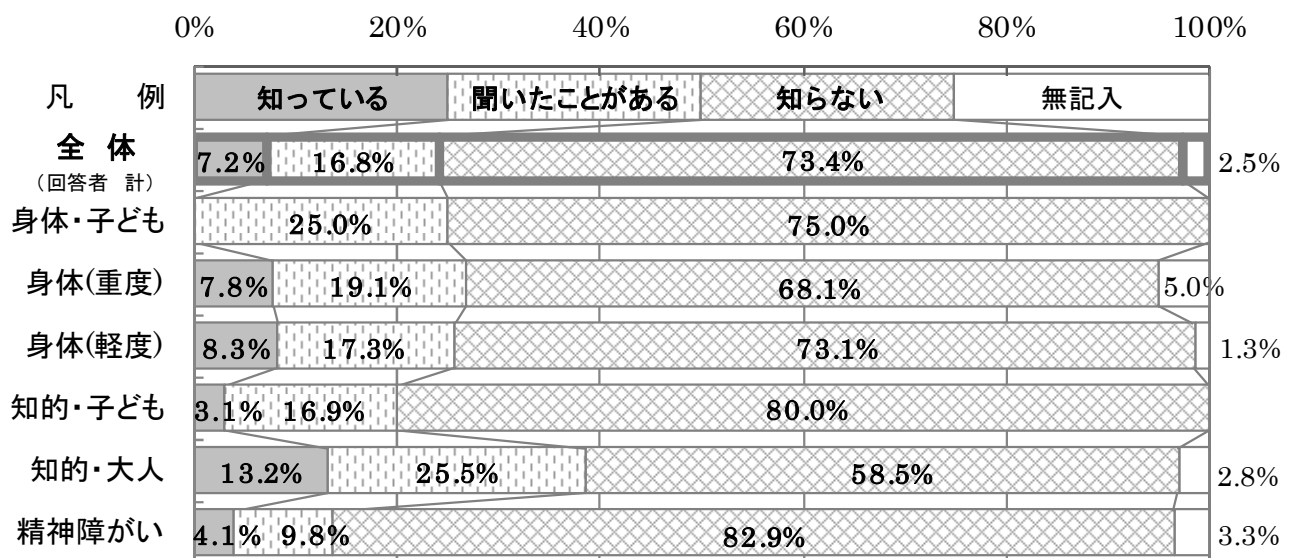


日常生活に不安のある高齢者や障がい者に対して、生活支援員が金銭管理や福祉サービス利用の相談等を行う“地域福祉権利擁護事業”については、「知らない」が 73.4%と最も多く、「知っている」は 7.2%、「聞いたことがある」は 16.8%となっている。

「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『認知度』は 24.0%となっている。

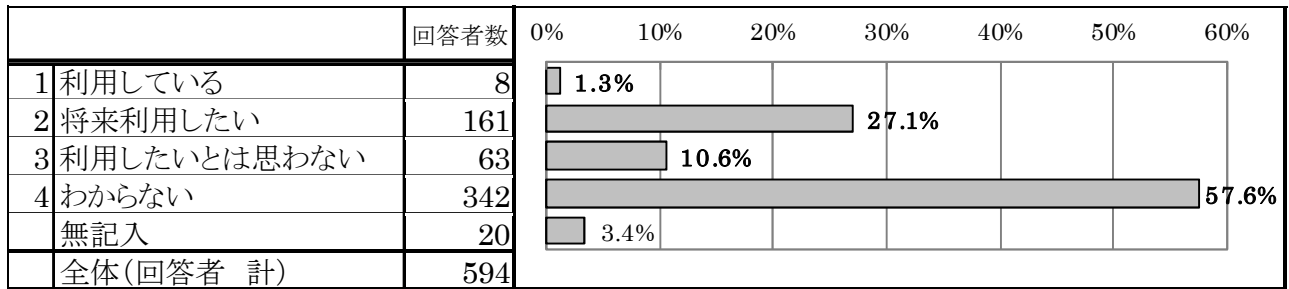
障がいの種別（年代別）でみると、『認知度』は、“知的・大人”が 38.7%と最も多く 4 割程度であり、次いで“身体（重度）”は 26.9%、“身体（軽度）”は 25.6%、“身体・子ども”は 25.0%、“知的・子ども”は 20.0%、“精神障がい”は 13.9%となっている。

《障がいの種別（年代別） 地域福祉権利擁護事業の認知度》



※身体・子どもの「知っている」「無記入」と、知的・子どもの「無記入」の 0.0%は省略

2) 地域福祉権利擁護事業の利用状況・利用意向

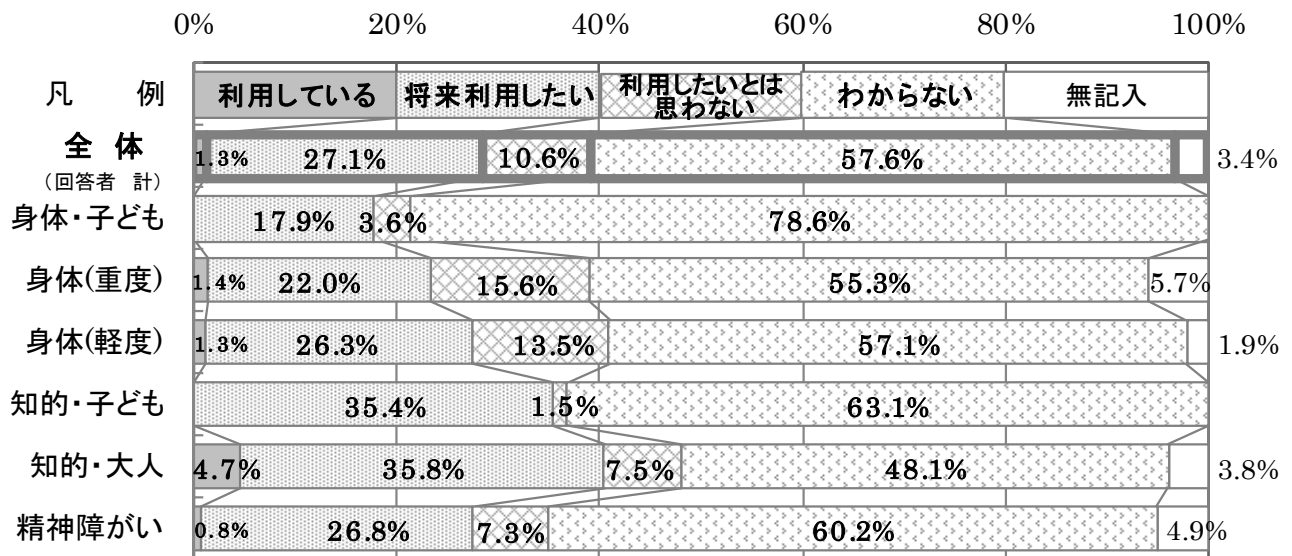


“地域福祉権利擁護事業”の利用については、「わからない」が57.6%と最も多く、「現在、利用している」は1.3%、「今は必要ないが、将来利用したい」が27.1%、「利用したいとは思わない」が10.6%となっている。

「現在、利用している」と「今は必要ないが、将来利用したい」を合わせた『利用意向』は28.4%となっている。

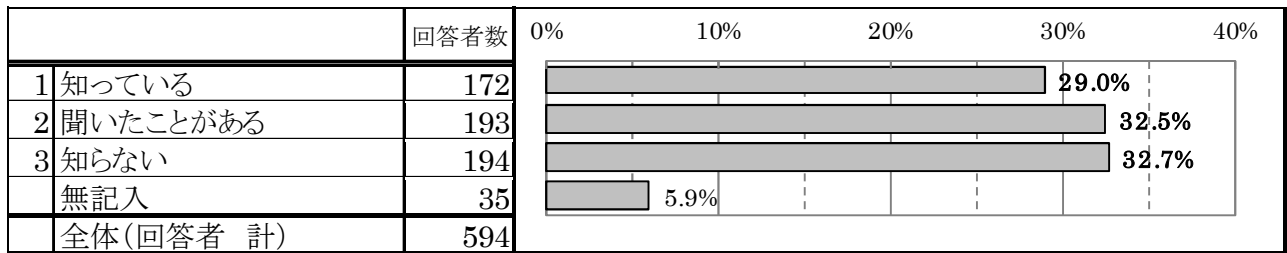
障がいの種別（年代別）でみると、『利用意向』は、“知的・大人”が40.5%と最も多く4割を超えており、“知的・子ども”は35.4%、“身体（軽度）”と“精神障がい”は27.6%、“身体（重度）”は23.4%、“身体・子ども”は17.9%となっている。

《障がいの種別（年代別） 地域福祉権利擁護事業の利用状況・利用意向》



※身体・子ども、知的・子どもの「利用している」「無記入」の0.0%は省略

3) 成年後見制度の認知度

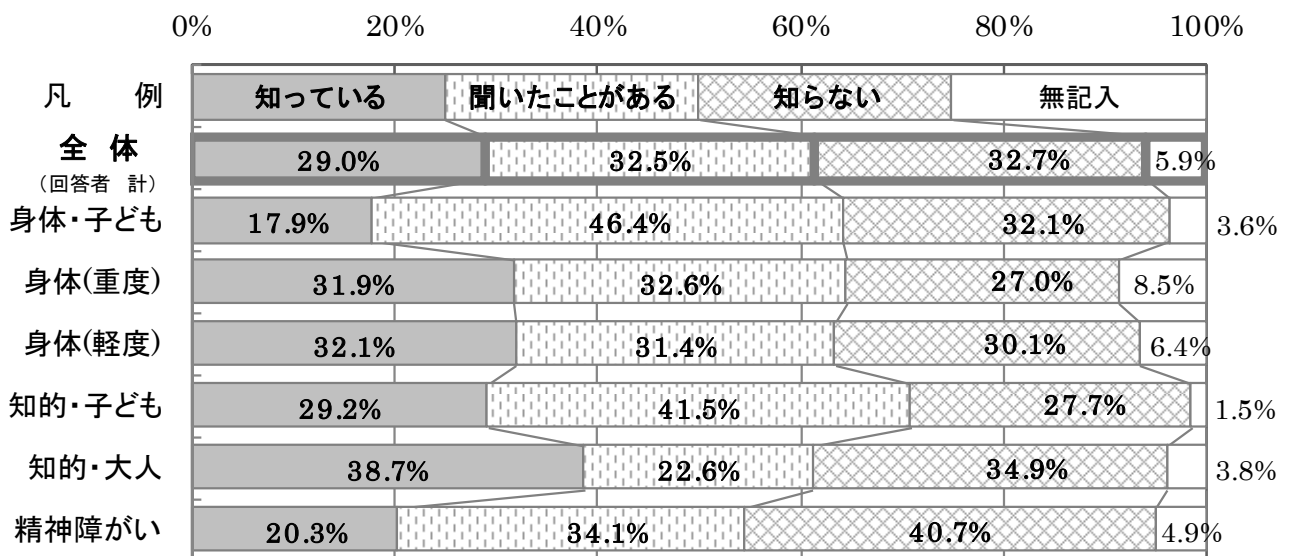


知的障がい、精神障がい、認知症などにより判断能力が十分でない方が不利益を受けないように家庭裁判所に申立てをして、その方を援助してくれる人を付ける“成年後見制度”は、「知らない」が32.7%と最も多く、「聞いたことがある」が32.5%、「知っている」が29.0%となっている。

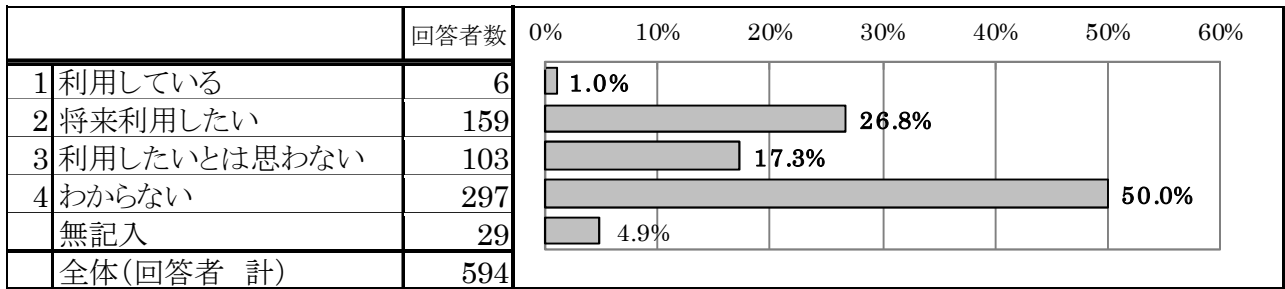
「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『認知度』は61.5%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、『認知度』は、“知的・子ども”が70.7%と最も多く7割を超えており、“身体（重度）”は64.5%、“身体・子ども”は64.3%、“身体（軽度）”は63.5%、“知的・大人”は61.3%、“精神障がい”は54.4%となっており、いずれも半数を超えている。

《障がいの種別（年代別） 成年後見制度の認知度》



4) 成年後見制度の利用状況・利用意向

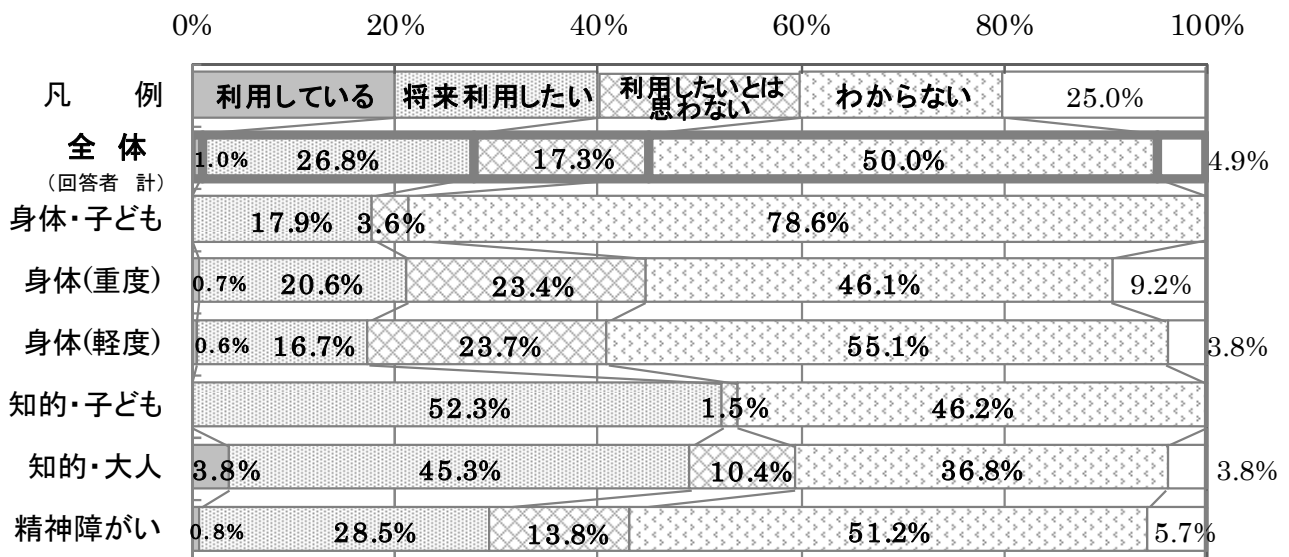


“成年後見制度”の利用については、「わからない」が 50.0%と最も多く、次いで「今は必要ないが、将来利用したい」が 26.8%、「利用したいとは思わない」が 17.3%、「現在、利用している」は 1.0%となっている。

「現在、利用している」と「今は必要ないが、将来利用したい」を合わせた『利用意向』は 27.8%となっている。

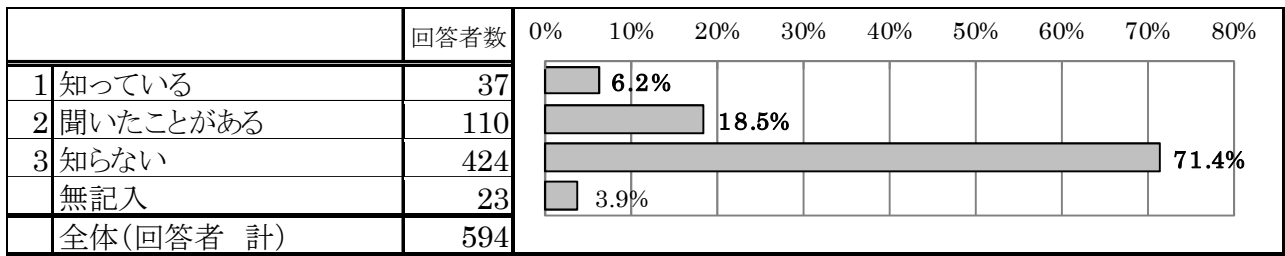
障がいの種別（年代別）でみると、『利用意向』は、“知的・子ども”が 52.3%と最も多く半数を超えており、“知的・大人”は 49.1%、“精神障がい”は 29.3%、“身体（重度）”は 21.3%、“身体・子ども”は 17.9%、“身体（軽度）”は 17.3%となっている。

《障がいの種別（年代別） 成年後見制度の利用状況・利用意向》



※身体・子ども、知的・子どもの「利用している」「無記入」の 0.0%は省略

5) 障害者虐待防止センター（虐待通報窓口）の認知度

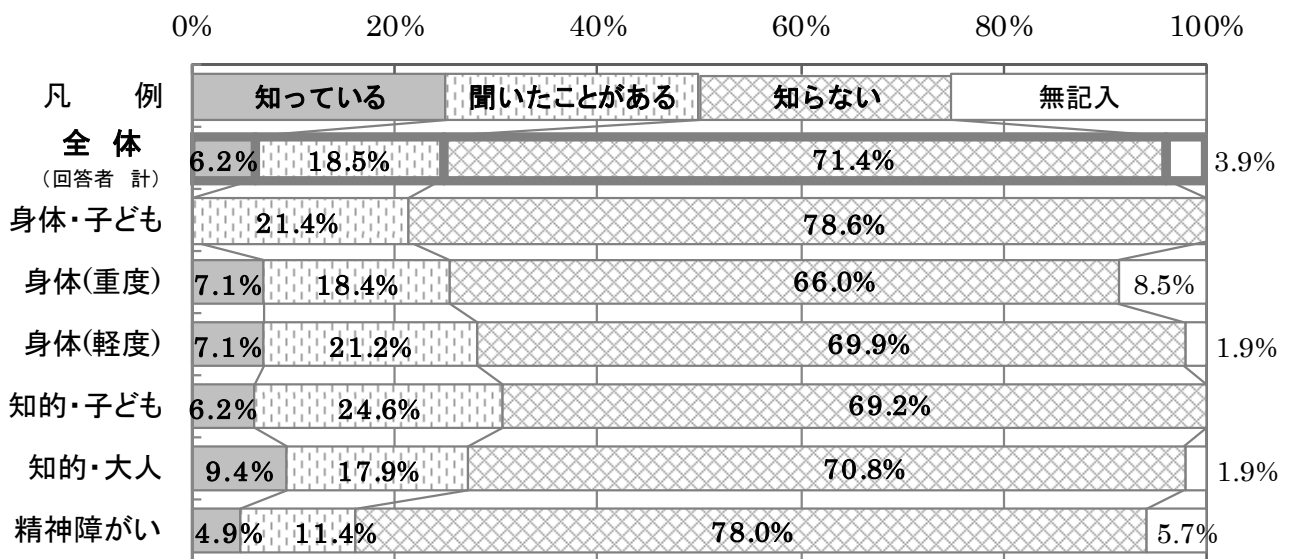


障がい者の権利擁護と養護者の支援の観点から、障がい者虐待について、相談・通報の連絡先として市役所内に設置している“障害者虐待防止センター（虐待通報窓口）”は、「知らない」が71.4%と最も多く、次いで「聞いたことがある」が18.5%、「知っている」が6.2%となっている。

「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『認知度』は24.7%となっている。

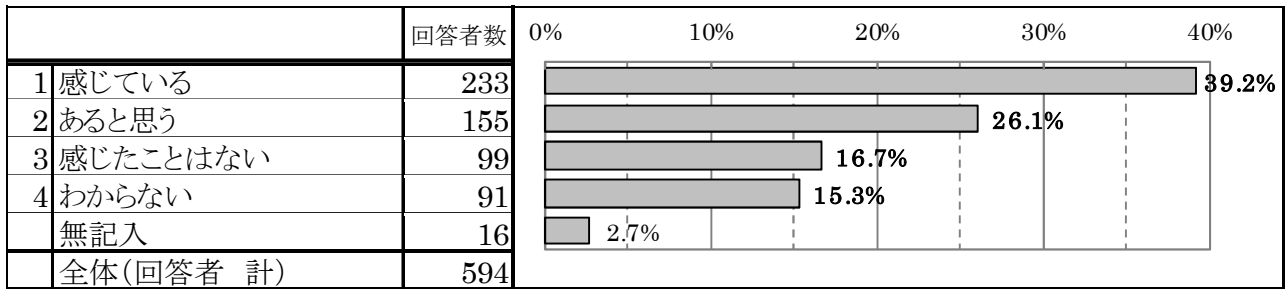
障がいの種別（年代別）でみると、『認知度』は、“知的・子ども”が30.8%と最も多く3割を超えており、“身体（軽度）”は28.3%、“知的・大人”は27.3%、“身体（重度）”は25.5%、“身体・子ども”は21.4%、“精神障がい”は16.3%となっている。

《障がいの種別（年代別） 障害者虐待防止センターの認知度》



※身体・子どもの「知っている」「無記入」と知的・子どもの「無記入」の0.0%は省略

6) 差別や偏見があるとの感覚

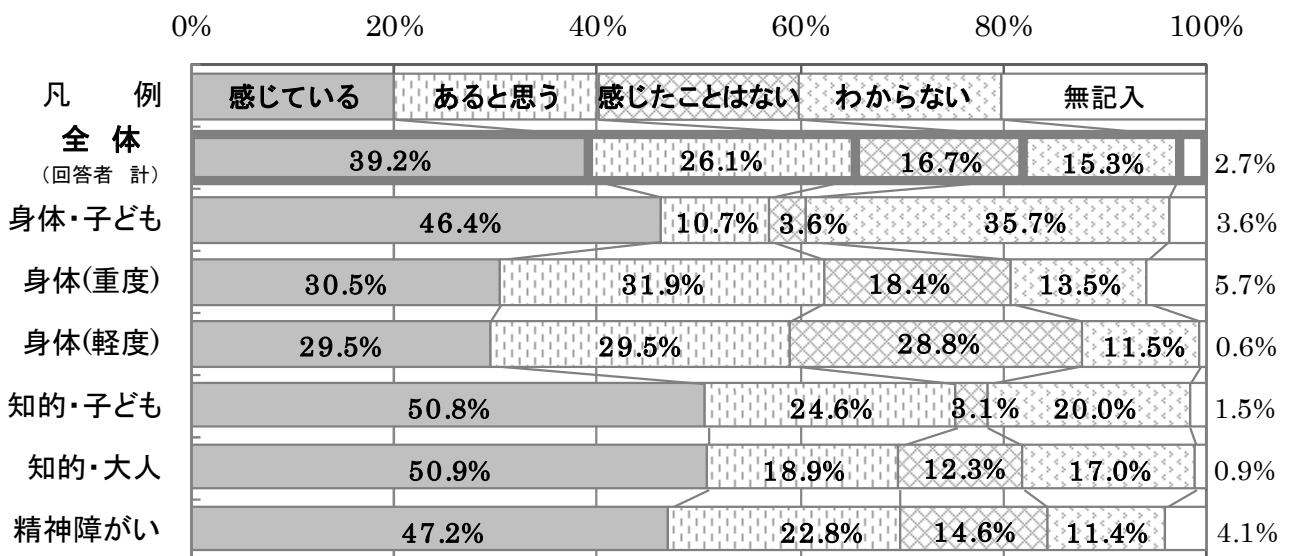


ふだんのくらしの中で、障がい者への差別や偏見について、「あると感じている（感じた）」が 39.2%と最も多く、次いで「感じたことはないが、あると思う」が 26.1%、「感じたことはない」が 16.7%、「わからない」が 15.3%となっている。

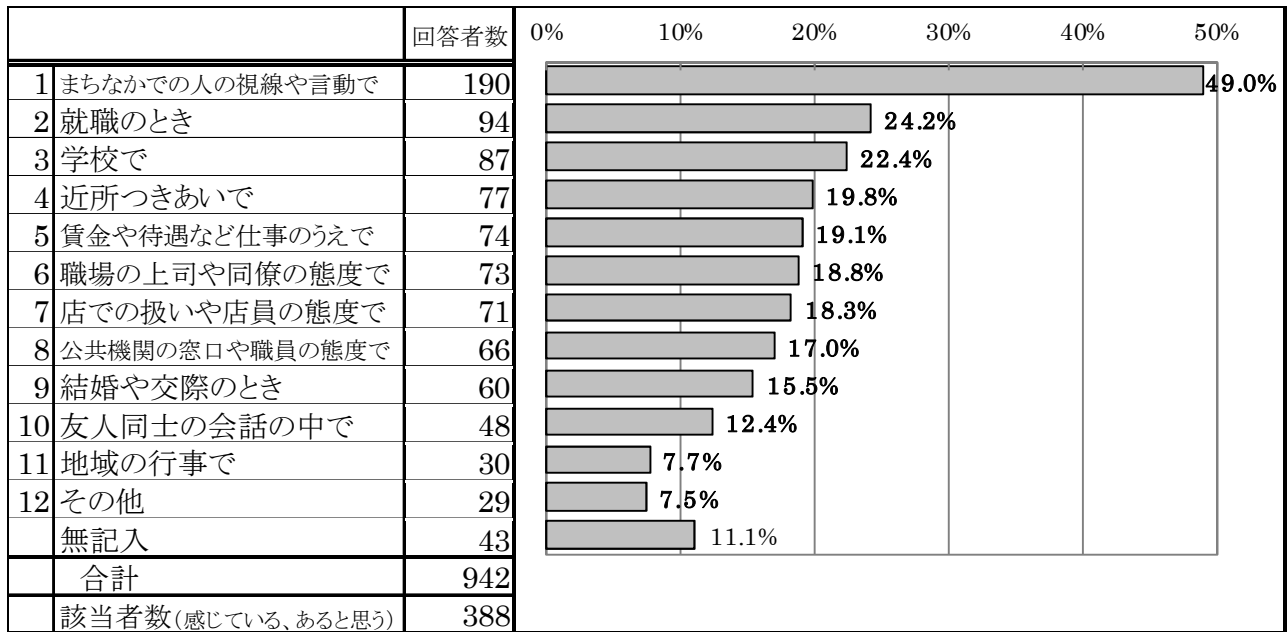
「あると感じている（感じた）」と「感じたことはないが、あると思う」を合わせた『ある』は 65.3%となっている。

障がいの種別（年代別）で見ると、『ある』は、“知的・子ども”が 75.4%と最も多く、次いで“精神障がい”が 70.0%と 7 割を超えており、“知的・大人”は 69.8%、“身体（重度）”は 62.4%、“身体（軽度）”は 59.0%、“身体・子ども”は 57.1%となっている。

《障がいの種別（年代別） 差別や偏見があるとの感覚》



7) 差別や偏見を感じる機会や場所（複数回答）



※その他の主な内容：医療機関で（6）、タクシーなどで（2）、地域生活支援センター、登下校時の子どもから など

障がい者への差別や偏見を「あると感じている（感じた）」と「感じたことはないが、あると思う」と答えた人の差別や偏見を感じる機会や場所（複数回答）は、「まちなかでの人の視線や言動で」が49.0%と最も多く、次いで「就職のとき」が24.2%、「学校で」が22.4%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、いずれも「まちなかでの人の視線や言動で」が最も多く、“知的・子ども”は69.4%と7割程度となっている。

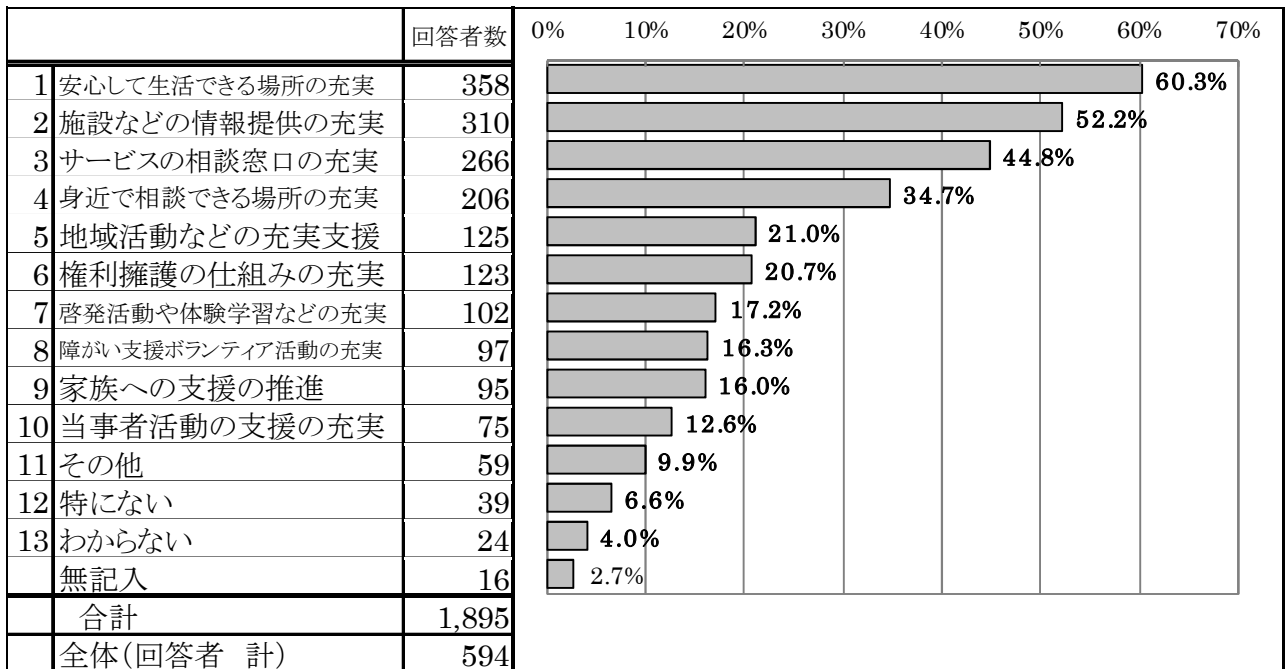
第2位は、「就職のとき」が、“精神障がい”は37.2%、“身体（軽度）”は33.7%となっている。また、「学校で」が“知的・子ども”は42.9%、“知的・大人”は32.4%となっている。“身体（重度）”は、「賃金や待遇など仕事のうえで」が26.1%となっている。

《障がいの種別（年代別） 差別や偏見を感じる機会や場所（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
該当者数 【該当者数=388】	まちなかでの人の視線や言動で 49.0%	就職のとき 24.2%	学校で 22.4%	近所つきあい で 19.8%	賃金や待遇など仕事のうえで 19.1%
身体（重度） 【該当者数=88】	まちなかでの人の視線や言動で 38.6%	賃金や待遇など仕事のうえで 26.1%	職場の上司や同僚の態度で 22.7%	公共機関の窓口や職員の態度で 21.6%	就職のとき／店での扱いや店員の態度で 18.2%
身体（軽度） 【該当者数=92】	まちなかでの人の視線や言動で 50.0%	就職のとき 33.7%	賃金や待遇など仕事のうえで 21.7%	職場の上司や同僚の態度で 20.7%	学校で 19.6%
知的・子ども 【該当者数=49】	まちなかでの人の視線や言動で 69.4%	学校で 42.9%	近所つきあい で 32.7%	友人同士の会話の中で／店での扱いや店員の態度で 20.4%	
知的・大人 【該当者数=74】	まちなかでの人の視線や言動で 47.3%	学校で 32.4%	店での扱いや店員の態度で 25.7%	近所つきあい で 23.0%	就職のとき 18.9%
精神障がい 【該当者数=86】	まちなかでの人の視線や言動で 41.9%	就職のとき 37.2%	近所つきあい で 29.1%	職場の上司や同僚の態度で／結婚や交際するとき 25.6%	

※身体・子ども【該当者数=16】は省略

8) 今後の生駒市の障がい福祉に望むこと（複数回答）



※その他の主な内容：働く場の確保など就労支援（8）、交通費等の補助充実（6）、入所・通所施設の充実（5）、市職員の意識改革・待遇改善（4）、バリアフリー化の推進（4）、経済的な支援（4）、医療機関の充実（3）、障がい者に対する理解促進（3）、障がい者福祉の充実（3） など

今後の生駒市の障がい福祉に望むこと（複数回答）は、「地域で安心して生活できる場所の充実」が 60.3%と最も多く、次いで「施設やサービスの内容についての情報提供の充実」が 52.2%、「サービスについての相談窓口（苦情の相談も含む）」が 44.8%となっている。

障がいの種別（年代別）でみると、“身体（軽度）”を除いていずれも「地域で安心して生活できる場所の充実」が最も多くなっている。“身体（軽度）”は、「施設やサービスの内容についての情報提供の充実」が63.5%と最も多くなっている。

次いで、“身体（軽度）”は、「地域で安心して生活できる場所の充実」が53.8%、“知的・大人”は、「身近で相談できる場所や人の充実」が45.3%となっており、「施設やサービスの内容についての情報提供の充実」は、“知的・子ども”が58.5%、“身体・子ども”が57.1%、“身体（重度）”が47.5%となっている。“精神障がい”は、「サービスについての相談窓口（苦情の相談も含む）」が51.2%となっている。

《障がいの種別（年代別） 障がい福祉に望むこと（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答者 計=594】	安心して生活 できる場所の 充実 60.3%	施設などの情 報提供の充実 52.2%	サービスの相 談窓口の充実 44.8%	身近で相談で きる場所の充 実 34.7%	地域活動など の充実支援 21.0%
身体・子ども 【該当者数=28】	安心して生活 できる場所の 充実 71.4%	施設などの情 報提供の充実 57.1%	サービスの相 談窓口の充実 53.6%	身近で相談で きる場所の充 実 32.1%	啓発活動や体 験学習などの 充実 17.9%
身体（重度） 【該当者数=141】	安心して生活 できる場所の 充実 54.6%	施設などの情 報提供の充実 47.5%	サービスの相 談窓口の充実 41.8%	身近で相談で きる場所の充 実 24.1%	障がい支援ボ ランティア活 動の充実 18.4%
身体（軽度） 【該当者数=156】	施設などの情 報提供の充実 63.5%	安心して生活 できる場所の 充実 53.8%	サービスの相 談窓口の充実 51.3%	身近で相談で きる場所の充 実 27.6%	地域活動など の充実支援 16.7%
知的・子ども 【該当者数=65】	安心して生活 できる場所の 充実 76.9%	施設などの情 報提供の充実 58.5%	身近で相談で きる場所の充 実 41.5%	サービスの相談窓口の充実／ 当事者活動の支援の充実 32.3%	
知的・大人 【該当者数=106】	安心して生活 できる場所の 充実 78.3%	身近で相談で きる場所の充 実 45.3%	施設などの情 報提供の充実 43.4%	サービスの相 談窓口の充実 37.7%	地域活動など の充実支援 36.8%
精神障がい 【該当者数=123】	安心して生活 できる場所の 充実 54.5%	サービスの相 談窓口の充実 51.2%	施設などの情 報提供の充実 50.4%	身近で相談で きる場所の充 実 47.2%	権利擁護の仕 組みの充実 20.3%

9. 自由記述

自由記述については、220 名が意見や要望、提案などを記述されている。
それらを分野別に整理した。分野ごとの主な意見は次の通りである。

① サービスの充実

- ・障がいサービスの維持・充実を。(6)
- ・放課後等デイサービスの充実。(6)
- ・同じような障害を持っている者同士の交流の場を。(4)
- ・精神障がい者に対する支援の充実を。(3)
- ・体力維持の取り組みを。(2)
- ・障がい者の立場にたった制度に。
- ・未就学児の移動手段を。
- ・自立に関する支援方策を。
- ・身体・知的・精神と発達障がいのそれぞれの障がい特性に応じた取り組みを。
- ・発達障がいに対する支援体制などの充実を。
- ・個人差があるので、サービスを使えないことがある。
- ・補装具は必要だから申請するのに、助成されないのはおかしい。
- ・重複障がいの場合のサービス内容を吟味してほしい。
- ・送迎のバスが来てくれる所までの送り迎えを。
- ・デイケアサービスを。
- ・施設への送迎に移動支援を使えるように。
- ・障がい者無料送迎バスを。
- ・障がい者のショートステイや入院時の付き添いを。
- ・障がい児がいる家庭における健常児への心のケアなどを考えてほしい。
- ・精神障がい者の保健福祉と作業所の両方が利用できるように。

② 施設の整備・充実

- ・親や介護者が亡き後に安心できるよう、入所施設の充実を。(41)
- ・障がい者用スポーツ施設（体育館・プール）を。(5)
- ・グループホーム・福祉ホーム・ケアホームの充実。(5)
- ・北部に重度障がい者施設を。(4)
- ・養護学校などの充実を。(3)
- ・身障者優先・専用の老人介護施設を。(2)
- ・通所施設・作業所の充実を。(2)
- ・現在の生活支援センターにレクリエーションの機能を。
- ・障がい者の入所を差別しない施設を。
- ・短期入所施設の充実を。
- ・障がい者が楽しく遊べる余暇施設を。

③ 教育環境の充実

- ・幼稚園や小学校での教師への加配増加を。(2)
- ・ろう学校などへの通学支援を。(2)
- ・支援学級在籍でもことばなどの支援を。
- ・病児にも配慮した学校運営のあり方を。
- ・子どもが発達する教育の場、教育能力の向上を。
- ・いろいろな体験ができる施設がほしい。

④ 経済的な支援の充実

- ・経済的な負担軽減・助成充実を。(12)
- ・タクシー券以外の交通費のサポートを。(6)
- ・軽度の障がい者にも医療費・交通費の補助を。(5)
- ・交通費の助成を元に戻して。(3)
- ・障害年金の見直し・充実を。(3)
- ・障害認定された者に対して年金を支給すべき。(2)
- ・給付券についてのわかりやすい説明・資料の送付を。
- ・特別児童扶養手当の増額を。
- ・習い事の費用免除や割引などを。
- ・福祉就労に対しての学割の適用などを。
- ・重度障がい者の医療費助成制度の継続を。
- ・働いているので障害年金の支給停止を受け、経済的に苦しい。悪循環である。
- ・再手術の高額医療費が不安。
- ・交通費の助成・割引の全国一律・統一化を。
- ・障がい者が同乗している場合は、高速料の減額を。

⑤ バリアフリーの推進

- ・障がい者の視点でのバリアフリーの推進、障がい者への配慮を。(8)
- ・駅などのバリアフリーの推進を。(2)
- ・道沿いにベンチやトイレを。
- ・福祉センターに洋式トイレを。
- ・市役所の各課に、障がい福祉課のようなイスを。
- ・たけまる号の車イス対応を。

⑥ 相談体制・情報提供の充実

- ・市職員の障がい者への理解促進、態度・接遇の改善を。(7)
- ・身近な相談窓口を。(4)
- ・利用できる障がい福祉サービスについての積極的な情報提供を。(4)
- ・個々に合ったサービスや相談窓口などに関する情報提供を。(4)
- ・障がいや障がい者・児に関してわかりやすい資料の提供を。(2)
- ・申請や支援などの手続きが大変。負担軽減を。(2)
- ・パソコン以外の情報の提供方法を。

- ・提出書類の提出は郵送や土・日での受付を。
- ・介護保険の説明会に通訳を。
- ・障害サービスなどの情報を一人ひとりに送付してほしい。
- ・社会経験と人生経験の豊かな精神保健福祉士の配置を。
- ・ごみ収集日など生活に必要な情報の音声化を。
- ・診断書の提出などに際して病院を紹介してほしい。
- ・出産や子育てに対する相談・アドバイスに関する情報の周知を。
- ・電話だけでなく、FAX やメールの連絡先を明記してほしい。

⑦ アンケートについて

- ・アンケートの封筒などに「障害福祉」を書かないでほしい。(4)
- ・アンケートは、重度精神障がい者のことについての配慮がない。
- ・アンケートの対象は、障がい者全員に。
- ・アンケート結果の活用を。
- ・アンケートに障がい者による親の介護についての配慮がない。

⑧ 障がい者への理解促進

- ・障がい者に対する理解の促進を。(8)
- ・ノーマライゼーション意識の普及・定着を。(4)
- ・障がい者にとっても住みやすい温かい市・地域に。(3)
- ・障がいのある方への偏見をなくすように。(3)
- ・見た目では分かりにくい障がいへの理解を。(2)
- ・偏見をなくすのはむずかしい。
- ・若年者に対する障がい者理解の取り組みの充実を。
- ・電車での障がい者に対する対応・マナーの改善を。

⑨ 就労支援の充実

- ・障がい者の雇用の場の充実を。(7)
- ・会社への補助ではなく本人への支給を。
- ・障がい者の就労の場への定期的な訪問を。
- ・市役所にも就労相談の窓口を。
- ・就労支援は、本当の意味での就労には結びついていない。

⑩ 障がいの認定・等級の見直しを

- ・障がいの判定が低すぎる。見えない部分なども判断してほしい。(5)
- ・手帳のカード化や色での識別化を。(2)
- ・介護保険になると生活が変わると思うので不安。(2)
- ・身障者手帳の定期的な更新を。
- ・障がいの等級の内容をもっと細かく。
- ・介護保険になると負担が大きい。根本的な改善を。
- ・事前に介護保険の要介護認定を受けたい。

⑪ 医療に関して

- ・障がいを理由に診療を拒否されない医療施設を。
- ・救急サービスの充実・改善を。
- ・医療機関や医師の充実を。
- ・自立支援医療受給者証をどの病院でも利用できるように。
- ・生活保護でも行きたい病院に行けるように。

⑫ その他

- ・災害時に備え、要援護者名簿の整備・活用を。(2)
- ・事業者の資質向上や指導の強化を。(2)
- ・入所施設の退園後が心配。
- ・今はいいが、1年後はどうなっているか不安。
- ・親を介護しながらの生活に不安。
- ・障がい者から学ぶべきことも多い。
- ・障がい者を介護する家族への支援を。
- ・団体の会員が減少しているので、勧誘などの協力をお願いしたい。
- ・障がい者支援団体に専門家などの支援を。



生駒市障がい者福祉計画に関する市民アンケート調査

皆様には、日頃から市政全般にわたり、ご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

生駒市では障がい福祉施策の一層の充実を図るため、障がい者福祉計画の見直しをすることになりました。

つきましては、この障がい者福祉計画を策定するにあたり、市民の皆様の保健福祉にかかわる生活状況や要望などを把握し、計画づくりに反映するためアンケート調査を行うことになりました。

このアンケート調査の対象は、生駒市にお住まいの各種障害者手帳をお持ちの方から無作為に選ばせていただきました。

ご多忙のところ、まことに恐縮ではございますが、本アンケート調査にご協力いただきますよう、よろしくお願いします。

平成 26 年 5 月

生駒市長 山下 真

ご記入にあたってのお願い

1. このアンケートにはお名前を記入する必要はありません。個人の秘密は守られますので、思ったことをありのままにご記入ください。お答えにくいところをご記入いただかなくてもかまいません。
2. 封筒のあて名の方について、回答してください。
あて名のご本人が 18 歳以上の場合は、ご本人が自分で記入していただくことを基本としますが、それがむずかしい場合は、ご本人の意向をうかがいながら、ご家族や介護者の方がご記入いただいてもかまいません。
あて名のご本人が 18 歳未満の場合は、保護者の方がご記入ください。
3. 視覚障がいの方でアンケートの回答の際、代読・代筆が必要な方は下記問い合わせ先にご連絡ください。市職員が訪問等により個別に対応させていただきます。
4. ご記入は、該当する番号に○印をつけてください。「その他」にあてはまる場合には、() 内に具体的な内容を記入してください。また、自由意見欄はご自由にご記入ください。
5. ご記入が終わりましたら、アンケート用紙は同封されている返信用封筒に入れて、**5 月 20 日 (火)** までにポストに投函してください。切手を貼る必要はありません。

この調査について、わからないことや質問がありましたら、下記までお問い合わせください。

問い合わせ先：生駒市役所 障がい福祉課

〒630-0288 生駒市東新町 8-38

TEL：0743-74-1111 FAX：0743-74-1600

1 ご本人のことについておたずねします。

問 1. ご本人の性別は。(○は1つだけ)

1. 男性

2. 女性

問 2. ご本人の年齢はおいくつですか。平成 26 年 4 月 1 日現在の年齢でお答えください。
(○は1つだけ)

1. 就学前(0～6 歳)

2. 小学生(7～12 歳)

3. 中学生(13～15 歳)

4. 高校生(16～18 歳)

5. 19～39 歳

6. 40 歳以上

問 3. お住まいの小学校区はどちらですか。(○は1つだけ)

1. 生駒北小学校区

2. 鹿ノ台小学校区

3. 真弓小学校区

4. あすか野小学校区

5. 生駒台小学校区

6. 俵口小学校区

7. 桜ヶ丘小学校区

8. 生駒小学校区

9. 生駒東小学校区

10. 生駒南小学校区

11. 壱分小学校区

12. 生駒南第二小学校区

13. 小学校区がわからない。(町名をお書きください)

_____ 町)

問 4. ご本人は、障害者手帳をお持ちですか。お持ちの手帳の種類すべてと手帳に書かれている障がいの程度に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 身体障害者手帳

1-1. 障がいの内容

1. 視覚障がい

2. 聴覚・平衡・音声・言語・そしゃくなどの障がい

3. 肢体障がい(体幹機能障がいを含む)

4. 心臓やじん臓などの内部障がい

1-2. 障がいの程度

1. 1 級

2. 2 級

3. 3 級

4. 4 級

5. 5 級

6. 6 級

2. 療育手帳

2-1. 障がいの程度

1. A

2. A1

3. A2

4. B

5. B1

6. B2

3. 精神障害者保健福祉手帳

3-1. 障がいの程度

1. 1 級

2. 2 級

3. 3 級

問 5. ご本人は、難病(特定疾患)の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

1. 受けている

2. 受けていない

問 6. ご本人は、発達障害の診断を受けていますか。(広汎性発達障害、学習障害など)
(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1. 受けている(疑いを含む) | 2. 受けていない |
|-----------------|-----------|

問 7. 18歳以上の方におたずねします。 現在、障害者総合支援法の障害程度区分(障害支援区分)の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 受けている | 2. 受けていない |
|----------|-----------|

→ 問 7-1. 障害程度区分は。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 区分 1 | 2. 区分 2 | 3. 区分 3 | 4. 区分 4 |
| 5. 区分 5 | 6. 区分 6 | | |

問 8. 40歳以上の方におたずねします。 現在、介護保険法の要介護認定を受けていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 受けている | 2. 受けていない |
|----------|-----------|

→ 問 8-1. 要介護認定は。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1. 要支援 1 | 2. 要支援 2 | 3. 要介護 1 | 4. 要介護 2 |
| 5. 要介護 3 | 6. 要介護 4 | 7. 要介護 5 | |

問 9. ご本人は、家族構成は次のどれですか。ご本人を中心にお答えください。なお、結婚されている場合は配偶者(夫・妻)も含むとご理解ください。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 一人暮らし(ご本人のみ) | 2. 夫婦(夫・妻)のみ |
| 3. 二世帯世帯(ご本人と子) | 4. 二世帯世帯(親とご本人) |
| 5. 三世帯世帯(ご本人・子・孫) | 6. 三世帯世帯(親・ご本人・子) |
| 7. 三世帯世帯(祖父母・親・ご本人) | |
| 8. ご本人と兄弟姉妹 | |
| 9. 施設や寮の職員や仲間 | |
| 10. その他(具体的に: _____) | |

問 10. ご本人が、現在住んでいるお住まいは。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 持ち家(家族や親族の持ち家も含む) | 2. 賃貸住宅 |
| 3. 市営住宅・県営住宅 | 4. グループホーム・ケアホーム |
| 5. 福祉ホーム | 6. 寮・社宅など |
| 7. 病院(1年以上の長期入院) | |
| 8. その他(具体的に: _____) | |

2 ご本人の日常生活についておたずねします。

問 11. ふだんの生活で支援を必要とされていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------------------|---------------|------------------|
| 1. 起床・就寝 | 2. 排泄 | 3. 洗顔・歯磨き |
| 4. 食事 | 5. 着替え | 6. 入浴 |
| 7. 屋内移動 | 8. 服薬 | 9. 外出 |
| 10. 買物 | 11. 見守り等の生活全般 | 12. 人とのコミュニケーション |
| 13. 家事(掃除・洗濯・料理) | 14. お金の管理 | 15. 情報の収集 |
| 16. 各種手続き関係 | | |
| 17. その他(具体的に: _____) | | |
| 18. 特に支援を必要とすることはない | | |

問 12. ふだん、主にご本人の支援や世話をされているのはどなたですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|----------------------|---------------|------------|
| 1. 親または祖父母 | 2. 配偶者(夫または妻) | 3. 兄弟姉妹 |
| 4. 子または子の配偶者 | 5. その他の親せき | 6. ボランティア |
| 7. 施設の職員 | 8. ホームヘルパー | 9. 近所の人・知人 |
| 10. その他(具体的に: _____) | | |
| 11. 特に支援や世話をされていない | | |

問 13. ご本人は、ふだんの日中、どのようにお過ごしですか。(○は1つだけ)

A. 学校などに通っている

1. 幼稚園・保育所に通っている
2. 通園施設(児童発達支援事業所を含む)に通っている
3. 特別支援学校に通っている
4. 小・中学校の特別支援学級に通っている
5. 小・中学校の普通学級、高校、大学、専門学校に通っている

B. 働いている

6. 会社や店などで働いている、または公務員をしている
7. 自分で事業・商売をしている
8. 家業を手伝っている
9. 自宅で内職をしている
10. 通所施設・作業所で働いている(就労移行支援・就労継続支援)

C. その他

11. 療養を中心とした生活をしている(入院、デイケア通所を含む)
12. 福祉施設(地域活動支援センター、生活介護を含む)に通っている
13. 家事や子育てなどを行っている
14. 特に何もしていない
15. その他(具体的に: _____)

問 14. ふだん、ご本人はどのような目的で外出されますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 通園・通学・通勤のため
2. 福祉施設や作業所に通うため
3. 買物などの日常的な用事のため
4. 病院での診察やデイケアに行くため
5. 市役所など公的な手続きのため
6. 趣味の活動やスポーツのため
7. グループ活動に参加するため
8. 友人と会ったり、遊んだりするため
9. 習いごとや塾などのため
10. 散歩で
11. その他(具体的に: _____)
12. 特に目的は決まっていない

問 15. ご本人は、ふだんどのくらいの割合で外出されますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2～4回程度 |
| 3. 週に1回程度 | 4. 月に1～2回程度 |
| 5. 年に数回程度 | 6. ほとんど外出しない |

問 16. ご本人が外出のとき、または外出しようとするときに困ることはどのようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. **電車・バスなどの利用が難しいこと**
2. まちなかの環境が**バリアフリーになっていないこと**
(段差や障がい物がある、音声案内や点字ブロック、案内表示が整備されていない など)
3. 利用できる**トイレが少ないこと**
4. **周囲の目が気になること**
5. **健康や体力面で不安がある、疲れやすいこと**
6. 一人では**他人とのコミュニケーションが難しいこと**
7. 人の多いところで**精神的に不安定になること**
8. 障がいや病気が原因で、**突発的な行動をすることがあること**
9. **外出の準備がたいへんなこと**
10. 交通ルールを理解していないなど、介護者や介助者が**本人から目を離せないこと**
11. **付き添いや介助者の確保が難しいこと**
12. **困ったときにどうしたらよいかわからないこと**
13. その他(具体的に: _____)
14. 特に困ることはない

問 17. ご本人の日常生活において困っていることや心配なことがありますか。

現在の困っていることと将来の心配、それぞれについてお答えください。(それぞれあてはまるものすべてに○)

	現在の 困っていること	将来の 心配
1. 生活費や収入が十分でないこと	1	1
2. 介護者や介助者がいない、十分でないこと	2	2
3. 健康状態が悪いこと	3	3
4. 障がいの程度がすすむこと	4	4
5. 住まいのこと	5	5
6. 必要な福祉サービスを受けられないこと	6	6
7. 職場や地域の人間関係のこと	7	7
8. 友人がいない、少ないこと	8	8
9. 学校の勉強についていけないこと	9	9
10. 学校の設備が不十分なこと	10	10
11. 家族の負担が大きいこと	11	11
12. 就職や進学のこと	12	12
13. 急病になったときのこと	13	13
14. 災害が起きたときのこと	14	14
15. その他(具体的に：)	15	15
16. 特になし	16	16

▶ 問 17-1. 問 17 で「11. 家族の負担が大きいこと」と回答された方におたずねします。
ご家族の負担の内容はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 通学(通園)や通院時の送迎	2. 障がいの重さや特性への対応が難しいこと
3. 長期休暇、土日、放課後の生活	4. 経済的な負担
5. 特定の家族にかかる介護や介助の負担	
6. 障がいに対する周囲の理解不足による精神的な負担	
7. その他(具体的に：)	

3 福祉サービスの利用についておたずねします。

問 18. ご本人は、現在、障害福祉サービス、地域生活支援事業または児童通所サービスを受けていますか。(○は1つだけ)

1. 受けている	⇒問 19 にお進みください。
2. 受けていない	⇒問 20 にお進みください。

問 19. 問 18 で「1. 受けている」と回答された方におたずねします。 次のどのサービスを受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 居宅介護（ホームヘルプ） | 2. 重度訪問介護 |
| 3. 行動援護 | 4. 同行援護 |
| 5. 短期入所 | 6. 生活介護 |
| 7. 就労継続支援A型 | 8. 就労継続支援B型 |
| 9. 就労移行支援 | 10. グループホーム（ケアホーム） |
| 11. 自立訓練（機能訓練・生活訓練） | 12. 児童発達支援 |
| 13. 放課後等デイサービス | 14. 日中一時支援 |
| 15. 移動支援 | 16. 福祉ホーム |
| 17. 地域活動支援センター | 18. 訪問入浴 |
| 19. 宿泊型自立訓練 | |

問 20. 問 18 で「2. 受けていない」と回答された方におたずねします。 受けていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 利用しなくても生活できるから | 2. 家族の介護や介助を受けているから |
| 3. 他人に家に入ってほしくないから | 4. 利用者負担（利用料金）が高いから |
| 5. 利用の手続きの仕方がわからないから | 6. 利用したいサービスがないから |
| 7. 送迎がないなど利用しにくいから | 8. サービスがあることを知らないから |
| 9. 入退院を繰り返しているから | 10. 以前に利用してよくない印象があるから |
| 11. サービスを利用することに気持ちが向かないから | |
| 12. その他（具体的に：_____） | |

問 21. ご本人が毎日生活を送るうえで、今後、特に必要な支援・サービスは次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. グループホーム・福祉ホーム・入所施設などの 生活や居住の場 |
| 2. 自宅などを訪問し、介護してくれる ホームヘルプサービス |
| 3. 生活介護・就労訓練・自立訓練・地域活動支援センターなどの 日中活動の場 |
| 4. 同行援護・行動援護・移動支援などの 外出するための支援 |
| 5. 短期入所や日中一時支援などの 緊急時の預かり支援 |
| 6. 放課後等デイサービス・児童発達支援などの 療育支援 |
| 7. 車いす・補聴器などの 補装具や福祉機器の普及や充実 |
| 8. 福祉サービスを利用するための 情報提供や身近な相談窓口 |
| 9. その他（具体的に：_____） |
| 10. 特にない |
| 11. わからない |

4 保健・医療についておたずねします。

問 22. ご本人の現在の通院状況（リハビリを含む）は、次のどれですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|----------------|-----------------------|------------------|
| 1. 1 か月に 2 回以上 | 2. 1 か月に 1 回程度 | 3. 2～3 ヶ月に 1 回程度 |
| 4. 半年に 1 回程度 | 5. 年に 1 回または数年に 1 回程度 | |
| 6. 入院中 | 7. 定期的に通院していない | |

問 23. 医療を受ける上で困っていることはありますか。（○は主なものを 3 つまで）

- | |
|--------------------------------|
| 1. 医療費の負担が大きいこと |
| 2. 通院費（交通費）の負担が大きいこと |
| 3. 通院のための移動手段が困難であること |
| 4. 入院中の付き添いがないこと |
| 5. 専門的な治療ができる病院が近くにないこと |
| 6. 障がいや理由として治療が受けにくいこと |
| 7. 意思の疎通が困難（手話、要約筆記など）なこと |
| 8. 障がいや病気が原因で、突発的な行動に出ることがあること |
| 9. その他（具体的に：_____） |
| 10. 特に困っていることはない |

5 就労支援についておたずねします。

問 24. ご本人は、収入を得る仕事を継続もしくは今後したいとお考えですか。（○は1つだけ）

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 今の仕事を続けたい | 2. 新しい仕事をしたい |
| 3. 仕事はしたくない、もしくはできない | 4. 今のところわからない |
| 5. その他（具体的に：_____） | |

問 25. ご本人は、障がい者の就労支援としてどのようなことが必要だと思いませんか。（○は主なものを 3 つまで）

- | |
|------------------------------------|
| 1. 通勤手段が確保できること |
| 2. 職場におけるバリアフリー等が配慮されること |
| 3. 短時間勤務や勤務日数等の勤務体制が配慮されること |
| 4. 職場の上司や同僚の障がい者への理解があること |
| 5. 職場で介助や援助等が受けられること |
| 6. 就労後のフォロー体制など、職場と支援機関の連携が取れていること |
| 7. 企業のニーズにあった就労訓練が受けられること |
| 8. 仕事について、職場外で気軽に相談できる場所があること |
| 9. その他（具体的に：_____） |
| 10. 特にない |
| 11. わからない |

6 相談支援や情報についておたずねします。

問 26. ご本人は、悩みごとや心配ごとがあるとき、どなた（どこ）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1. 家族や親せき | 2. 友人や知人 |
| 3. 職場の上司や同僚 | 4. 通園施設・保育所・幼稚園・学校の先生 |
| 5. かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など | |
| 6. 通所施設・地域活動支援センター | |
| 7. 生活支援センター | 8. 市役所・保健所 |
| 9. 社会福祉協議会 | 10. 民生委員・児童委員 |
| 11. こどもサポートセンター | 12. 障がい者団体や家族会 |
| 13. 地域包括支援センター・ケアマネージャー | |
| 14. その他（具体的に：_____） | |
| 15. 相談する人（ところ）がない | |
| 16. 相談したいとは思わない | |

問 27. ご本人は、福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 市・県の広報誌 | 2. 市のホームページ |
| 3. パソコンやスマートフォン | 4. テレビ、ラジオ、新聞、雑誌 |
| 5. 生活支援センター・相談支援専門員 | 6. 障がい者団体・支援団体 |
| 7. 学校、職場、施設 | 8. 民生委員・児童委員 |
| 9. 医療機関の医師・看護師・ケースワーカー・指導員など | |
| 10. 障がい者相談員 | 11. サービス提供事業所（ヘルパー事業所） |
| 12. 家族、親せき | 13. 友人や知り合い |
| 14. その他（具体的に：_____） | |
| 15. 情報を得ていない | |
| 16. わからない | |

7 災害時の避難などについておたずねします。

問 28. 災害時におけるご本人の状況についておたずねします。

① 一人で避難できますか。（○は1つだけ）

- | | | |
|--------|---------|----------|
| 1. できる | 2. できない | 3. わからない |
|--------|---------|----------|

② 周囲の人に居場所を知らせることができますか。（機器などによる通知を含む）
（○は1つだけ）

- | | | |
|--------|---------|----------|
| 1. できる | 2. できない | 3. わからない |
|--------|---------|----------|

③ 近所に助けてくれる人がいますか。（○は1つだけ）

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. いる | 2. いない | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

問 29. 災害発生時にご本人が支援してほしいことは何ですか。(○は主なもの 3 つまで)

1. 災害情報を知らせてくれること
2. 必要な治療や薬を確保してくれること
3. 避難場所や避難路を教えてくれること
4. 避難時に声をかけてくれること
5. 避難所までの避難を支援してくれること
6. 避難場所で障がいに応じたきめ細かな支援をしてくれること
7. 手話などコミュニケーション手段を確保してくれること
8. 避難場所の設備をバリアフリー化すること
9. その他（具体的に：_____）
10. 特にない、思いつかない

8 権利擁護などについておたずねします。

問 30. ご本人は、次の制度についてご存じですか。また利用したいと思いますか。

- ① 日常生活に不安のある高齢者や障がい者に対して、生活支援員が金銭管理や福祉サービス利用の相談等を行う『**地域福祉権利擁護事業**』について。(○は1つだけ)

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない

- ② 『**地域福祉権利擁護事業**』の利用について。(○は1つだけ)

1. 現在、利用している 2. 今は必要ないが、将来利用したい
3. 利用したいとは思わない 4. わからない

- ③ 精神上的の障がい（知的障がい、精神障がい、認知症など）により判断能力が十分でない方が不利益を受けないように家庭裁判所に申立てをして、その方を援助してくれる人を付けてもらう『**成年後見制度**』について。(○は1つだけ)

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない

- ④ 『**成年後見制度**』の利用について。(○は1つだけ)

1. 現在、利用している 2. 今は必要ないが、将来利用したい
3. 利用したいとは思わない 4. わからない

- ⑤ 障がい者の権利擁護と養護者の支援の観点から、障がい者虐待について、相談・通報の連絡先として市役所内に設置している『**障害者虐待防止センター（虐待通報窓口）**』について。(○は1つだけ)

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない

問 31. ご本人は、ふだんのくらしの中で、障がい者への差別や偏見があると感じますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. あると感じている(感じた) | 2. 感じたことはないが、あると思う |
| 3. 感じたことはない | 4. わからない |

→ 問 31-1. 問 31 で差別や偏見があると回答された方におたずねします。差別や偏見をどのような機会や場所で感じますか(感じましたか)。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 学校で | 2. 就職のとき |
| 3. 賃金や待遇など仕事のうえで | 4. 職場の上司や同僚の態度で |
| 5. 結婚や交際するとき | 6. 友人同士の会話の中で |
| 7. 近所つきあいで | 8. 地域の行事で |
| 9. まちなかでの人の視線や言動で | 10. 店での扱いや店員の態度で |
| 11. 公共機関の窓口や職員の態度で | |
| 12. その他(具体的に: _____) | |

問 32. ご本人は、今後の生駒市の障がい福祉についてどのようなことが望めますか。
(○は主なもの 5 つまで)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 地域で安心して生活できる場所の充実 |
| 2. サービスについて相談窓口(苦情の相談も含む)の充実 |
| 3. 施設やサービスの内容についての情報提供の充実 |
| 4. 身近で相談できる場所や人の充実 |
| 5. 障がい者理解のための啓発活動や体験学習などの充実 |
| 6. 自分の権利を守る権利擁護の仕組みの充実 |
| 7. 当事者同士の活動の支援の充実 |
| 8. 親の会・家族会など家族への支援の推進 |
| 9. 障がい者にかかわるボランティア活動の充実 |
| 10. 障がい者が参加しやすい地域活動やレクリエーションなどの充実支援 |
| 11. その他(具体的に: _____) |
| 12. 特にない |
| 13. わからない |

9 障がい福祉について、ご意見などをご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。5月20日（火）までに同封の封筒に入れ、切手を貼らずにポストに入れてください。

平成 26 年

発 行 ／ 生駒市

(障がい福祉課)

〒630-0288 奈良県生駒市東新町 8 番 38 号

TEL 0743-74-1111 (代)